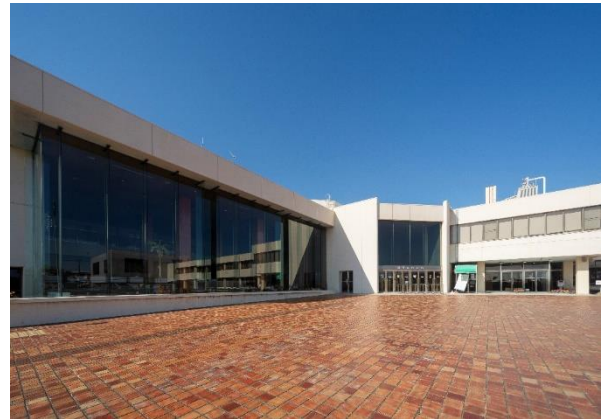


# 社会教育4施設のあり方



図書館



市民会館



生命の海科学館



博物館

令和3年11月  
蒲郡市教育委員会



# 社会教育4施設のあり方

I 「図書館」 将来ビジョン

II 「市民会館」 将来ビジョン

III 「生命の海科学館」 将来ビジョン

IV 「博物館」 将来ビジョン



# I 「図書館」 将来ビジョン

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的        | 1  |
| 第2章 図書館の現状・課題の整理          |    |
| (1) 施設の概要                 | 1  |
| (2) 運営形態                  | 5  |
| (3) 運営の特徴                 | 5  |
| (4) 建物・設備面の状況と課題分析        | 5  |
| (5) 運営・施設の規模における状況と課題分析   | 6  |
| (6) 利用状況から分かる現状と課題        | 8  |
| 第3章 図書館に求められる市民ニーズ        |    |
| (1) 社会教育施設アンケート           | 10 |
| (2) 市民・利用者のご意見（グループヒアリング） | 14 |
| (3) 市民ニーズの分析・整理           | 16 |
| 第4章 図書館の「目指すべき姿」          | 17 |
| 第5章 目指すべき姿の実現に向けて         | 18 |

## 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的

現代社会は、人口減少や少子高齢化の進展、地方創生やSDGsへの取組の推進、デジタル情報通信技術(ICT)の進展、人工知能(AI)やビッグデータの活用など超スマート社会(Society5.0)への取組やDX(デジタルトランスフォーメーション)の広がりなど大きな転換期を迎えている。

このような状況下では、公共が運営する図書館においても、利用ニーズがより多様化・高度化してきており、これまでの図書館にない機能や役割が求められている。近年では、様々な自治体において、新たな図書館に向けた取組が進んできている。

また、図書館の運営にあたっては、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年文部科学省告示第172号)」において、市町村立図書館は、その設置目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的運営の方針を策定し、公表するよう努めるものと規定されている。

本市においても家族形態の変化、働き方の多様化などにより、市民のライフスタイルも変わりつつあるなか、市民の学びの場であり、「知の拠点」である図書館が果たすべき役割や機能、求められるニーズも大きく変化していくことが見込まれる。そのような中、蒲郡市立図書館は昭和44(1969)年7月に開館し、建設から50年以上が経過しており、愛知県内の公立の中央図書館の中では、最も築年数が古い図書館となるなど、施設全体の老朽化も進んでいる。

これらの社会状況の変化に伴うニーズや施設・設備面の課題などを踏まえ、市立図書館の機能を充実させること、さらなる市民サービスや利用者の満足度の向上を図ることを目指すうえで、本市における図書館の将来ビジョンをここに策定するものである。

## 第2章 図書館の現状・課題の整理

### (1) 施設の概要

昭和44年に開館し、昭和54年、昭和59年に増築を行い、現在の施設体制となる。現在の図書館の機能を大きく分けると、一般開架コーナー(一般室)、学生室、郷土資料室、児童室、ブラウジングルーム、展示室などに分けられる。

#### ① 一般室(開架コーナー)(2階 544.4 m<sup>2</sup>)

一般図書、雑誌、視聴覚資料が配架されている場所。配架場所以外には、レファレンスサービス、インターネット検索 PC 設置等のカウンター周辺のエリア、ソファ設置の閲覧エリアの「軽読書コーナー」、自主学習等で利用する「一般学習コーナー(座席数:28席)」などがある。

#### ② 学生室(2階184.14m<sup>2</sup>)

図書の閲覧、調べもの、自主学習で利用する部屋で、座席数は88席。学生室の一角には飲食コーナーを設置している。

③ 郷土資料室(2階 51.2 m<sup>2</sup>)

愛知県内の史実などの事柄について調べられるように、郷土資料が一括して収蔵されている部屋。利用の際は、カウンターで手続きを行い、職員同行のもと、入室が可能となっている。

④ 児童室(1階 217.91 m<sup>2</sup>)

児童図書が設置されており、45セットの児童用座席が設置されている。部屋の一角をカーテンで仕切り、読み聞かせのコーナーとして利用している。

⑤ ブラウジングルーム(1階 87.16 m<sup>2</sup>)

新聞、雑誌が閲覧できるエリアで、椅子やソファが設置されており、気軽に市民がくつろげる空間となっている。

⑥ 展示室(1階 64.0 m<sup>2</sup>)

企画展や催事を実施する部屋となっており、絵画、ポスター等が飾られている。



外観①



外観②



一般室



軽読書コーナー



学生室



児童室



ブラウジングルーム



展示室

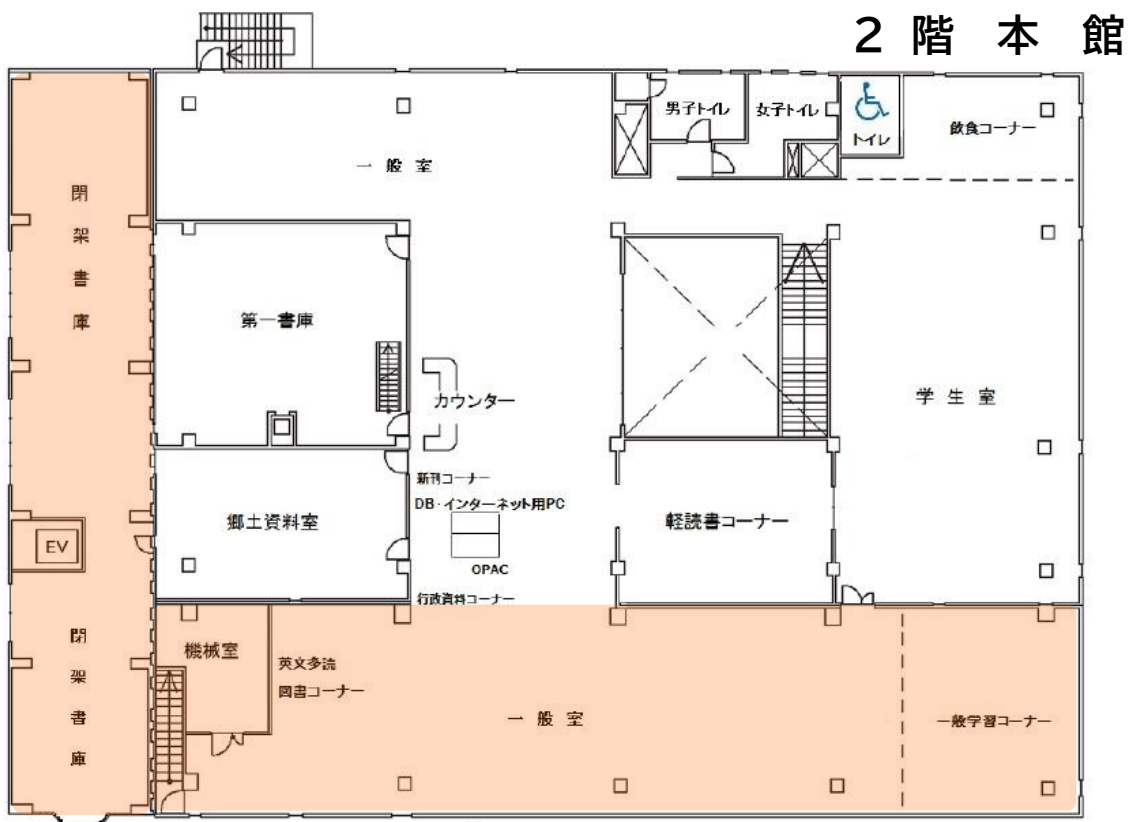
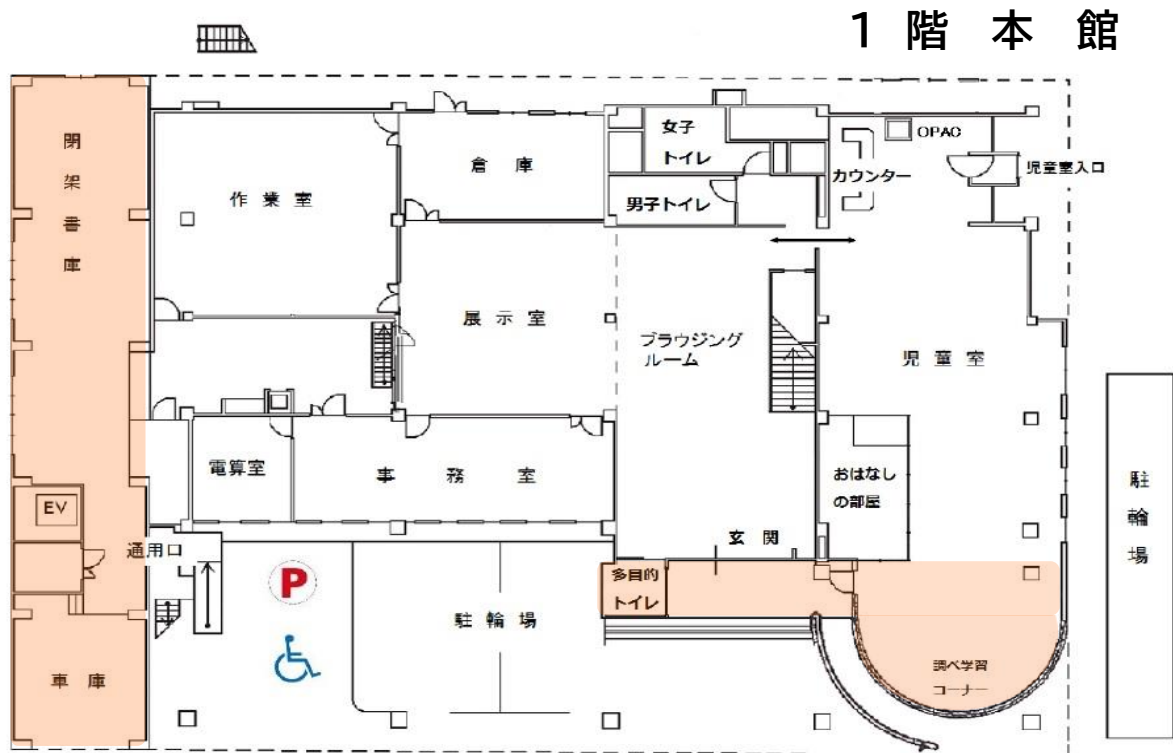
## 【蒲郡市立図書館の現況（面積・資料数）】 【令和3年3月31日現在】

| 場 所  | 部屋区分      | 面積 (㎡)          |          | 資料数(冊)         |
|--|-----------|-----------------|----------|----------------|
| 1階   | 児童室       | 217.91          |          | <b>25,953</b>  |
|  | 玄関        | 30.60           | 車椅子トイレ含む |                |
|  | ブラウジングルーム | 87.16           |          |                |
|  | 展示室       | 64.00           |          |                |
|  | 倉庫        | 36.80           | 現況:展示準備室 |                |
|  | 作業室       | 79.98           |          |                |
|  | トイレ       | 36.80           |          |                |
|  | 事務室       | 79.58           | 電算室含む    |                |
|  | 休憩室       | 37.20           |          |                |
|  | 計         | <b>670.03</b>   |          |                |
| 2階   | 一般室       | 544.40          |          | <b>76,376</b>  |
|  | 郷土資料室     | 51.20           |          |                |
|  | 学生室       | 184.14          | 車椅子トイレ含む |                |
|  | トイレ       | 30.60           |          |                |
|  | 第一書庫      | 74.40           |          | <b>19,168</b>  |
|  | 計         | <b>884.74</b>   |          |                |
| 閉架書庫   |           | <b>360.78</b>   | 車庫含む     | <b>138,275</b> |
| 地下   |           | <b>71.32</b>    | 電気室・空調室  |                |
| 合 計  |           | <b>1,986.87</b> |          | <b>259,772</b> |
| 自転車 駐輪場:3か所  |           | 駐車場 :89台        |          |                |
| ※ 別館(旧看護専門学校):平成31年取り壊し<br>(別館内に設置の金沢ヒューマン文庫は、蒲郡南部小学校内に移設) |           |                 |          |                |

図書収蔵能力:250,000 冊      データ収蔵能力:1,200,000 冊



【蒲郡市立図書館：平面図】



※平面図の白地エリアは、開館当初の建物形態。赤地エリアが、増築(昭和54・59)により拡大した施設部分。

## (2) 運営形態

開館から平成20年度までは、市直営で運営しており、平成21年度から指定管理者制度を導入している。現在、特定非営利活動法人ブックパートナーを委託業者とし、図書館本館、及び6カ所の分室の運営を実施している。指定管理期間は、令和2年度から6年度までの5年間。

## (3) 運営の特徴

## ① レファレンス業務(※)の充実

現在の図書館の正規職員(ブックパートナー雇用の職員)は、16人中15人が図書館司書の資格を有し、またパートタイム職員(同上)においても、6名中2人が司書の資格を有している。

調べものや本の専門家といえる図書館司書が、レファレンスサービスを行うことで、スムーズにかつ、より深い学習のお手伝いができるため、レファレンス業務に優れているといえる。

また、「レファレンス協同データベース」(※)事業より、平成24年度から令和2年度まで9年連続で国立国会図書館から御礼状をいただいております。しばしばマスコミにもレファレンス業務について取り上げられることもある。

※レファレンス業務とは…、

利用者が知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すためのご案内をして、資料提供や情報提示により調べもののお手伝いをするサービス業務のこと。

※レファレンス協同データベースとは…、

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べもののためのデータベースであり、毎年、レファレンス事例を多く登録している図書館が表彰されている。

## ② ボランティア団体の活動

読み聞かせ等のボランティア団体の活躍も目立っており、市民全体で図書館運営に参画している。平成30年度には、「金沢ヒューマン文庫を愛し守る会」が、小学校や介護施設での読み聞かせや朗読会の活動が評価され、愛知県ボランティア活動功労者表彰を受けている。

## (4) 建物・設備面の状況と課題分析

施設の耐震状況については、建物の増築部分(4頁 平面図赤地部分)以外においてIS値(※)が「0.51」であり、耐震性能がやや不足している。

※IS値とは、建物の耐震性能を表すための指標。Is値が0.6以上の建物であれば、

震度約6～7程度の地震に対し、倒壊または崩壊する危険性が低い。

IS値0.3以上…地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある。

0.3未満…地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い。

施設設備上の観点では、空調設備の不具合や、雨漏りする場所が複数箇所あるなど、全体的に老朽化が著しい。また、エレベーター設備は増築時に設置されたため、利用時には図書館職員の対応が必須な配置となっており、障がい者や高齢者等への一定の配慮はあるもののバリアフリーの観点からは、充分とはいえない状況である。

特に、空調設備については、修繕対応により維持更新してきたが、令和3年6月に開館当初部分(4頁 平面図白地部分)の空調設備が修繕対応不可能な状況となり、該当部分の全面的な設備更新を行っている。

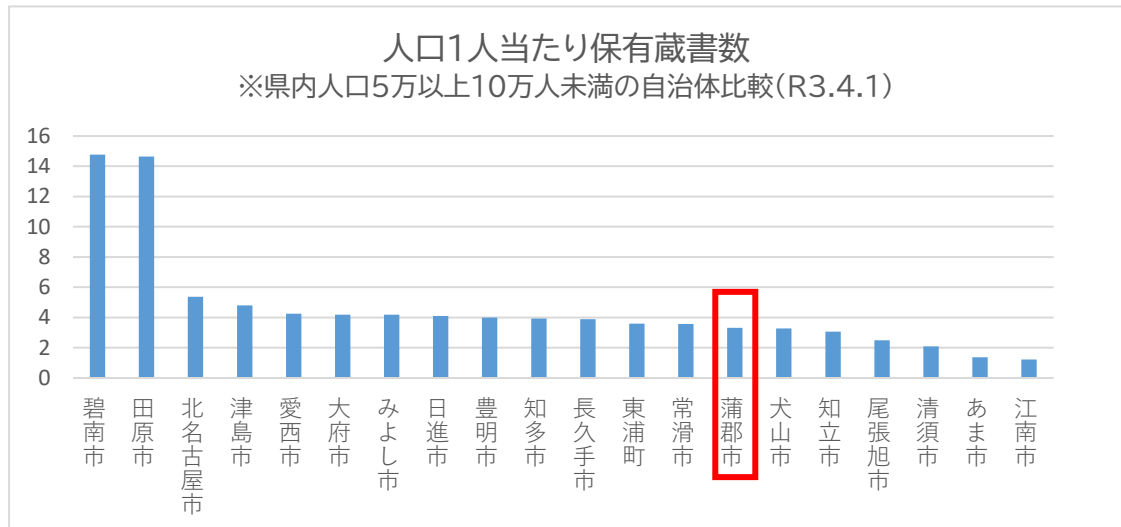
また、図書館に隣接し、その一部を図書館の別館として活用していた旧看護専門学校を、老朽化に伴い解体したことで、ボランティア団体等の市民が集う用途の集会スペースがなくなったり、閉架図書のための閉架スペースが狭くなったりなど、図書館機能に影響が出ている。現在、閉架図書の一部は清田受水場の3階空きスペースに、金沢ヒューマン文庫は蒲郡南部小学校に一時的に移動するなど、施設規模についての課題もある。

(5) 運営・施設の規模における状況と課題分析

公益社団法人日本図書館協会「2021年度図書館調査」のデータに基づき、県内同規模程度(人口5万人以上10万人未満)の自治体と比較(以下「自治体比較」という)等を行い、図書館運営・施設規模に関する現状と課題を整理した。

① 図書館の蔵書数について

現在、本市の図書館の蔵書数は約26.4万冊である。1人当たり蔵書数について自治体比較をすると、本市は20自治体中14番目(人口規模は8番目)である。また、当該自治体における平均値をもとに本市の人口を照らし合わせると、蔵書数は約36.6万冊となることから、やや蔵書数が不足しているといえる。

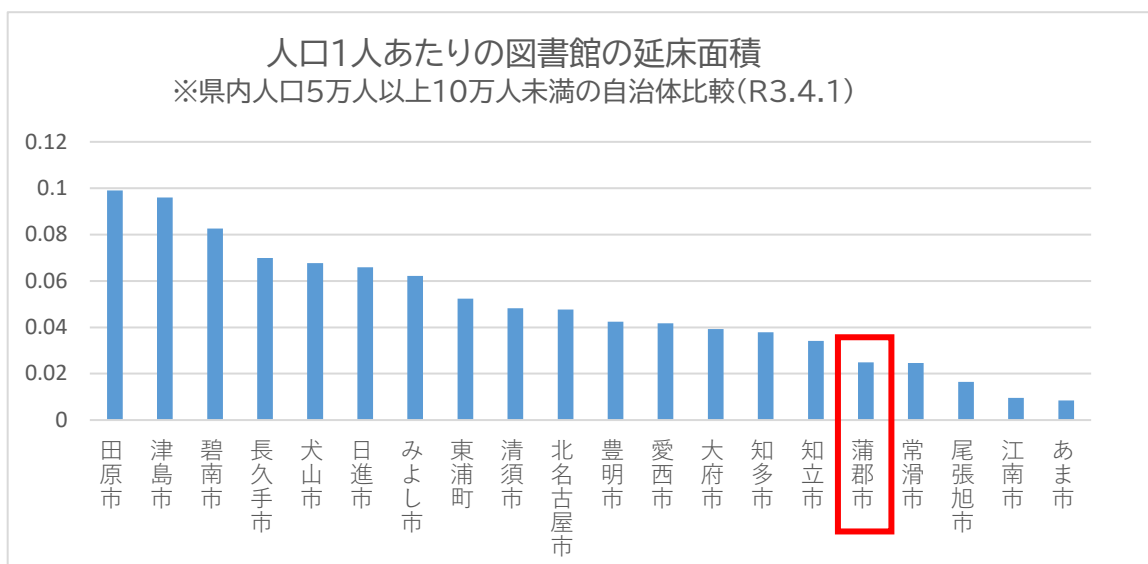


【参考】当該自治体における平均値 4.6067 冊/人。R3.4.1 時点の蒲郡市の人口(79,558 人)で換算。⇒  $79,558 \text{ 人} \times 4.6067 \text{ 冊/人} \doteq 366,500 \text{ 冊}$

なお、蔵書に関しては、ICTの進展に伴う「電子書籍」の整備も全国的に広がりつつあり、本市においては令和4年2月より導入を行っていく予定である。

② 図書館の延床面積について

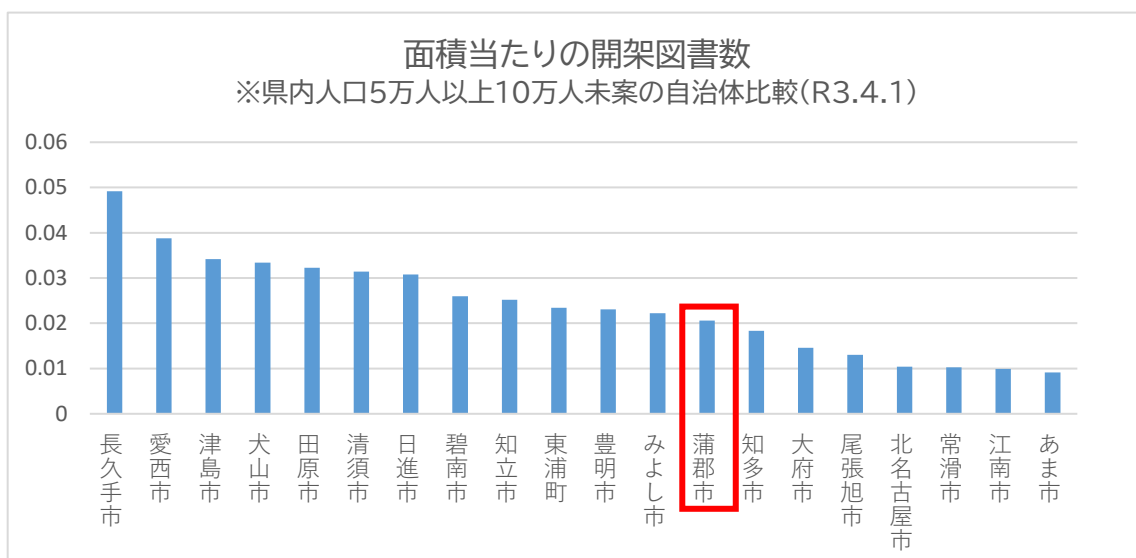
本市図書館の延床面積が1,986.87㎡である。過去2度の増築を行っているが、構造的に抜本的なレイアウト変更をしたわけではないため、面積値以上に運営効率が悪くなっている部分も感じられる。なお、1人当たり延床面積について、自治体比較をすると、本市は20自治体中16番目であり、また当該自治体における平均値をもとに本市の人口を照らし合わせると、延床面積は約3,858㎡となり、現状の本市図書館の延床面積はかなり手狭な状況といえる。



【参考】当該自治体における平均値 0.0485 m<sup>2</sup>/人。R3.4.1 時点の蒲郡市の人口(79,558 人)で換算 ⇒  $79,558 \text{ 人} \times 0.0485 \text{ m}^2/\text{人} \div 3,858.56 \text{ m}^2$

③ 開架図書に関するスペースについて

本市の開架書庫スペース(762.31m<sup>2</sup>)については、書架間隔が狭隘になっているなど、開架・閉架書庫ともに書架スペースに余裕がなく、収容能力が不足している状態である。図書館面積あたりの開架図書数について、自治体比較をすると本市は20自治体中13番目であり、また当該自治体における平均値をもとに本市の現有開架図書数を照らし合わせると、開架図書スペースは約2,291m<sup>2</sup>となることから、本市図書館の開架図書スペースは、大幅に不足している状況といえる。



【参考】当該自治体における平均値 0.0238 m<sup>2</sup>/冊。R3.4.1 時点の蒲郡市の開架図書数(96,259 冊)で換算 ⇒  $96,259 \text{ 冊} \times 0.0238 \text{ m}^2/\text{冊} \div 2,290.96 \text{ m}^2$

④ 書架の間隔について

日本図書館協会をはじめとする様々な報告によると、車椅子同士のすれ違いを考慮した「身体障がい者のための利用環境」や、「サービスを行う施設・設備」等の観点から、書架間隔は1.8m以上の有効幅が望ましいとされている。

なお、本市図書館では約1.5mであることから、この点においても運営上の課題があるといえる。図書館の延床面積の拡大や構造の抜本的な見直しを図り、収容能力の効率化や書架間隔1.8m以上の確保による開放感のある空間作りやバリアフリーに適した施設とする必要がある。

## (6) 利用状況から分かる現状と課題

### ① 利用者の推移

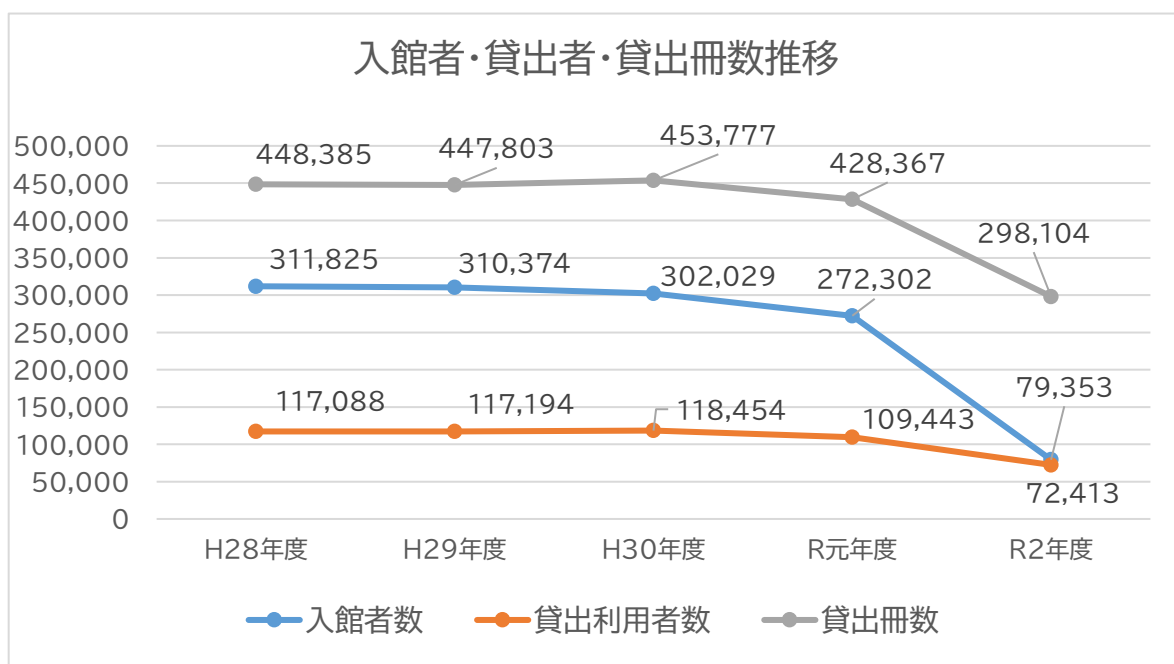
図書館の入館者数は下に示すように、年間約30万人に対して、図書資料の貸出者数は年間約12万人である。なお、令和元年度(以降)は、新型コロナウイルス感染症の影響での休館もあり減少している。

コロナ禍以前の入館者数と貸出者数には差異があることから、入館者の中には書籍等の貸出利用の用途だけでなく、学生室やブラウジングルームなどの利用をする人が多数いることが推察される。コロナ禍(特に令和2年度)においては、たびたび入場制限(臨時休館含む)を余儀なくされ、学生室やブラウジングルーム等の利用中止などに伴い、入館内容としてはほぼ図書資料の貸出利用となっている。なお、令和2年度の利用状況からも、普段図書館を利用する多くの市民が貸出以外の用途でも来館していることが分かる。

#### 【利用状況の推移等(本館のみ)】

|        | H28年度   | H29年度   | H30年度   | R元年度    | R2年度    |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 入館者数   | 311,825 | 310,374 | 302,029 | 272,302 | 79,353  |
| 貸出利用者数 | 117,088 | 117,194 | 118,454 | 109,443 | 72,413  |
| 貸出冊数   | 448,385 | 447,803 | 453,777 | 428,367 | 298,104 |
| 開館日数   | 293     | 293     | 294     | 272     | 158     |

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月以降、臨時休館あり



## ② 年齢別貸出冊数状況

下のグラフは、平成28年度から令和2年度までの5年間にわたり年齢別の貸出冊数を示したものである。

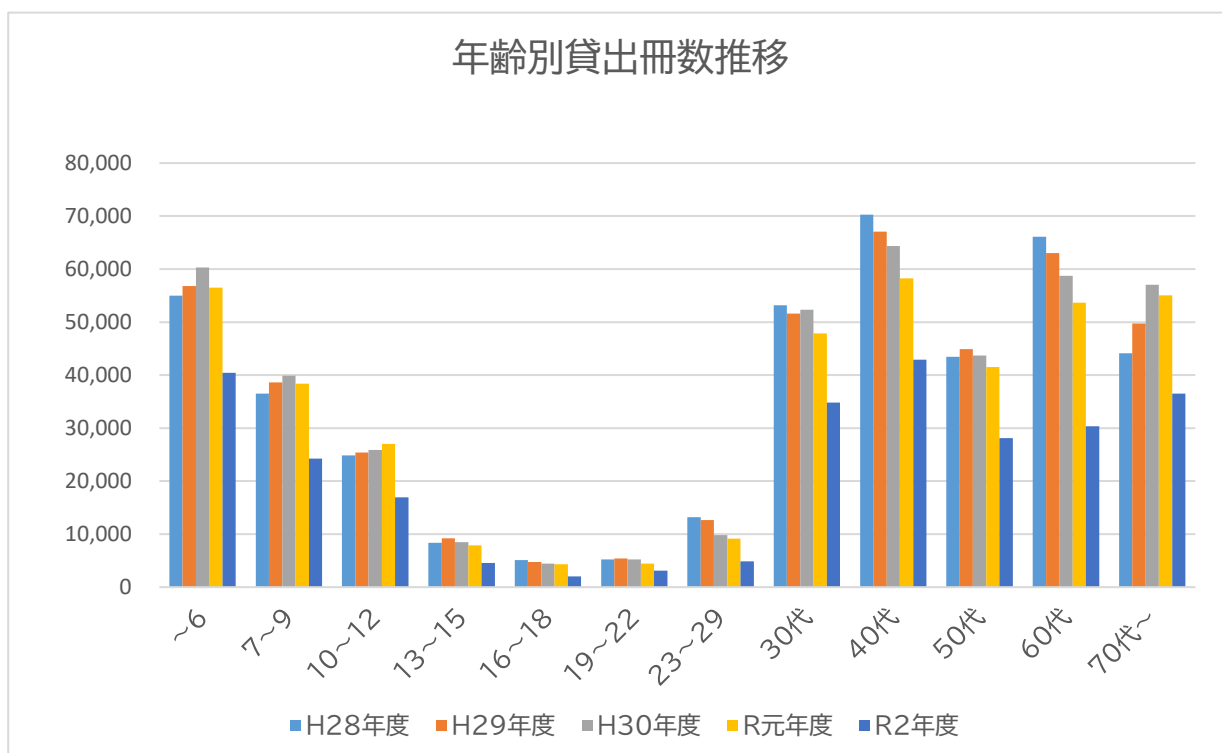
### 【親子(子育て世代)利用における課題】

年代別に見ると、図書資料の貸出実績は6歳以下(未就学)や小学生児童(7～9, 10～12歳)区分が非常に高いことがわかる。特に未就学児や小学生低学年児童については、親子での図書館利用が非常に多いことが推察される。

しかしながら、授乳室や子ども用トイレなどの設備機能がないため、当該利用者に対する利便性は低いといえる。

### 【中学生～大学生(若者世代)利用における課題】

中学生(13～15歳)・高校生(16～18歳)・大学生(19～22歳)の区分は他の年代区分よりも図書の貸出冊数が極端に少ない。年代としては20代が最も少なく、この世代への読書の推進をどのように図っていくかが大きな課題となる。



### 第3章 図書館に求められる市民ニーズ

#### (1) 社会教育施設アンケート

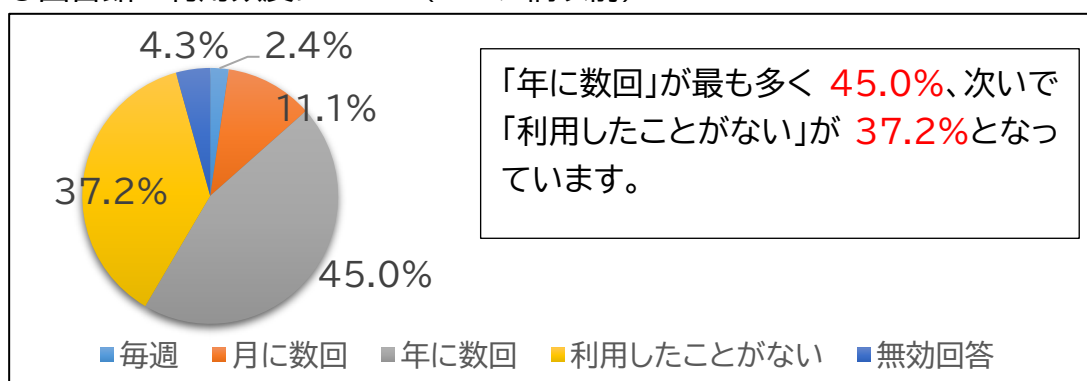
市民ニーズを把握する一環として、下記のとおり市民アンケートを実施した。

##### ① 実施概要

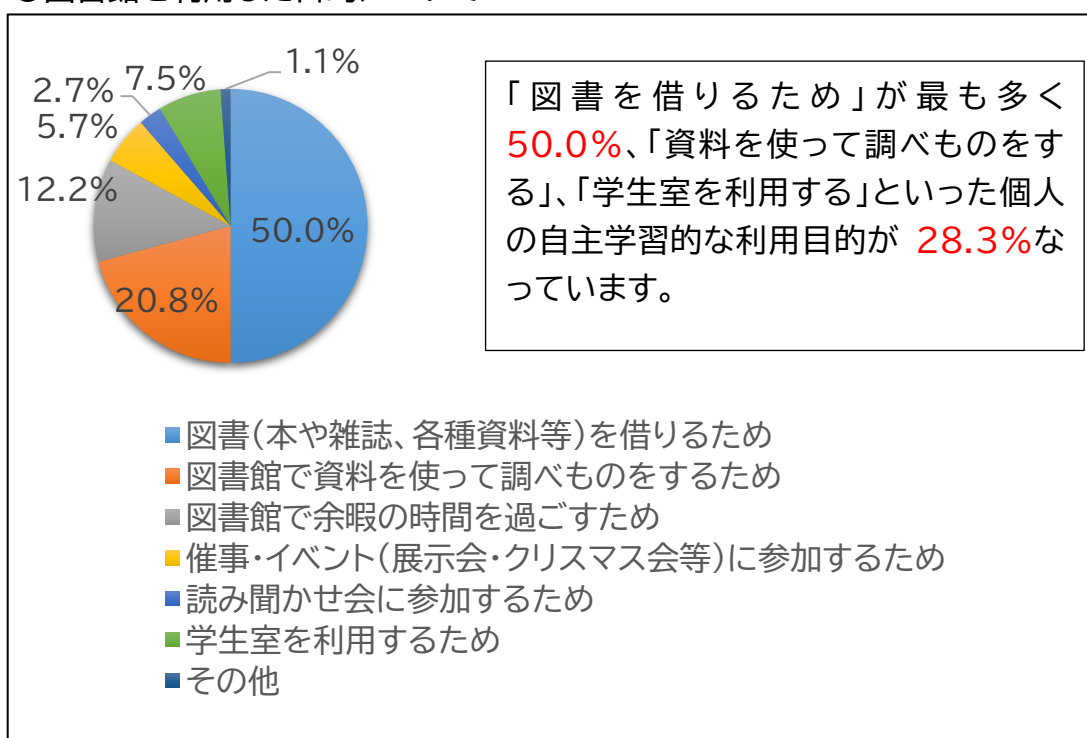
調査対象者 蒲郡市民から1,500人を無作為抽出  
 調査実施期間 令和2年12月23日から令和3年1月14日  
 回収数及び率 602件、40.1%

##### ② アンケート結果

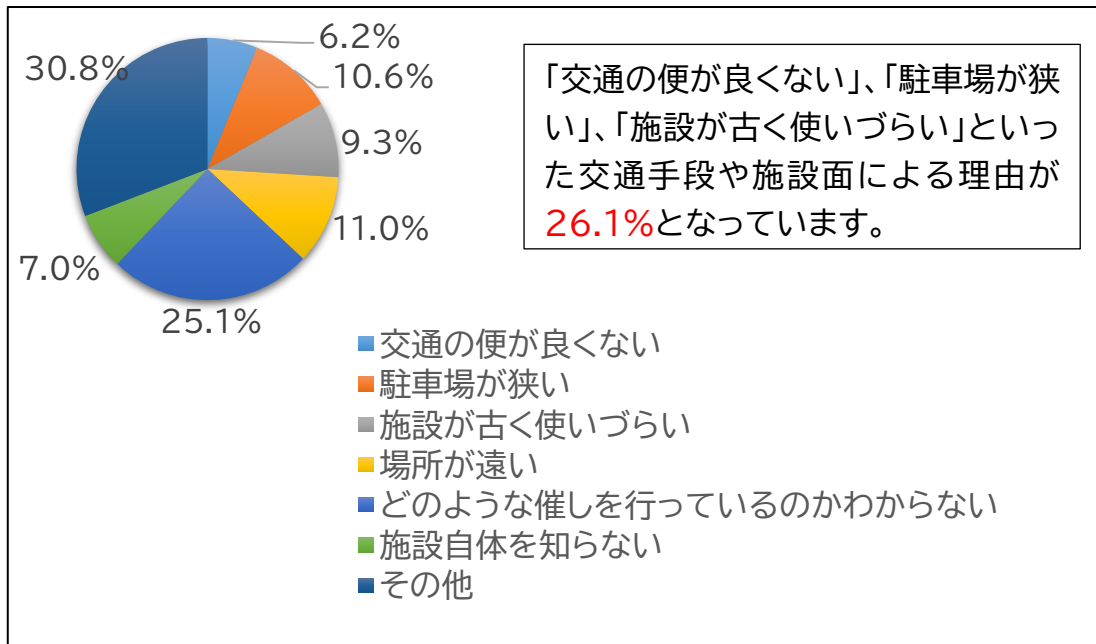
###### ●図書館の利用頻度について(コロナ禍以前)



###### ●図書館を利用した目的について

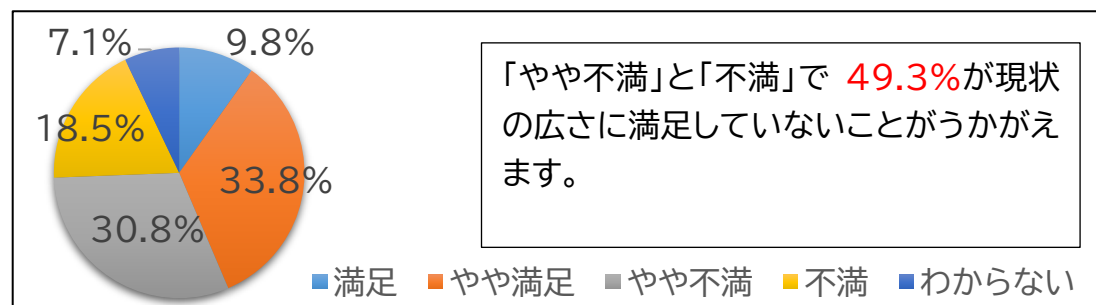


●図書館を利用しなかった理由について

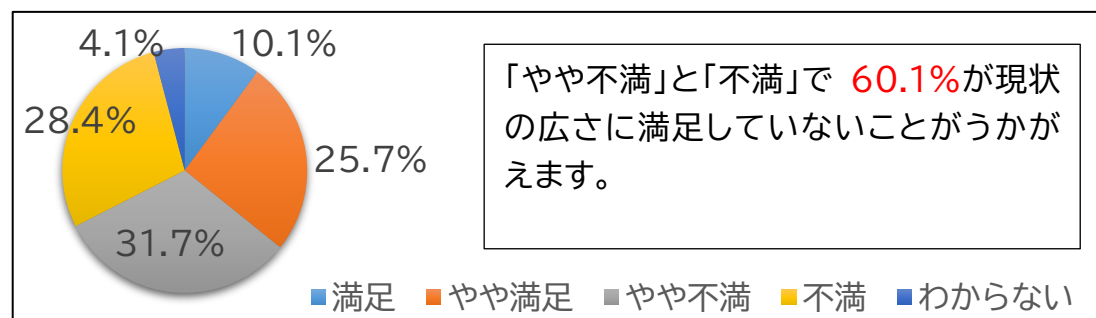


●現在の図書館に対する満足度について

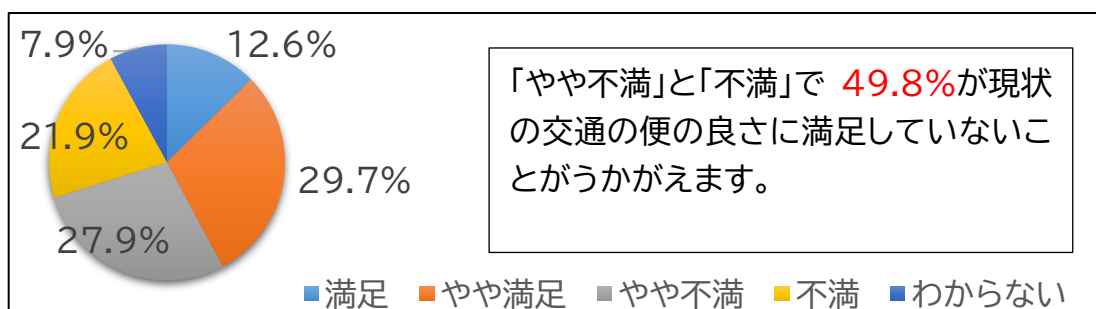
(ア)図書館の広さ



(イ)駐車場の広さ

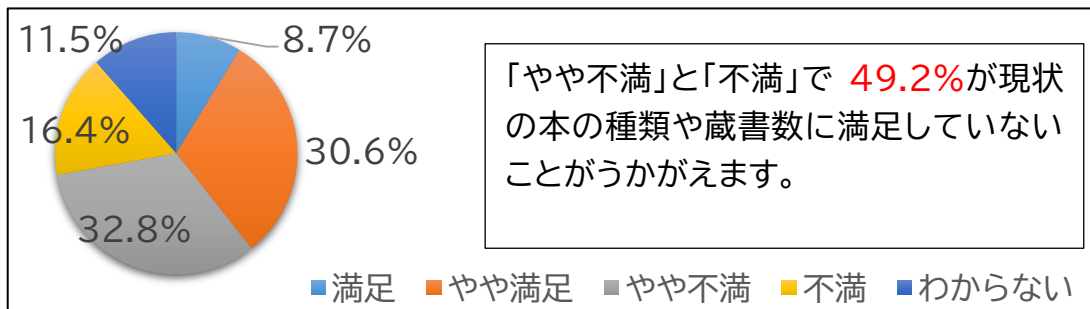


(ウ)交通の便の良さ

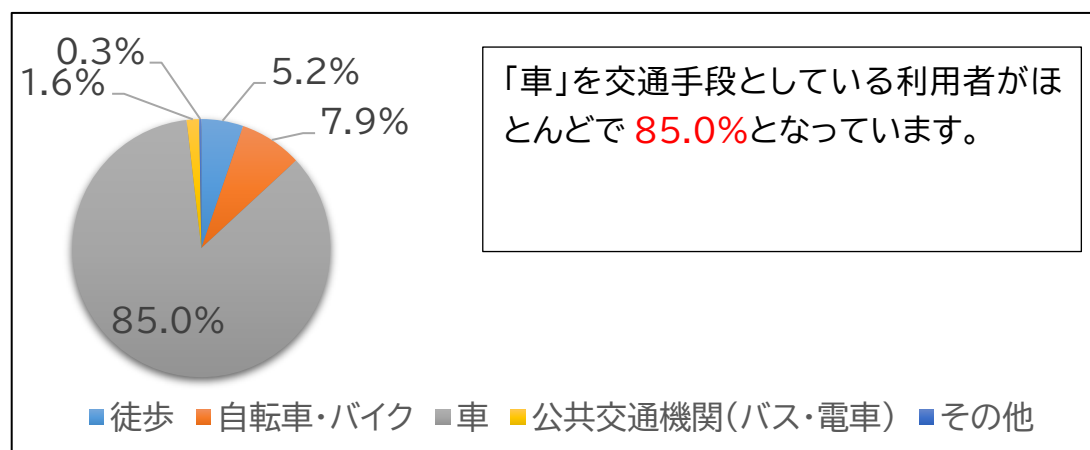




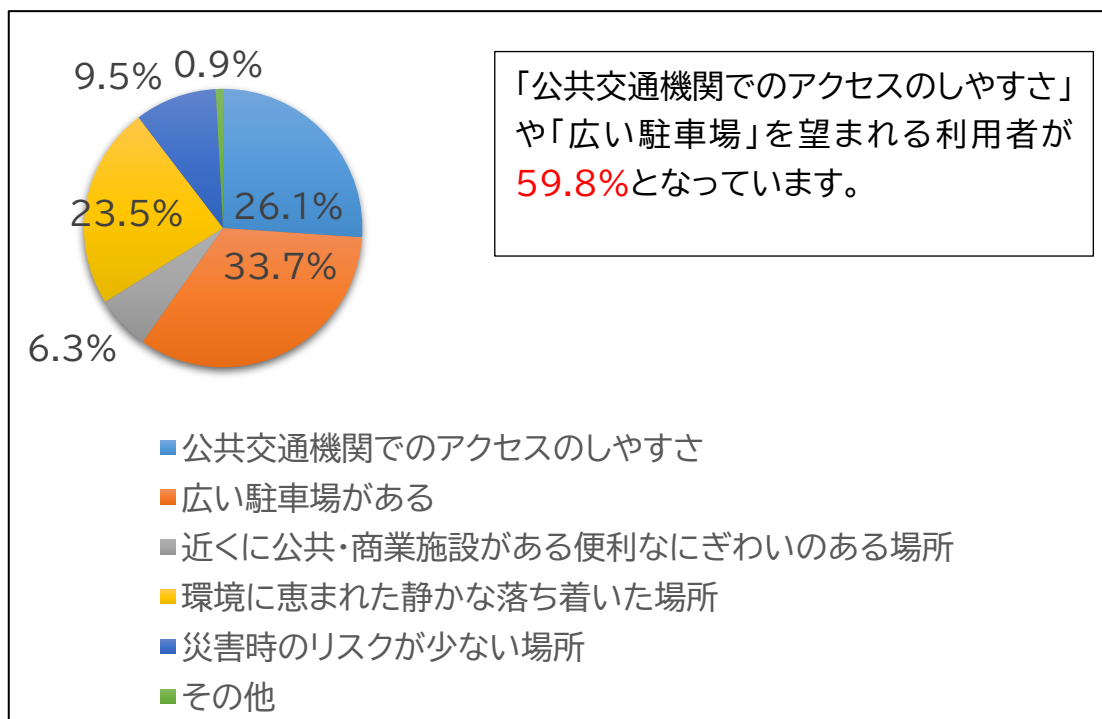
(工)本の種類・蔵書数



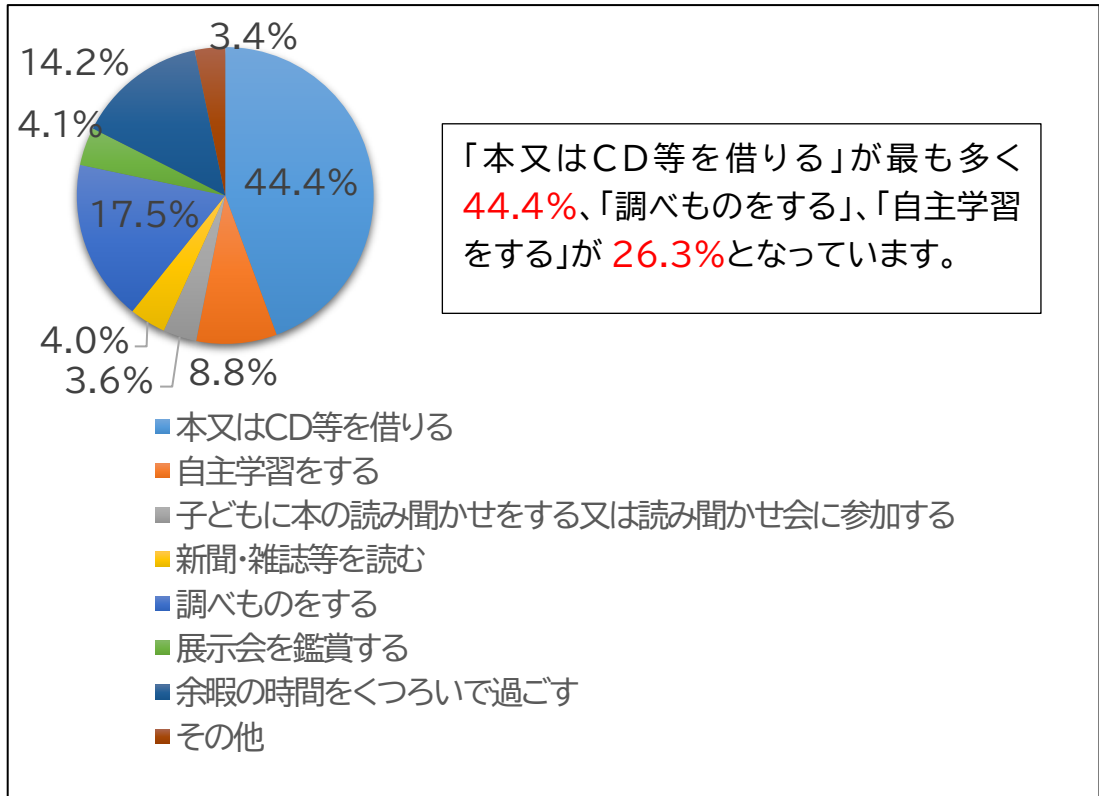
●図書館までの主な交通手段について



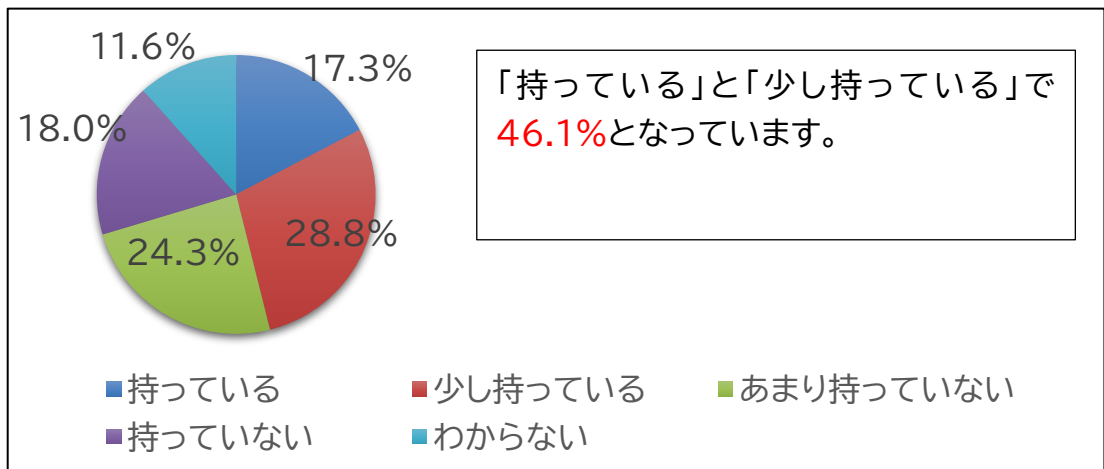
●図書館の立地に求める要件について



●今後、図書館をどのように利用していきたいか



●図書館に愛着を持っているか



③ まとめ

図書館の利用目的については、現在及び将来的も図書を借りる目的がもっとも高く、次いで、調べものや学生室利用など自主学習的な利用が高くなっている。このほか、図書館で余暇の時間をくつろいで過ごしたいという意見の割合も14.2%となっている。

また、施設や立地面に関しては、図書館施設そのものの広さや駐車場の広さ、交通の便の良さといった項目に対し、いずれも「満足」・「やや満足」よりも「不満」・「やや不満」が上回っており、現状にあまり満足をしていないことがうかがえる。

## (2) 市民・利用者のご意見(グループヒアリング)

市民・利用者の図書館に対するニーズ・想いを把握するため、『社会教育施設についてのグループヒアリング』を開催しました。

### ① 開催概要

『これからの社会教育施設に関する「グループヒアリング」』

図書館をはじめ、市民会館、生命の海科学館、博物館を含む4つの社会教育施設についてどのような体験をしたいか、またどのような施設にしていきたいか、それを実現させるためのアイデアについて、参加者に対して、グループヒアリングを実施した。

日にち:令和3年8月28日(土)、29日(日) オンライン開催

参加グループ(人):公募グループ(20)・施設利用者グループ(30)、

若者議会(※)グループ(17)、中学・高校・大学生グループ(32)

※若者議会とは、蒲郡青年会議所のメンバーにより設立され、未来の蒲郡を担う若い世代がまちについて学び、語り、発信していく機会づくりを目的とし、若い世代の力を活かしまちづくり政策を検討していく機関

### ② ご意見

#### ● 図書の貸出方法や仕組みなどについて

- ・書籍や資料のデジタル化を進め、予約・貸出についてもネットのシステムを構築し、利便性を高めてほしい。
- ・AIレファレンス機能や口コミ情報など導入して、興味・関心の深いところまで学べるようにしたい。
- ・DVDや動画など映像資料、漫画やアニメの視聴環境・貸出が充実すると、若者や親子利用が活性化する。

#### ● 空間・部屋・スペースなどについて

- ・これからの図書館には、静かな空間だけでなく、勉強を教え合うことができたり、気軽におしゃべりができる場所・空間がほしい。
- ・絵画の原画や本にまつわる資料・モノに触れたり、閲覧したりすることができる広い展示スペースがほしい。
- ・本に関する様々なテーマの読書会・イベントを開催する等、本を通じて利用者の交流ができる場所がほしい。
- ・多様な学び、体験、交流ができる講座やワークショップを開催してほしい。またそれが可能なスペースのある施設がほしい。

#### ● 新たな機能・サービスについて

- ・託児機能の設置や読み聞かせ会開催など、小さな子どもの子育てにやさしい図書館がほしい。
- ・情報技術(IT)を使った疑似空間体験(VR)で学習できるとよい。
- ・図書館でこれまでに実施したことのないようなイベント(例えばナイトツアー・ミニコンサートなどを、企画してほしい。

- ・カフェ等を併設し、おしゃべりや飲食しながら本を楽しめる、ゆったりとリラックスできる図書館がほしい。
- ・これまでにない(スペース的に不足していた)様々な機能や設備が充実した、快適で居心地の良い図書館がほしい。例えば、椅子机の設置、学生室、児童室、読み聞かせルーム等の諸室の拡大、ネット環境の整備など。
- ・図書館は歴史的資料を膨大に持っているから、福祉施設に貸し出すなど、回想法など高齢者福祉に役立てる。

#### ●図書館の環境・立地・外観などについて

- ・ゆったりとした眺めのよい空間がある施設だと、リラックスして読書が楽しめる。屋外には庭園や足湯などがあると良い。
- ・デザイン性の高い空間・外観の魅力的な施設であると、図書館に若者もより興味が湧いてくるから、若者利用が促進される。
- ・図書館の立地場所については、誰もが利用しやすいといった観点で駅周辺にあるとよい。ただし、現図書館の立地場所は津波等の心配がない利点がある。
- ・図書館本館に行かなくとも、図書館サービスを受けられる環境整備を進めてほしい。

#### ●これからの図書館(施設・運営)のあり方について

- ・常識にとらわれることがなく、図書館に様々な施設や機能が複合化することで、図書館は多世代が集まる「まちの居場所」になる。
- ・図書館は、図書館としての目的を重視すべきで複合化はしない方がよい。
- ・図書館の運営のあり方については、スタッフの専門性が大事という考えや、市民全体で盛り上げていくべきと、多様な考え方がある。

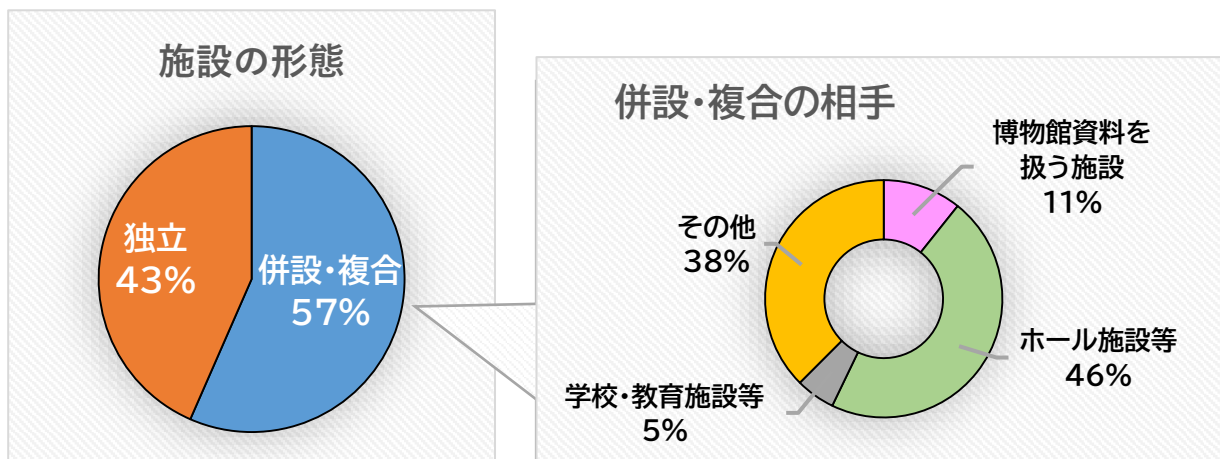
### ③ まとめ

参加者からは、図書館における「空間」に関する意見が多く出ていた。例えば、「これまでにない様々な機能や設備が充実した居心地の良い図書館がほしい」、「静かな空間だけでなく、勉強を教え合うことができたり、気軽におしゃべりできる場所がほしい」、「本を通じて利用者の交流ができる場所がほしい」、「カフェ等を併設し、おしゃべりや飲食しながら本を楽しめる図書館がほしい」などの意見が出た。

また、ICTの活用を求める意見も多く、「書籍や資料のデジタル化を進め、予約・貸出についてもネットのシステムを構築し、利便性を高めてほしい」、「AIリファレンス機能等の導入」、「情報技術(IT)を使った疑似空間体験(VR)で学習できるとよい」などの意見が出た。

一方で施設の複合化という点においては、「図書館に様々な施設や機能が複合化することで、多世代が集まるまちの居場所となる」といった肯定的な意見もあれば、「図書館としての目的を重視すべきで複合化しない方がよい」といった否定的な意見も出された。

<参考> 愛知県内における公立図書館の施設形態と併設・複合の相手状況



※公益財団法人日本図書館協会「2021年度図書館調査」結果による

(3) 市民ニーズの分析・整理

(1)・(2)の結果・ご意見を踏まえ、市民ニーズを①ハード面・②ソフト面の視点で以下のとおり整理する。

① ハード面

- ・施設(駐車場含む)の広さについては、現状あまり満足されておらず、学生室・児童室・読み聞かせルーム・利用者同士が交流できるスペースなど多様な使い方ができる施設整備が求められている。
- ・交通の便についても、蒲郡駅周辺の公共交通機関が整備された地域への希望も多く、現状に満足されておらず、誰もが利用しやすい場所を求められている。また、交通手段で良く利用されている「車」に対応するための、駐車スペースの広さについても満足度が低く、改善を求められている。
- ・施設の老朽化もあることから、おしゃれ・ゆったりできる等、建物としても魅力的であることを求められている。
- ・これまでの概念にとらわれない機能や設備の充実を通じて、居心地の良い「空間」の提供が求められている。

② ソフト面

- ・「図書を借りる」という根本的な目的達成に向け、蔵書数(電子書籍含む)の増加が求められている。
- ・書籍の電子化、郵送対応・返却ポストの貸出環境の整備など、図書館に行かなくとも、図書サービスを受けられる環境づくり(ICTの活用・新たな取組など)を求められている。
- ・本と連動した体験型のイベント、講座やワークショップなどを開催し、学びをより深めることができる環境が求められている。

## 第4章 図書館の「目指すべき姿」

図書館は、本などの資料の提供・レファレンスサービスなどによる情報提示など、様々な取組を実施し、市民に寄り添う「知の拠点」として役割を担ってきている。

今後とも、蒲郡市の「知の拠点」としての役割は継承するとともに、本ビジョンで整理してきた「図書館の現状・課題」、「図書館に求められる市民ニーズ」の内容を踏まえつつ、以下をこれからの図書館の目指す姿とする。

蒲郡市のすべての市民の

誰もが「利用」しやすく、誰もが「愛着」を持ち、

新たな発見が生まれる『知の拠点』としての図書館

### 1 市民とともに歩み、市民に寄り添う図書館

図書館は、市民の誰しもの行きやすい立地にあり、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に自由に気軽に利用してもらうためにライフスタイルに応じた様々な利活用ができる施設や空間づくりを目指します。

また、市民が自由に活動できるスペースの確保等を行うことで、市民が集い、常に笑顔が生まれる場を目指します。さらに、多様化するニーズに応え、図書館施設の付加価値を高めるため、カフェを併設したり、多様な施設機能(教育・子育て・生涯学習・福祉等)との融合・連携を図るなどのプラスアルファの機能を取り入れていくことを検討します。

すべての市民がゆっくりと過ごせて、居心地の良い笑顔あふれる図書館を目指します。

### 2 「知の拠点」としての図書館

現図書館のレファレンスサービス等の強みを継承しつつ、さらに子どもから高齢者に至る市民の知識・教養を高めるため、図書資料の蔵書数の拡充を進めていきます。

### 3 図書館におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

～Society5.0社会に向けた取組の推進～

市民の多様なライフスタイルの変化に対応できるよう、スマートフォンやタブレット端末を活用した電子書籍の拡充をはじめとする、図書館に行かなくとも、図書館サービスを受けられる環境整備を進めていきます。

また、国立国会図書館が提供する「デジタル化資料送信サービス(※)」や各種SNSによる図書館の紹介、利用案内等についても引き続き行います。

※国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を全国の承認を受けた公共図書館の管内で利用できるサービス。

## 第5章 目指すべき姿の実現に向けて

### 1 安心・安全な施設へ ～施設の整備・更新～

第2章で整理している、施設老朽化に伴う「施設・設備の課題」、「運営における規模等の課題」を解決するためには、現状の施設における大規模修繕では対応ができないため、新設の図書館を建設する必要があります。また、敷地面積および施設床面積を、適切な規模の施設とします。

### 2 誰もが通うことができる施設へ ～立地場所の移転～

施設の新設に伴い、「市民の誰もが行きやすい場所」というニーズに応えるため、公共交通機関が整備されている地域、主に蒲郡駅周辺エリアへの移転の検討を進めます。

### 3 市民の居場所となる魅力的な施設へ ～多様な機能との連携・融合～

多世代すべての市民がゆつくりと過ごせて、居心地の良い笑顔あふれる図書館にするために、バリアフリーを踏まえたユニバーサルデザインに配慮し、従来の静寂な場を求めるだけでなく、新たに多様な機能(気軽におしゃべりができる場所やカフェなど)を取り込んで、ゾーニングされた魅力的な空間づくりを検討します。

### 4 「知の拠点」としてさらに高みを目指した施設へ ～これまでの強みの継承～

市民の知識・教養を高めるうえで、時代とともに変遷するニーズを的確にとらえ、レファレンスサービスの高い充実度といったこれまでの強みを活かすとともに、市民の学びの幅が広がるよう電子書籍も含めた蔵書数の拡充を進めます。また、AIレファレンスとの融合も図り、興味・関心の深いところまで学べる図書館になるよう検討します。

### 5 誰もが使いやすいICTサービスが提供できる施設へ ～図書館DX～

電子書籍(令和4年2月導入予定)、ICタグを利用した自動貸出・返却、座席予約システム等の新たなサービスの整備を検討し、利便性・機能性の向上を図ります。

なお、電子書籍については、蔵書数の拡充のみならず、365日24時間の貸出が可能であるなど、利便性の向上や有事(新型コロナウイルス感染症など)対応にも効果的であるため、サービスの充実・利用促進を図っていきます。





## Ⅱ 「市民会館」 将来ビジョン

### 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的        | 1  |
| 第2章 市民会館の現状・課題の整理         |    |
| (1) 施設の概要                 | 1  |
| (2) 運営形態                  | 3  |
| (3) 運営の特徴                 | 3  |
| (4) 利用状況から分かる現状と課題        | 5  |
| (5) 建物・設備面の状況と課題分析        | 6  |
| (6) 施設利用面に関する課題           | 7  |
| 第3章 市民会館に求められる市民ニーズ       |    |
| (1) 市民意識調査                | 8  |
| (2) 社会教育施設アンケート           | 9  |
| (3) 市民・利用者のご意見（グループヒアリング） | 14 |
| (4) 市民ニーズの分析・整理           | 15 |
| 第4章 市民会館の「目指すべき姿」         | 18 |
| 第5章 目指すべき姿の実現に向けて         | 19 |

## 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的

市民会館は、幅広く文化活動の振興に努め、薫り高い特色ある市民文化の創造を図り、優れた文化・芸術にふれる機会や場を提供するとともに、市民の多様で自主的な文化活動の支援や人材育成を目的として昭和48年に設置され、まもなく築50年を迎える。これまでに大規模改修をせずに修繕を積み重ねて管理運営をしてきたが、施設全体において老朽化が進み、また平成26年度の耐震診断で、大ホールにおいて耐震性能が若干不足している状況だということが分かっており、市民会館の整備を行っていくことが必要である。

一方、国においては平成24年に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を制定し、劇場・音楽堂等の活性化を通じ、心豊かな国民生活や活力ある地域社会の実現を目指すとし、平成29年度に文化芸術振興基本法の一部を改正する法律において、文化芸術の振興にとどまらず、観光やまちづくり等その他分野も取り込み、また文化芸術によって生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとしている。

県においても、平成30年度に「愛知県文化芸術振興条例」を定め、同年に「あいち文化芸術振興計画2022」を策定し、「文化芸術の力で心豊かな県民生活と活力ある愛知を実現」を目指すべき姿としている。

本市においては、令和3年度末に策定予定の「蒲郡市生涯学習推進計画 2022」を生涯学習推進計画とともに「文化芸術推進計画」としても位置付け、生涯学習と文化芸術の推進によるまちづくりの基本的方向を示すこととなっている。

以上のように、文化行政においては、今までの文化芸術振興という役割に加え、まちづくりや地域社会の活力になるという新たな役割が求められてきている。また、さらに進んでいく少子高齢化や人生100年時代に向けた社会状況の変化、急激な技術革新に伴うDX(デジタルトランスフォーメーション)の広がりについても対応していくことが必要である。そこで、これらの状況を鑑みたニーズにあった施設整備・事業展開を行うために、市民会館の将来ビジョンを策定する。

## 第2章 市民会館の現状・課題の整理

### (1)施設の概要

蒲郡市民会館は、大・中ホールのあるホール棟と事務所や会議室のある管理棟が昭和48年に竣工し、翌昭和49年に三興庵(茶室)を、昭和55年には大ホール側の楽屋を増設。平成4年には東ホール棟を増築している。蒲郡市の文化活動の拠点として市民や文化団体に親しまれる施設として長年利用されているが、施設の老朽化が進んでいる。

|          | 建築面積                    | 延床面積                     | 竣工       |
|----------|-------------------------|--------------------------|----------|
| 管理棟・ホール棟 | 6,089.31 m <sup>2</sup> | 11,136.78 m <sup>2</sup> | 昭和48年11月 |
| 茶室       | 82.26 m <sup>2</sup>    | 69.56 m <sup>2</sup>     | 昭和49年10月 |
| 東ホール棟    | 1,330.02 m <sup>2</sup> | 2,026.47 m <sup>2</sup>  | 平成 4年 3月 |
| 合計       | 7,501.59 m <sup>2</sup> | 13,232.81 m <sup>2</sup> |          |

※市民会館全敷地面積 24,240 m<sup>2</sup>

(建物の詳細)

|  |                      |                          |                      |
|--|----------------------|--------------------------|----------------------|
| 【大ホール】プロセニウム形式(劇場型多目的ホール)<br>収容定員:1,598席 (1・2階:1,364席、3階:234席、車イス席8席含む)<br>舞台 間口:15m 高さ:10m 奥行:14m |                      |                          |                      |
| 【中ホール】プロセニウム形式(劇場型多目的ホール)<br>収容定員:516席 (車イス席8席含む)<br>舞台 間口:15m 高さ:6.5m 奥行:7m                       |                      |                          |                      |
| 大ホール主催者控室<br>(5名掛け応接セット)   | 20.56 m <sup>2</sup> | 中ホール主催者控室<br>(5名掛け応接セット) | 15.50 m <sup>2</sup> |
| 楽屋6(和室)  | 22.43 m <sup>2</sup> | 楽屋1(洋室)                  | 16.50 m <sup>2</sup> |
| 楽屋7(和室)  | 31.34 m <sup>2</sup> | 楽屋2(洋室)                  | 16.45 m <sup>2</sup> |
| 楽屋8(洋室)  | 37.95 m <sup>2</sup> | 楽屋3(洋室)                  | 16.45 m <sup>2</sup> |
| 楽屋9(洋室)  | 37.95 m <sup>2</sup> | 楽屋4(和室)                  | 16.45 m <sup>2</sup> |
| ※別ピアノ保管庫有  |                      | 楽屋5(和室)                  | 16.45 m <sup>2</sup> |
| ※大・中ホール兼用  |                      |                          |                      |
| リハーサル室1  | 51.10 m <sup>2</sup> |                          |                      |
| リハーサル室2  | 76.70 m <sup>2</sup> |                          |                      |

| 【管理棟】<br>地下1階:708.75 m <sup>2</sup> 1階:1,087.97 m <sup>2</sup> 2階:1,212.97 m <sup>2</sup> 3階:33.12 m <sup>2</sup><br>プール: 32.40 m <sup>2</sup> 車庫:33.06 m <sup>2</sup> |                       |      |         |                       |      |
|--|-----------------------|------|---------|-----------------------|------|
| (1階)施設名  | 面積                    | 収容人員 | (2階)施設名 | 面積                    | 収容人員 |
| 大会議室   | 206.00 m <sup>2</sup> | 120人 | 会議室1    | 161.00 m <sup>2</sup> | 80人  |
| 中会議室   | 81.90 m <sup>2</sup>  | 54人  | 会議室2    | 144.00 m <sup>2</sup> | 70人  |
|  |                       |      | 会議室3    | 161.00 m <sup>2</sup> | 80人  |
|  |                       |      | 音楽室     | 49.00 m <sup>2</sup>  | 30人  |
|  |                       |      | レストラン   | 237.00 m <sup>2</sup> | 88席  |



市民会館 外観



大ホール



中ホール

|   |                       |      |         |                       |       |
|---|-----------------------|------|---------|-----------------------|-------|
| <b>【東棟】</b>   |                       |      |         |                       |       |
| ※東ホール： 全面使用時 518 m <sup>2</sup> 定員 315 人(東西方向 28m×南北方向 19m) |                       |      |         |                       |       |
| 半面使用時 名称:東ホール1(西側)255 m <sup>2</sup> 定員 150 人               |                       |      |         |                       |       |
| 名称:東ホール2(東側)255 m <sup>2</sup> 定員 150 人                     |                       |      |         |                       |       |
| (東西方向 14m×南北方向 19m)   |                       |      |         |                       |       |
| (1階)施設名   | 面積                    | 収容人員 | (2階)施設名 | 面積                    | 収容人員  |
| 東会議室  | 111.00 m <sup>2</sup> | 32 人 | 東ホール    | 518.00 m <sup>2</sup> | 315 人 |
| ※別応接室有  |                       |      | 談話室     | 65.00 m <sup>2</sup>  | 12 人  |
| ※展示ロビー有   |                       |      |         |                       |       |
| <b>【その他】</b>  |                       |      |         |                       |       |
| 展示場 1: パブリックロビー 363.00 m <sup>2</sup>                       |                       |      |         |                       |       |
| 展示場 2: 屋外高床広場 1,000.00 m <sup>2</sup>                       |                       |      |         |                       |       |
| 駐 車 場: 484台   |                       |      |         |                       |       |
| ・東南駐車場・西駐車場(博物館共用)329台                                      |                       |      |         |                       |       |
| ・臨時駐車場(博物館西)80台 ・商工会議所横75台                                  |                       |      |         |                       |       |



東ホール



屋外高床広場

(各種ハザードに基づく施設等の状況)

市民会館の立地場所においては、敷地及び建物(大ホール部分)の一部が津波災害警戒区域(敷地:0.01~1.0m未満、建物:0.01~0.3m未満)、また敷地全域が高潮浸水想定区域(0.5~3m未満)に該当している。

(2)運営形態

平成18年度から指定管理者制度を導入している。現在の指定管理期間は平成31年度から令和3年度までの3年間。なお、その前の期は指定管理期間を5年としていたが、大規模改修工事に向けた検討がされており、指定管理期間中に工事期間が入る可能性があったことから、指定管理期間を3年に縮めている。令和4年度からの指定管理期間は5年としている。また、会館使用料については、市の歳入となる使用料制となっている。

(3)運営の特徴

① 多様な設備・機能

市民会館には、県内でも有数の収容人数を誇る約 1,600席の大ホールと約500席の中ホールがあり、市内の他施設にはこれほどの規模を持つホールはない。そのため、ここ

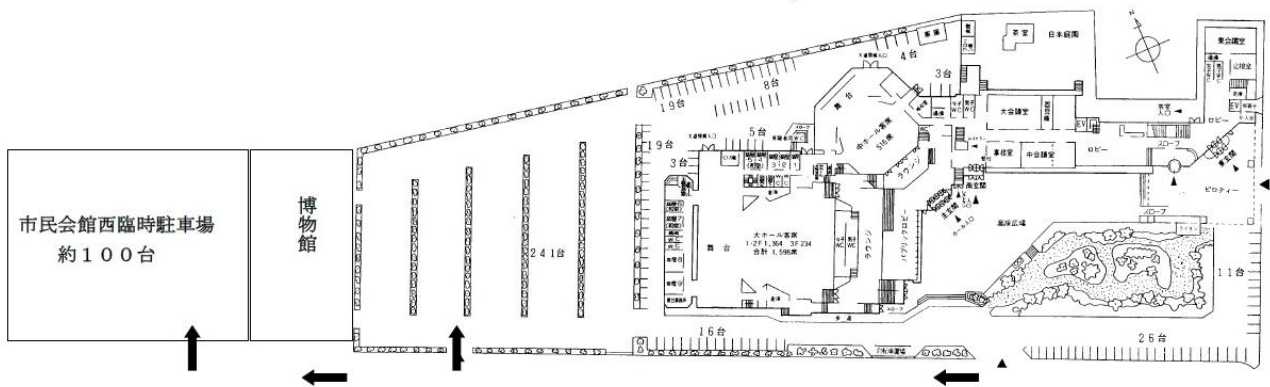
でしかできないコンサートなどの催事を行うことができ、市内の他施設と競合しない。

また、複数の会議室を擁し、各イベント、会議の規模に応じて多目的に利用することができる。さらに音楽室や茶室といった施設もあり、これらの施設も市民会館でしかできない学習の機会を提供している。

② 利便性の高い立地

JR・名鉄蒲郡駅から南西徒歩5分の立地にあり、電車を主な移動手段とする学生や高齢者、市外の利用者が容易に来ることができる。また、駐車場の数も500台近く確保されており、車によるアクセスも良い。蒲郡まつりなど市の大型イベントでは市民会館がメイン会場として利用されている。

また、施設が南側に面し開放的な雰囲気であり、2階から海を望むことができるなどロケーションが良い。



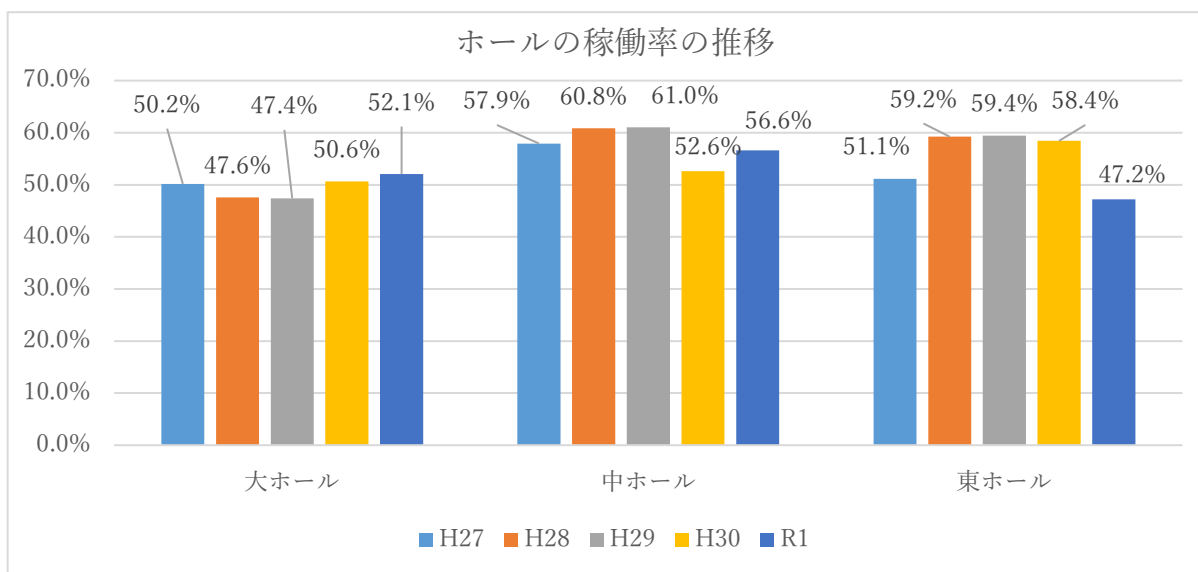
市民会館平面図



市民会館周辺図

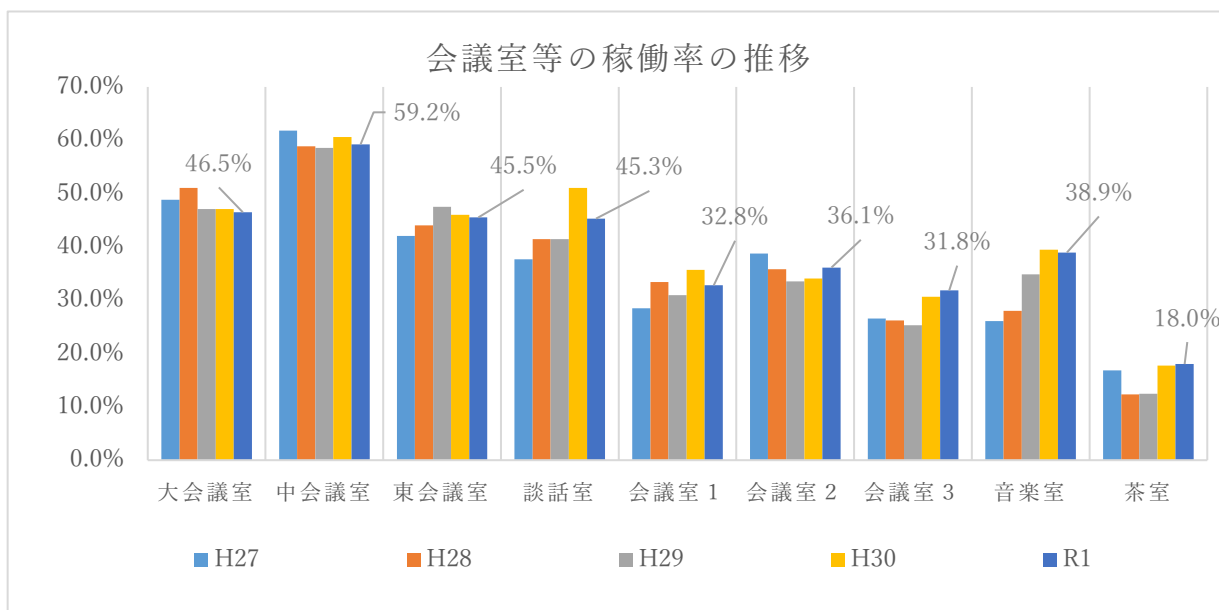
#### (4) 利用状況から分かる現状と課題

##### ① 稼働率



※ホールの稼働率は日単位数による

ホールの稼働状況としては50～60%ほどの稼働状況である。公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」において平成30年度のホール稼働率の全国平均は72.5%であり、全国平均より低い稼働状況にある。



※会議室の稼働率は利用区分単位数(1日3区分)による

※グラフ上の数値はR1のもの

会議室等の稼働率としては、面積が小さく使用料が安い「中会議室」の利用が一番多く、会議室1～3は稼働率が30%代と低い状況にある。会議室1～3は2階にあり、面積も大きいいため使用料が割高ということが影響している可能性がある。

音楽室はリピーターに加え、新規利用者も増えていることから年々稼働率が上がっている。茶室の稼働状況は毎年大きな変動がなく、一定の利用者に留まっている。

## ② 使用料免除による利用状況

各施設における令和元年度の使用料免除での利用割合は以下のとおりである。

| 大ホール  | 中ホール  | 東ホール  | 大会議室  | 中会議室  | 東会議室  |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 73.0% | 61.8% | 72.9% | 51.9% | 30.7% | 48.1% |

| 談話室   | 会議室1  | 会議室2  | 会議室3  | 音楽室   | 茶室    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 45.5% | 59.3% | 57.3% | 61.1% | 23.2% | 66.7% |

市が主催や共催などで施設を利用する場合は免除利用となる。大ホールや東ホールについては免除利用が70%を超えている。全体的に広い部屋ほど免除利用が多い状況である。

## ③ 利用状況における課題

以上のことから、現状をまとめると次のとおりである。

ア ホールの利用率は全国平均を下回っている。

イ 会議室は、場所と利用料により、稼働率に差がある。

ウ 音楽室の需要は増えているが、茶室は一定の利用者が使うに留まっている。

エ 市が主催または共催で利用することが多く、ホールと会議室ともに使用料免除の割合が高い。音楽室や中会議室は使用料免除の割合が低い。

公共での利用や一定の利用者による利用が多いため、いかに新規の利用者を増やすかが課題となる。

## (5) 建物・設備面の状況と課題分析

・施設、設備の老朽化が進んでおり、平成 26 年度実施の耐震診断では、大ホールの耐震不足が指摘されている。またコンクリートの中性化や塩害化などもあることから、今後施設の大規模改修や建替えの検討が必要である。

|      | 大ホール | 中ホール | 会議室棟 | 楽屋棟  |
|------|------|------|------|------|
| Is 値 | 0.51 | 0.61 | 0.69 | 2.07 |

※IS 値とは建物の耐震性能を表すための指標。IS 値が 0.6 以上の建物であれば、震度6～7程度の地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い。0.6 以下の指標については以下のとおり。

IS 値0.3以上…地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある。

0.3未満…地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い。

・施設内の動線が分かりにくい、車いす利用者や高齢者が利用しやすいスロープ等のバリアフリー設備が不足しており、一部の方が使いにくい施設である。バリアフリー設備の充実等多様な人が使いやすいように設備の改修を行う必要がある。

・大ホール1598席、中ホール516席という客席数は人口8万人ほどの本市としては、近隣と比較しても過大であり、客席数の見直しも必要である。

・廊下やロビーなどは、近年建設されている施設のような開放感や明るさなどが少なく、古さを感じ、暗い雰囲気がある。今後は、明るく開放的なイメージを持たれる施設にしていく必要がある。

・会議室棟の会議室の多くは、結婚式場として利用されていた部屋であったため、披露宴会場当時のシャンデリアや絨毯が使用されており、1部屋あたりの面積も大きな部屋が多い。一方、稼働率が高い中会議室は、面積も小さく一般的な会議室と同様の仕様であり、利用が集中する。明るく利用しやすい規模の会議室が望まれる。

## (6)施設利用面に関する課題

### ① 施設利用(主催者利用)における課題

施設利用者(主催者)からの意見<sup>※</sup>として、「大・中ホール間での遮音性が低い」、「音響環境が悪い」、「中ホール舞台が狭い。舞台裏の通路が狭く通りづらい」、「搬入口に屋根や階段がない」、「スタインウェイのピアノが大ホールから中ホールへ移動できない」、「大ホール楽屋から事務所へ観客に会わずに行くことができない」など、催事の運営に支障がでるものであり、改善が必要である。

### ② 観客利用における課題

「座席が固く、幅も狭いため快適性が悪い」、「大ホール、中ホールのロビーがつながっているため動線がわかりづらい」、「親子室(席)がない」などの快適性に欠ける意見<sup>※</sup>があった。

※「蒲郡市民会館ホール棟改修検討会議(令和元年度実施)」での意見。市民会館の指定管理者、文化協会、吹奏楽団、商工会議所、身体障害者福祉協会の代表が参加。



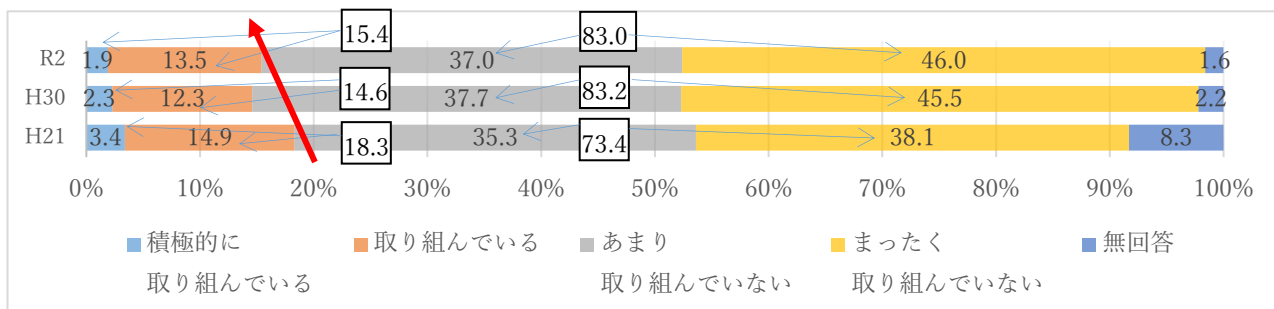
### 第3章 市民会館に求められる市民ニーズ

#### (1) 市民意識調査

※市民意識調査は蒲郡市総合計画の取組について市民から評価を受けるとともに意見をうかがい、現在の生活環境や今後のまちづくりに活かすことを目的として実施されているもの。直近では平成21年、平成30年、令和2年に実施されている。

#### ■生涯学習と文化芸術の現状

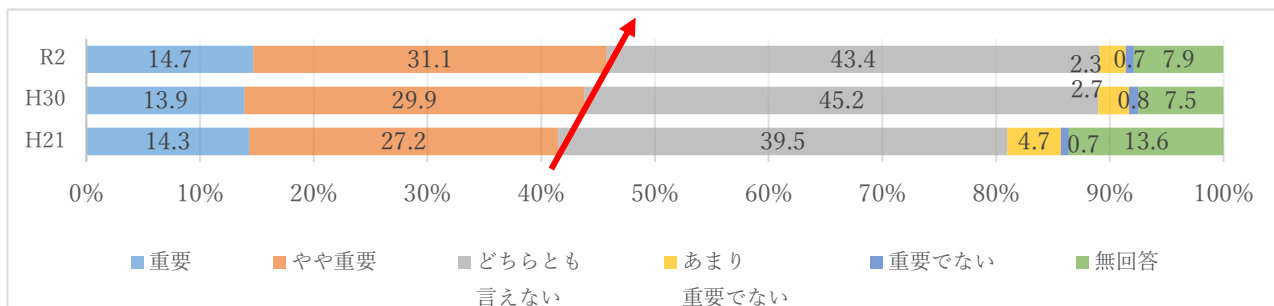
##### ●生涯学習活動や文化活動の取組状況



生涯学習活動や文化活動に取り組んでいる人は、平成21年から10年経った令和2年において微減している。まったく取り組んでいないが割合としては一番多く、あまり取り組んでないと合わせると80%を超えている。

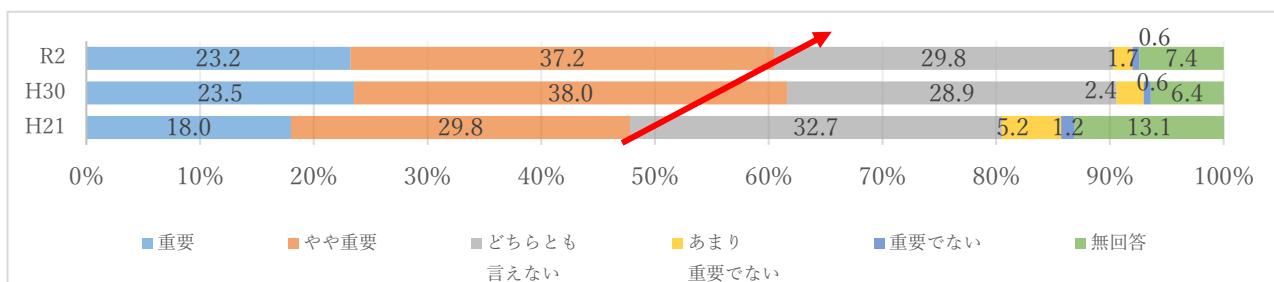
#### ■重要度

##### ●生涯学習活動



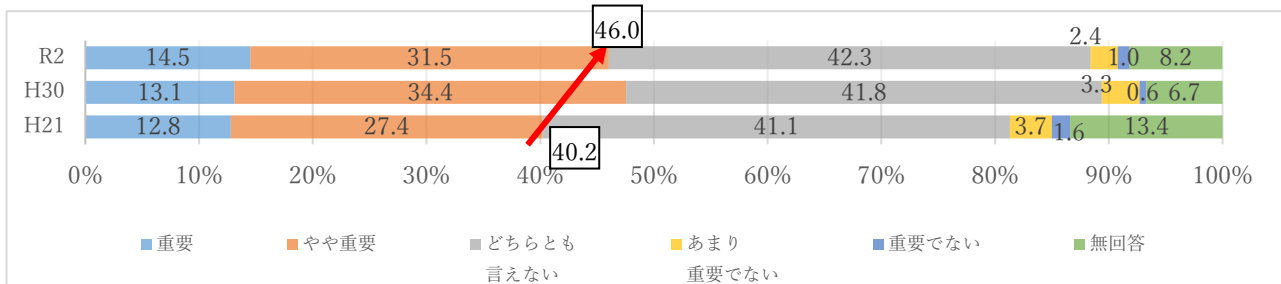
生涯学習活動の重要度においては、重要とやや重要を合わせると平成21年から令和2年の10年間で増加してきている。重要でないと思っている人は少数である。どちらとも言えないと無回答を合わせると50%を超えている。

##### ●図書館、ホールなどの施設の整備



図書館やホールなど施設の整備については平成21年から令和2年の10年間で12.6ポイント増加している。

●文化活動や文化の継承



文化活動や文化の継承においては、平成21年から重要、やや重要と思っている人は増加している。また、重要ではないと思っている人は少ない。どちらとも言えない無回答を合わせると50%ほどの状況である。

以上のことから、市民の生涯学習活動や文化活動については、次のことが分かる。

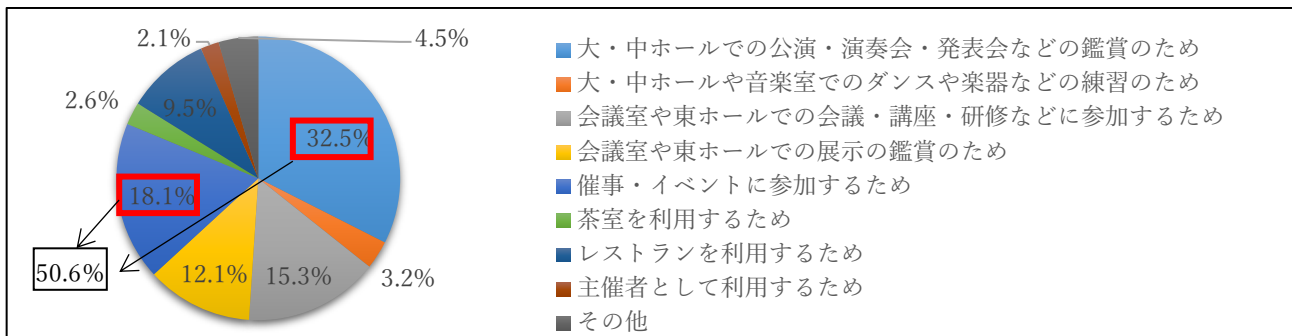
- ① 重要でないと思っている人は少なく、この10年間で重要と思っている人は増えている。
- ② 生涯学習活動を実際に取り組んでいる人は減少している状況である。
- ③ 施設整備についても重要度が上がっていることから、現状の施設については、大規模改修や建て替え等が望まれている。

(2)社会教育施設アンケート

市民ニーズを把握する一環として、下記のとおり市民アンケートを実施した。

調査対象者 蒲郡市民から1,500人を無作為抽出  
 調査方法 郵送により調査票を送付  
 調査実施期間 令和2年12月23日から令和3年1月14日まで  
 回収数及び率 602件、40.1%

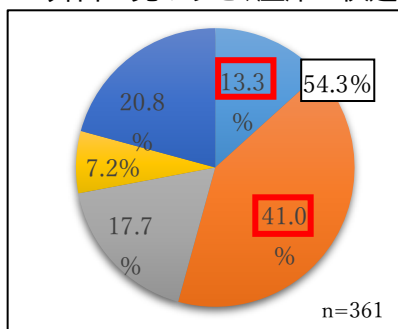
① 市民会館の利用目的(複数選択可 n=619)



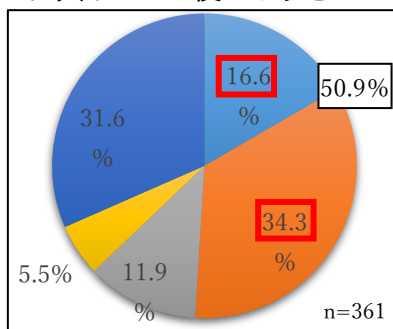
市民会館を利用する目的として1番多かったのが「大・中ホールでの講演・演奏会・発表会などの鑑賞」で全体の32.5%を占めている。次いで「催事・イベント」が18.1%であり、この2つで市民会館の利用目的の全体の51%と半数を超えている。つまり、多人数が参加するような催事で利用する方が多いと言える。なお、練習のための利用は3.2%と少ない状況にある。

② 大・中ホール満足度(市民会館を利用したことがある人)

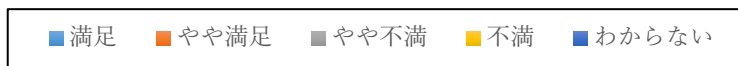
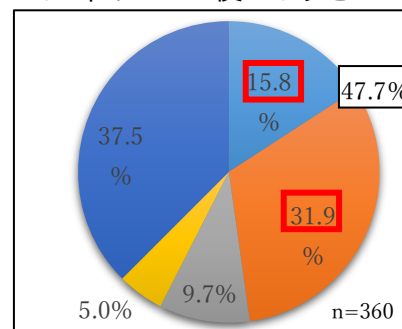
ア 舞台の見やすさ、座席の快適性



イ 大ホールの使いやすさ



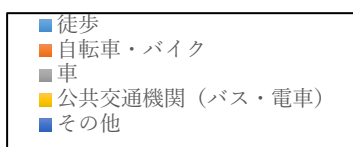
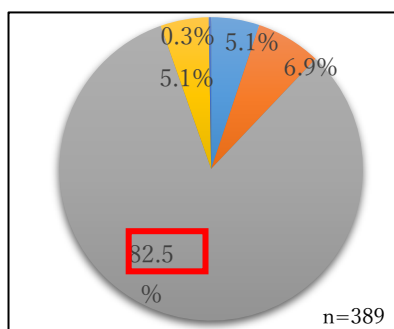
ウ 中ホールの使いやすさ



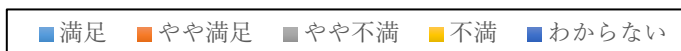
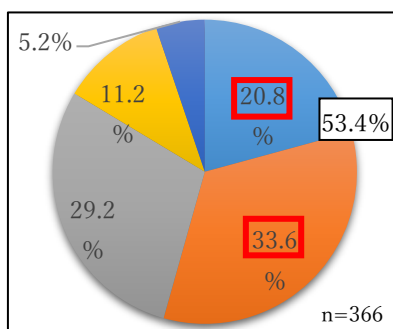
大ホール、中ホールの満足度は「満足、やや満足」を合わせると50%ほどであり、不満と感じている人より高い割合である。

③ 交通の満足度(市民会館を利用したことがある人)

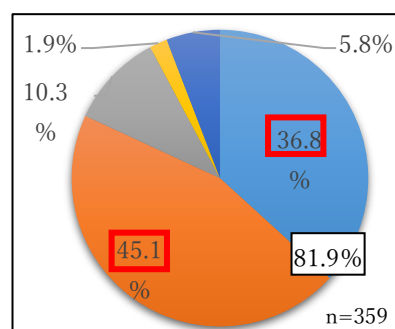
ア 主な交通手段



イ 駐車場の広さ



ウ 交通の便の良さ



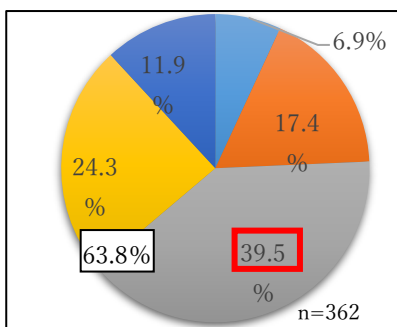
市民会館までの交通手段としては、「車」が82.5%であり、ほとんどの市民が車で来ていることがわかる。駐車場の広さとしては「満足・やや満足」で53.4%と半数以上の方は現在の駐車場の広さで満足している。

交通の便の良さとしては、「満足・やや満足」を合わせて81.9%と市民も立地の良さを感じていることがわかる。

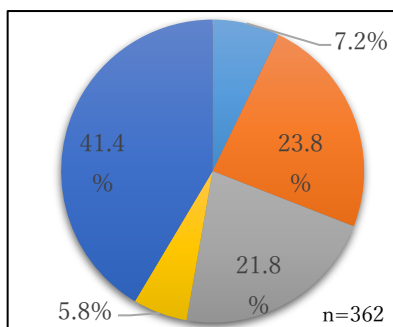


④その他施設の満足度(市民会館を利用したことがある人)

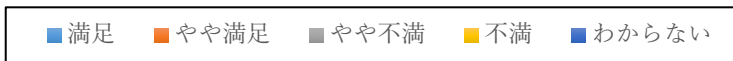
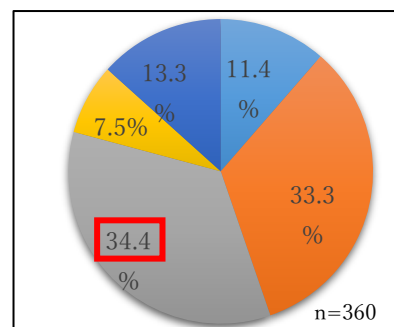
ア トイレの快適性・清潔感



イ バリアフリー対応



ウ 館内の明るさなどの雰囲気



トイレや館内の雰囲気については、「やや不満」が一番多い回答となっている。特にトイレについては「不満・やや不満」を合わせると63.8%と半数を上回っており、平成30年度、令和元年度に大・中ホール、会議室棟のトイレ洋式化を実施したが、まだ満足度は高い状態にはなっていないことがわかる。

⑤市民会館に望む役割・サービス(3つまで)(n=1,492)



市民会館に望む役割・サービスとして「優れた文化芸術を鑑賞する場」が最も多く22.6%で、次いで、「講演会やシンポジウム等で知識を習得する場」が16.0%であった。このことから、市民会館は大ホールと中ホールのホール利用を想定した役割が強く出ていることがわかる。

市民会館を利用したことがない人と利用したことがある人が市民会館に望む役割・サービス

|                            | 未利用者<br>n=517 | 利用者<br>n=975 | 未利用者と<br>利用者の差 |
|----------------------------|---------------|--------------|----------------|
| 市民が優れた文化芸術を鑑賞する場           | 19.5%         | 24.2%        | -4.7           |
| 市民が文化芸術活動を発表する場            | 13.3%         | 16.8%        | -3.5           |
| 市民が講演会やシンポジウム等で知識を習得する場    | 14.7%         | 16.8%        | -2.1           |
| 市民が気軽に集まり交流やくつろぎを得ることができる場 | 16.8%         | 11.9%        | 4.9            |
| 市民が自主的な活動や練習、学びを行うことができる場  | 9.3%          | 10.5%        | -1.2           |
| 市外の人も多く集いにぎわう場             | 6.0%          | 6.4%         | -0.4           |
| 災害等が発生した場合の避難場所            | 19.7%         | 13.2%        | 6.5            |
| その他                        | 0.6%          | 0.2%         | 0.4            |

また、そのうち市民会館を利用したことがない市民に着目すると、「災害等が発生した場合の避難場所」としての役割が一番高く、次いで 0.2 ポイントの差で「市民が優れた文化芸術を鑑賞する場」となっている。また、「市民が気軽に集まり交流やくつろぎを得ることができる場」が 3 番目となっている。利用したことがない市民としては、文化芸術を鑑賞する場に加え避難場所および気軽に集まれる場所という点を望んでいる。

⑥市民会館を利用しなかった理由(n=226)



市民会館を利用しなかった理由として「どのような催しを行っているのかわからない」が最も多く 58.4%である。その他の理由としての多くが「行く用事がない」「利用したい催事がない」というものであった。

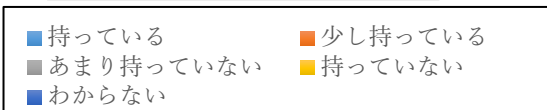
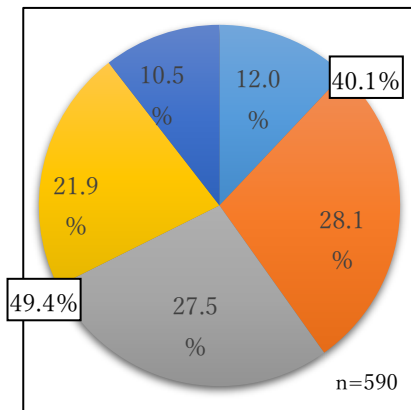
⑦市民会館の立地の要件(n=613)



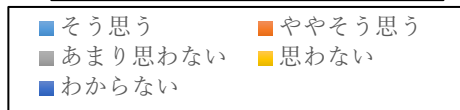
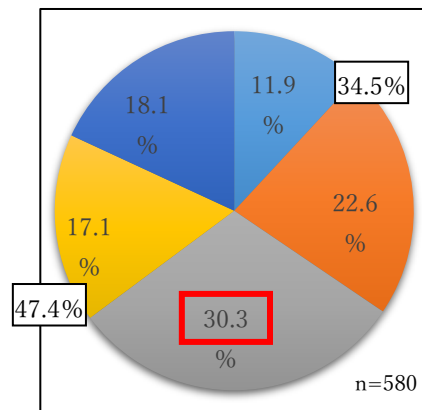
立地の要件としては、「公共交通機関でのアクセスのしやすさ」が 32.5%と 1 番多く、次いで「広い駐車場がある」で 29.7%となっている。現在の市民会館の立地としては、交通の便の満足度も高く、駐車場の広さも一定数確保されていることから、市民会館の現在の立地場所としては、適当な場所であると言える。しかし、市民会館の立地場所は津波・高潮浸水区域内(3 頁参照)であるため災害対策を施す必要がある。

⑧市民会館に対する気持ち

ア 市民会館への愛着



イ 市民会館の今の姿を残していきたいと思うか



現在の市民会館に対する気持ちとして、愛着については、「少し持っている」の回答が最も多く28.1%であるが、「あまり持っていない」と「持っていない」の合計と「持っている」と「少し持っている」の合計を比べると、「あまり持っていない」と「持っていない」の合計の方が9.3ポイント多い。また、市民会館の今の姿を残したいという質問に対して「あまり思わない」の回答が最も多く30.3%であり、「思わない」「あまり思わない」の合計と「そう思う」「ややそう思う」の合計を比べると、「あまり思わない」「思わない」の合計の方が12.9ポイント多い。

### (3)市民・利用者のご意見(グループヒアリング)

市民・利用者の市民会館に対するニーズ、想いを把握するため、『社会教育施設についてのグループヒアリング』を開催した。

#### ① 開催概要

市民会館をはじめ、図書館、生命の海科学館、博物館を含む4つの社会教育施設についてどのような体験をしたいか、またどのような施設にしていきたいか、それを実現させるためのアイデアについて、参加者に対して、グループヒアリングを実施した。

日にち:令和3年8月28日(土)、29日(日) オンライン開催

参加グループ(人):公募グループ(20)・施設利用者グループ(30)、

若者議会(※)グループ(17)、中学・高校・大学生グループ(32)

※若者議会とは、蒲郡青年会議所のメンバーにより設立され、未来の蒲郡を担う若い世代がまちについて学び、語り、発信していく機会づくりを目的とし、若い世代の力を活かしまちづくり政策を検討していく機関

#### ② ご意見

##### ○現在の市民会館の建物や設備について

- ・大ホール・中ホールや会議室は、規模が大きすぎて使い勝手がよくない。利活用を考慮し、小さい規模のホールや部屋が良いのではないか。
- ・分かりやすい動線、高齢者や障がい者のバリアフリー環境、子育て世代の利用環境を整えて、多様な人が使いやすい施設にしてほしい。
- ・音響設備、Wi-Fi 環境など、施設を利用する上で、今のニーズにあった設備や環境を整えてほしい。
- ・今の立地は駅から近く、駐車場もある程度確保できているため、利便性がよい。ただし、閉鎖的で暗い雰囲気があるため、おしゃれで明るい感じの建物にしてイメージを変えてほしい。
- ・施設の老朽化が進み、利用の制約があるにも関わらず、利用料金が高いように感じる。貸出の料金設定・仕組みも柔軟に検討してほしい。
- ・未利用時の空間やスペースを有効活用できるように、様々な工夫を検討し、市民活動に活かしてほしい。

##### ○市民会館での「イベント」や「催し」について

- ・ワークショップや体験会、勉強会、職業体験など多様なイベント・活動をしたい。近くの科学館と連携した体験イベントを開催するのもよい。
- ・広いスペースの敷地・屋外空間などを活用して、様々なイベントやお祭りを開催することで賑わいを生む。
- ・ホールなど屋内施設で、コンサート・ライブなどの音楽関連イベントやこれまで行ってない多様な催しを開催してほしい。
- ・施設利用やイベントの情報が入ってこないため、市民の認知度があまり高くない。情報が入れば利用する機会が増えるのではないか。

○市民会館に求める新たな機能

・蒲郡には映画館がないため、市民会館にシアター機能を取り入れ、映画等の上映をすれば多くの市民で賑わうはず。

○蒲郡市の「文化」・「まちづくり」の拠点としての役割

・音楽の練習場として中高生など若者が集まる場所にするなど、市内の文化活動や交流の拠点にしたい。  
 ・立地条件も良いため、様々な機能・施設と融合する。日常的に立ち寄れ、愛着があり、蒲郡市の文化・まちづくりの拠点施設となってほしい。

③ まとめ

ヒアリングでは、「文化・音楽・まちづくりの拠点」として、機能の向上、改善を求めるご意見が多く出ていた。例えば、「ホール棟の規模については、蒲郡の規模から考えるとやや大きすぎで、使い勝手に課題がある。」、「音響や座席など設備面の老朽化が顕著であり、現在の利用ニーズに合っていない。」、「ワークショップなど多様な「体験」ができる場所、日常的な音楽の練習拠点となると良い。」、「イメージが暗いため、明るい雰囲気・もっとおしゃれな空間であると良い。」などで、今後施設の維持・更新を行う上で参考となる、市民・利用者のご意見を確認できた。

現在の「文化・音楽の拠点」としての機能の向上・改善に加えて、目的がなくても、利用できる居心地の良い居場所のような施設、映画館機能のように日常に気軽に楽しめる施設を求める意見も多かった。また、施設や催事に関して認知度・発信力といった課題についても、意見が出された。

(4) 市民ニーズの分析・整理

(1)～(3)の結果・ご意見を踏まえ、市民ニーズを分析し、下記のとおり整理する。

| 市民の生涯学習・文化芸術の活動 |  |
|-----------------|--|
| 状況              | ・市民意識調査では、生涯学習・文化芸術の重要性は10年前から若干高まっている。<br>・生涯学習活動をしている市民は10年前から減っており、令和2年度は約15%である。 |
| 考察              | ➡生涯学習情報などの発信力の強化や参加したいと思う催事の開催が必要である。<br>➡生涯学習・文化芸術活動・発表ができる場所の整備や利用方法等の見直しをする。      |

| 市民会館の利用目的・望むこと |   |
|----------------|---|
| 状況             | ・現在、ホールでの講演・演奏会・発表会等の鑑賞が利用目的として一番多い。<br>・今後、市民会館に望む姿でも優れた文化芸術を鑑賞する場、講演や市民の発表会が多い。<br>・音楽活動の発表や練習が気軽にでき、若者が集まる場所、文化活動や交流の拠点にしたい。 |



|    |   |
|----|---|
| 考察 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡演奏会・講演・発表会ができる施設(ホール)を今後も設置する。</li> <li>➡利活用しやすい規模のホールや多目的ホールを設置する。</li> <li>➡学生をはじめ音楽活動者が利用できる音楽施設や練習、情報交換できるスペースを設ける。</li> <li>➡満足度が高まるような施設へ改修する。</li> </ul> |
|----|---|

### 市民会館の利用目的・望むこと(市民会館の未利用者)

|    |  |
|----|--|
| 状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「優れた文化芸術を鑑賞する場」に加え、「市民が気軽に集まり交流やくつろぎを得ることができ場」を望む声も多い。</li> <li>・ワークショップや勉強会など多様なイベントに参加・活動がしたい。</li> <li>・広いスペースの敷地・屋外空間を利用した多様なイベントを開催してほしい。</li> </ul>      |
| 考察 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡市民が気軽に利用することができる新たな機能が必要である。</li> <li>➡ワークショップや講座など活発に催しが開かれ、未利用の空間も気軽に使用できる、使い勝手の良い明るい部屋・スペースが必要である。</li> <li>➡広い敷地・屋外空間を利用した多様なイベントができるエリアが必要である。</li> </ul> |

### 市民会館の利用目的・望むこと(市民会館の未利用者)

|    |  |
|----|--|
| 状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用したことがない理由は、「何をしているかわからない」、「行く用事がない」、「参加したい催事がない」という理由が多い。</li> </ul>   |
| 考察 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡多様なイベント・催し物を誘致するため、民間企業等への積極的なPRを実施する。また利用促進のための施設整備をする。</li> <li>➡広報やチラシのみに限らず、SNSなど多様なメディアを活用した情報発信力を強化する。市内で行われるワークショップ、講座の開催情報を集約、発信できるターミナルの役割を果たすシステムを構築する。</li> </ul> |

### 市民会館の施設・設備

|    |  |
|----|--|
| 状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民意識調査では、図書館やホールなど施設整備の重要度が10年前より高まっている。</li> <li>・市民アンケートでは、施設の明るさ、トイレ、バリアフリー設備に対する不満度が高い。</li> <li>・グループヒアリングでは、ホール・部屋の規模の適正化、バリアフリー環境や子育て世代に配慮した利用環境の整備、音響設備・Wi-Fi環境等に不満、など施設改善を求める意見が多い。</li> <li>・閉鎖的で暗い雰囲気がある、施設が老朽化しているにも関わらず、利用料金が高い。</li> </ul> |
| 考察 | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡現在の施設を大規模改修、建て替えをすることにより魅力的な施設とする。</li> <li>➡大中ホールや貸部屋の規模、利用料金の見直しを検討する。</li> <li>➡多様な人が使える施設、利用者のニーズを満たす設備の設置を目指す。</li> <li>➡未利用時の空間を、市民が使えるように施設・利用方法等を検討する。</li> </ul>  |

| 市民会館の立地・アクセス |  |
|--------------|--|
| 状況           | ・市民アンケートでは、立地の要件として公共交通機関でのアクセスの良さ、広い駐車場を求めている。災害時のリスクが少ない場所を要件とする意見も約2割程度ある。                                |
| 考察           | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡現在の駅前という立地と駐車スペースを今後も活かす。</li> <li>➡防災・減災に向けた配慮・取組が必要である。</li> </ul> |

| 市民会館の満足度・愛着 |   |
|-------------|---|
| 状況          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールは一定の満足度はあるが、施設の明るさ、トイレなどは不満度が高い。</li> <li>・愛着や今の姿をそのまま残したいと思っている人より思っていない人の方が多い。</li> <li>・日常的に立ち寄り、愛着があり、文化・まちづくりの拠点となってほしい。</li> </ul> |
| 考察          | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡現在の施設を大規模改修、建て替えをすることにより魅力的な施設とする。</li> <li>➡市民の憩いのスペースや若者が活動できる場所、文化活動サークルの交流エリアを配置する。</li> </ul>  |

| 市民会館に望む役割・機能 |   |
|--------------|---|
| 状況           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・海が見える立地を活かして、カフェなどくつろげる、おしゃべり、交流できる場がほしい。</li> <li>・市民会館、公民館、児童館など他の施設の機能と融合する、また映画館機能のように日常的に気軽に楽しめる機能を追加してほしい。</li> </ul>   |
| 考察           | <ul style="list-style-type: none"> <li>➡「楽しみ」「くつろぎ」が生まれる空間となるような施設整備や多様な取組が重要である。</li> <li>➡多世代が気軽に利用することができる施設にするための「子育て・児童向け機能」を追加する。また、市民の自主的・自発的な学習活動を支えるため、「市民の学び」「市民の交流」をコーディネートする「中央公民館機能」を包含した「生涯学習センター」を新たに設置する。生涯学習センターを中心に、文化芸術活動の活性化や多様な講座の実施、活動の成果発表など、更なる生涯学習推進のための主体的な取り組み・工夫をしていく。</li> </ul> |

## 第4章 市民会館の「目指すべき姿」

市民会館は、市民の文化の向上および福祉の増進を図ることを目的に文化活動の拠点としての機能を目指し、蒲郡市文化協会、また蒲郡市吹奏楽団、蒲郡市ジュニア吹奏楽団、蒲郡市シニア吹奏楽団の3つの吹奏楽団や蒲郡フィルハーモニー管弦楽団などいろいろな団体が文化芸術、音楽活動を行っている「音楽のまち蒲郡」の中心の場所となっている。

ホールという大規模収容できる施設の特徴を活かし、今までの蒲郡市の文化芸術を支え、育んできた「音楽のまち蒲郡」の流れを継承しつつ、前述のような状況を踏まえ、以下を市民会館の目指す姿とする。

**市民が自主的かつ自発的に文化・教養の向上を図り、  
「新たな交流」と「賑わいの創出」拠点となる施設  
～「市民の居場所・まちづくり発信の場」へ～**

### 1 新たな交流の拠点

「音楽のまち蒲郡」としての文化活動の拠点という枠組みに加え、市民の学習、交流施設として、多様な人が集い、ふれあい、活動する施設を目指す。

### 2 賑わいの創出の拠点

市民会館で得た経験や知識、人と人とのつながりを、自身の活動や地域で活かすことで市全体の活性化に寄与できる施設を目指す。

### 3 市民の居場所・まちづくりの拠点となる市民会館

「交流」・「賑わいの創出」の拠点となることでまちづくりの発信の場となり、また日常的に立ち寄れ、愛着のある、『いごこちのいい市民の居場所』となることを目指す。

## 第5章 目指すべき姿の実現に向けて

### 1 魅せる、触れる、楽しむ

近隣自治体に設置されているホールとの差別化を図り「音楽のまち蒲郡」にあった質の高い芸術音楽や芸能の鑑賞の場所とし、また、市民の日頃の練習成果や創作した作品の発表会など多様な文化・芸術を楽しむことができる場所にする。

### 2 学ぶ・創る・発信する

市民会館に生涯学習センターを新たに設置し、市民に多様な学習の機会を創出する。生涯学習センターが中心となり、地域・企業等と連携する取組を活性化させる役割を担ったり、市内の様々な講座などの情報を整理・集約し、市民に分かりやすく情報提供するなど、生涯学習推進のための新たな取組を実施する。

蒲郡駅に近いという立地を生かしつつ、学生や働く世代を含めた市民の学習や練習の場として、市民の文化活動・創作活動を支援するとともに、活動の成果を発表・発信する場を提供する。

### 3 憩う、つながる、育む

誰もが気軽に立ち寄ることができる市民の憩いの場所とし、学習や体験、文化芸術を通じて市民や生涯学習団体などが日常的に集い、つながり、世代や分野を超えた交流を育む場所にする。特に若い世代が音楽などを通じてつながりを持ち、交流し、活動や表現ができる場所とする。

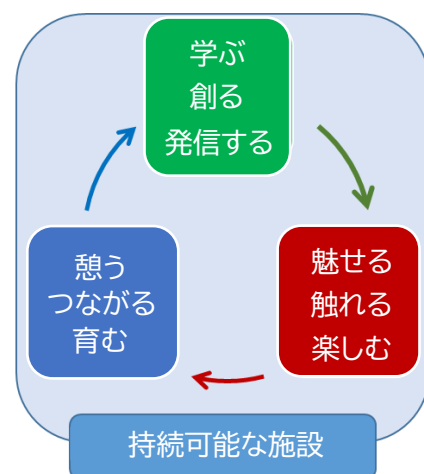
そして、その交流をさらに地域へ広げる活動を行うことで、まちと人を育む中心施設として愛着のある場所にする。また、継続的な学びを維持するために生涯学習センターが中心となって指導者の育成も行う。

### 4 1～3を支える持続可能な施設

貸館型の運営から、市民のニーズに応えるプログラムを提供する運営体制への強化とともに、多様な催し物を誘致するための民間企業等様々な団体へのアプローチ、連携を行う。また、予約管理システム・Wi-Fi等のデジタル環境を整備し、市民がより利用しやすい体制づくりを推進する。

施設については、規模の適正化や適切な維持保全により、利用者に安全で使いやすい施設とし、災害時においても、周辺地域の避難場所などとして活用できるような機能を検討する。

さらには、市民会館がまちの居場所・まちづくりの発信の場となるためには、より多機能化することが必要であると想定され、図書館などの他の社会教育施設が持つ機能や子育て・福祉などの関連機能等の施設との融合も視野に入れ検討を実施する。また、施設・機能の融合を検討する際、建替えや長寿命化など、最適な施設整備方法についても合わせて検討することで、「持続可能な施設」の構築を目指していく。







# Ⅲ 「生命の海科学館」 将来ビジョン

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的        | 1  |
| 第2章 生命の海科学館の現状・課題の整理      |    |
| (1) 施設の概要                 | 1  |
| (2) 運営形態                  | 5  |
| (3) 運営の特徴                 | 5  |
| (4) 建物・設備面の状況と課題分析        | 6  |
| (5) 運営に関する現状と課題           | 7  |
| 第3章 生命の海科学館に求められる市民ニーズ    |    |
| (1) 社会教育施設アンケート           | 7  |
| (2) 市民・利用者のご意見（グループヒアリング） | 15 |
| (3) 市民ニーズの分析・整理           | 17 |
| 第4章 生命の海科学館の「目指すべき姿」      | 18 |
| 第5章 目指すべき姿の実現に向けて         | 19 |

## 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的

生命の海科学館は、平成11年7月に「蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館」として開館し、建設から20年以上経過している。

「人生100年時代」が到来し、環境問題の深刻化と科学技術の重要性が一層高まると予想される今後において、理科・科学分野での社会教育・生涯学習の必要性が更に高まることが予想される<sup>※1)</sup>。例えば新型コロナウイルスに代表される新興感染症に対し、誤情報に踊らされることなく確度の高い情報を選択して正しく身を守るためには、市民一人ひとりに科学的素養が求められる。ひいては、予防や治療についての情報の本質を把握するために必要な、基礎的な科学を学ぶことのできる社会教育の更なる充実が希求される。地震や火山、大規模化する自然災害、環境問題や少子高齢化社会への対処等においても同様である。また Society5.0の推進に伴う子どもや高齢者への科学技術教育の必要性も、今後一層高まることが予想される。

科学館はこれまで、社会の中で科学と市民をつなぐ活動の中心的役割を果たしてきた<sup>※2)</sup>が、その礎となっているのは、“収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等を通して自然・文化に係わる人類共通の遺産を未来へと継承するとともに、その方法についての研究をも使命とする”とされる“博物館”の機能である<sup>※3)</sup>。

これからの科学館は、科学と市民をつなぐ社会教育活動に今後一層の充実が求められており、生命の海科学館が、今後さらなる未来に向け、社会教育施設としての役割を全うしていくために、機能充実と活動の指針となる「あり方(将来ビジョン)」を策定し、科学館が「目指すべき姿」を明らかにする。

## 第2章 生命の海科学館の現状・課題の整理

生命の海科学館は、“科学に対する関心を深め、豊かな創造力及び研究心を養い、広く学習の場を提供するため”<sup>※4)</sup>として設置された社会教育施設である。施設の現状と課題を以下のとおり整理する。

### (1)施設の概要

平成11年7月に「蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館」として開館。現在は「生命の海科学館」として運営されている。

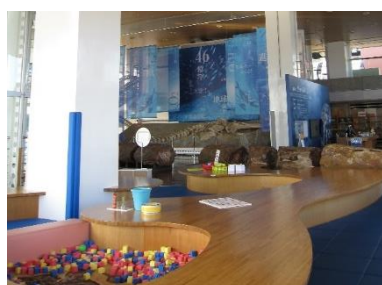
主な施設としては、1階海のひろば・陸のひろば・サイエンスショールーム・実験工作室・情報研修室・メディアホール、2階地球ひろば、3階科学ひろば・常設展示室・ミュージアムシアターがある。





① 海のひろば (1階 189.59 m<sup>2</sup>)

生きものの進化をたどる“海の生物多様性”や、時代の順番に地層を積み上げる“ぐらぐらつみき”などの遊びを通して、「科学のオドロキ」を発見し地球の歴史を楽しく学ぶことができる。(右:写真)



② 陸のひろば (1階 97.02 m<sup>2</sup>)

発掘体験コーナーや約150冊を所蔵する児童図書コーナーが設置されている。幼児から児童向けの知育や科学に関する玩具の貸し出しを行っており、陸のひろば内で体験したり、遊ぶことができる。(左:写真)

③ 地球ひろば (2階 87.81 m<sup>2</sup>)

科学の世界をより深く知ってもらうため、子ども向けから専門書まで、生きものの進化や宇宙に関する和書、洋書、児童書、月刊誌を多数配架し、誰でも自由に閲覧できる「図書コーナー」と、近隣の大学や市内企業の研究開発の成果や、地域の自然などに関する展示を行う「展示コーナー」から構成される。(右:写真)



④ サイエンスショールーム (1階 70.72 m<sup>2</sup>)

科学の不思議を間近に見て楽しむことができる、空中でぐるぐる回る風船、はずむシャボン玉などのサイエンスショーを実施している。その他の時間は、来館者の休憩スペースとして開放している。(左:写真)

⑤ 実験工作室 (1階 116.64 m<sup>2</sup>)

自分の手で実際に体験してもらうため、土日祝日や夏休み等長期休みに化石発掘体験や化石レプリカづくり、万華鏡づくりなど様々なワークショップを実施しているほか、主に団体来館を対象に様々な科学体験を提供している。(右:写真)



⑥ 情報研修室 (1階 91.80 m<sup>2</sup>)

※貸室(有料、事前予約制)

パソコンが16台設置されており、パソコン講座や研修会などに利用できる。(右:写真)



⑦ メディアホール (1階 145.80 m<sup>2</sup>)

※貸室(有料、事前予約制)

定員63名のホール。会議、講演会などに利用できる。(左:写真)

⑧ 科学ひろば (3階 160.76 m<sup>2</sup>)

展示エリアであり、特別展や企画展などの展示テーマに関連する様々な企画展示や、最新の科学研究を紹介する企画展示を開催している。(右:写真)



⑨ 常設展示室(3階 500.15 m<sup>2</sup>)※有料スペース

地球・海の歴史や、主に海での生きものの移り変わりを知ることができる。宇宙からやってきた巨大な隕石や、5億2千万年前のアノマロカリスの化石、1億8千万年前のギョリュウ(ステノプテリギウス)の化石などが展示されている。

(左:写真)

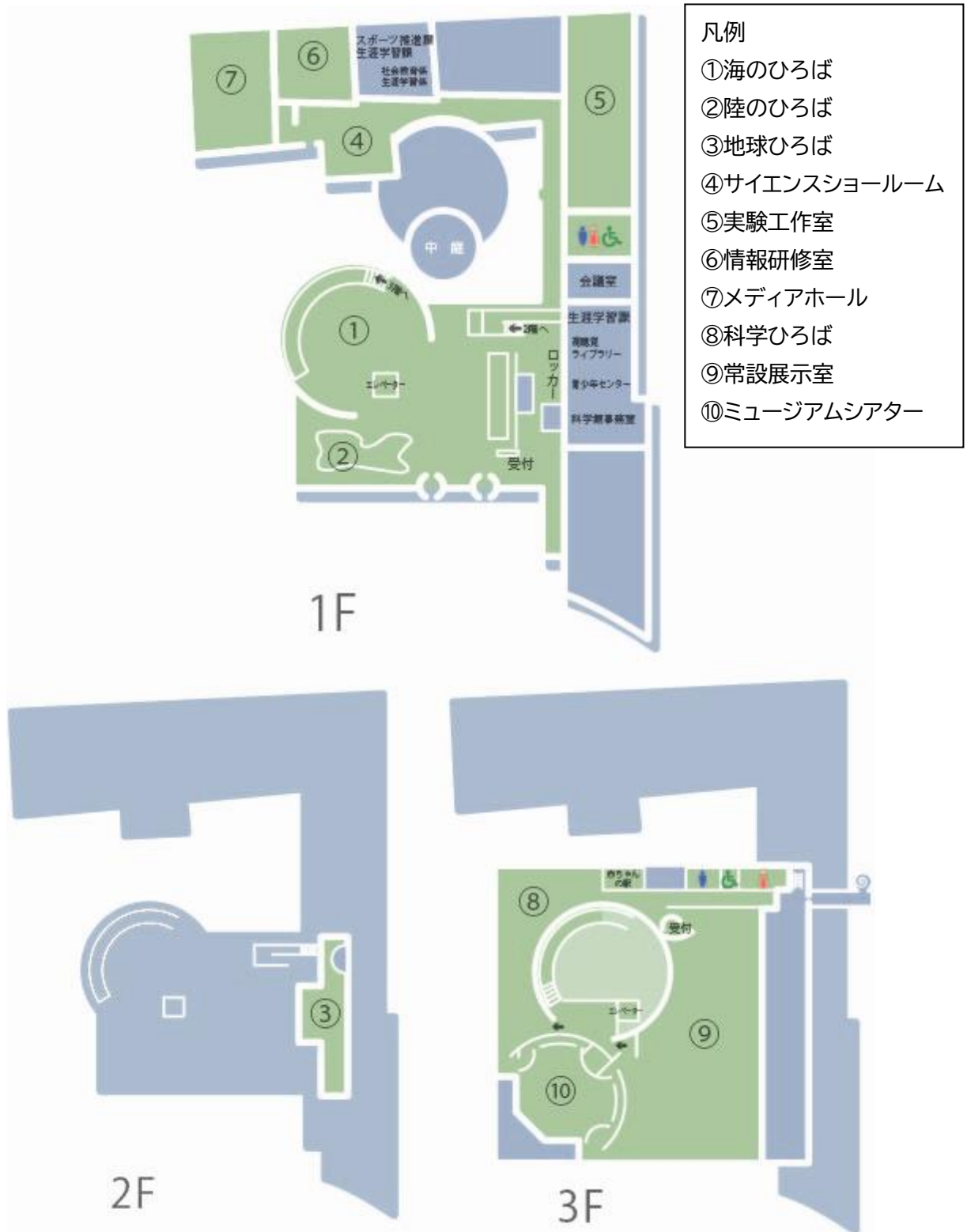
⑩ ミュージアムシアター(3階 156.63 m<sup>2</sup>)

※常設展示室内

30分程度の映像プログラムを各日2~3種類、1時間毎に上映しており、年間を通じて地球の歴史や現在の地球の様子を楽しく学習できる。



【科学館 平面図】



【各種ハザードに基づく施設等の状況】

生命の海科学館の立地場所においては、敷地及び建物の大部分が津波災害警戒区域(0.01～1.0m未満)、また敷地全域が高潮浸水想定区域(0.5～3m未満)に該当している。

## (2) 運営形態

平成11年度に蒲郡情報ネットワークセンター・生命の海科学館として運用が開始されたが、その后来館者数が減少に転じたことを受け、平成19年に“生命の海科学館見直し検討委員会準備会”が設置され、平成22年度から様々な改革が進められた<sup>\*5)</sup>。

平成27年度には蒲郡情報ネットワークセンターが廃止となり、生命の海科学館は教育委員会所管の社会教育施設となった。現在は科学に対する関心を深め、豊かな創造力及び研究心を養い、広く学習の場を提供することを目的とし、資料の収集、保管、調査研究及び展示や講演会の開催等を行っている。

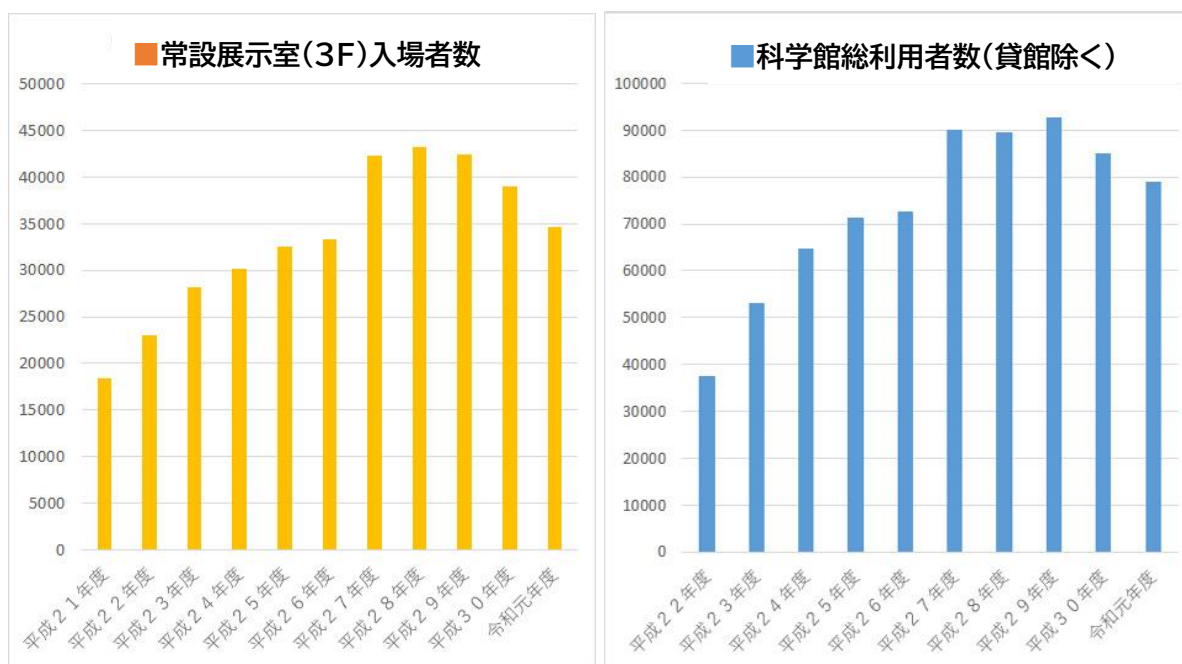


図)見直し検討以降の有料展示室入場者・科学館総利用者推移

※令和元年度:新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2月29日から3月末までイベント中止、3月2日から24日まで臨時閉館、2月27日から3月31日まで陸のひろばを閉鎖した影響で、来館者数が減少した。

## (3) 運営の特徴

現状の科学館の運営の特徴や強みについて、以下に整理する。

- 〔立地〕 蒲郡駅から徒歩3分であり、交通の利便性に恵まれた場所に立地している。
- 〔標本〕 大人も見ごたえ十分の価値ある標本<sup>\*5)</sup>を展示・収蔵している。中学校理科の教科書(啓林館)に写真が掲載されているインカクジラ化石をはじめ、教科書や副教材、図鑑等に掲載されている標本も多い。
- 〔体験〕 他では味わえない理科・科学の学び体験。化石や隕石に直接接触して学べる展示や、毎週土・日曜や祝日に開催しているワークショップ・サイエンスショー等が人気を博している(参照:第3章(2))
- 〔機能〕 要望に柔軟に応えられる小回りの良さ。学校等の要望に合わせて団体来館の対応内容のアレンジが可能である。

#### (4) 建物・設備面の状況と課題分析

##### ① 建物・敷地内設備

建設から20年以上が経ち、建物や内装の老朽化に対応するため、修繕や工事を順次実施している。近年では、展示エリア天井の全面的な雨漏り修繕(平成30年)、外壁の全面工事(令和元年)、海のひろばの吹き抜けホール天井の内装修繕(令和2年)を実施し、今後も空調機器や災害時対応のための非常用電源装置などの修繕等を順次実施すべきであり、引き続き長期的視野に立って計画的にメンテナンスを行っていく必要がある。

また平成21年度以降来館者数が大幅に増加しているが、駐車場の広さは変わっていない。後述の市民アンケート結果にも反映されているが、繁忙期には、駐車スペースが見つけれず入館を断念したり、イベント開始時間に間に合わなかったりする来館者が見られる。修繕だけでなく、来館者サービスのための基本的なインフラについても、計画的に整備を行う必要がある。

##### ② 展示

展示においては、平成21年度の“見直し検討委員会”の指針に則り、平成23年に1階の一部のリニューアルを実施、海のひろば、陸のひろば、実験工作室、サイエンスショールームを新設したほか、2階の地球ひろばの展示コーナーを拡張した。しかし、展示機能の軸である有料エリアの常設展示においては、開館当初から大きな変更は加えられていない。希少な標本の本質は変わらないが、この20年で新たな発見や重要な知見があり、更なる価値が付加されたものも少なくない。他方、科学技術の進歩に伴い展示手法や解説機器の進歩も目覚ましい。価値ある既存の標本を中心に、新しい展示手法を取り入れた全体的な展示更新が希求される。

なお、老朽化した展示解説機器の修理やメンテナンスを職員が担当しており、正常に稼働する状態を維持するための人的コストが高まっている。特に有料の常設展示室内では、隕石や化石などの標本以上に、展示機器の修理やパネルの修繕等、日々のメンテナンスに多くの時間の人工が費やされている。しかしながら展示の稼働率は100%に満たないのが現状である。

##### ③ 貸室

貸室である1階の情報研修室には16台のデスクトップコンピューターが設置され、利用者に供されている。徐々にスマートフォンやパソコンタブレットが主流の社会へと遷移する中で、利用者の固定化が進んでいる。

また、同じく貸室のメディアホールは、コンピューター制御の大型液晶プロジェクターやDVD上映機器、同時通訳機器など、開館当初には「メディア」機能として必要であったものが、時代の変化とともにその役割を終え、現在はメディア機器を伴わない会議室として貸出されている。

科学館にはこの貸室のほかに、多人数を収容できる部屋がなく、団体客の来館が重なると、平日でも実験工作室やサイエンスショールームがフル稼働となることから、貸室を団体対象のレクチャールームなどとしても活用している。

団体来館の増加や学校連携の推進に伴い、多人数が収容できる部屋の確保が急務であるため、貸館機能の必要性を含めて検討する必要がある。

#### (5) 運営に関する現状と課題

##### ① 一部有料の運営形態

生命の海科学館は3階の常設展示室・ミュージアムシアターのみ有料であるため、1階に総合受付、3階に展示室入室受付を設置している。現状ではその両者に受付担当スタッフを配置せざるを得ないことから、人的コスト高の一因となっている。

##### ② 教育活動

教育活動の参加者からは、幅広い年代層を対象とした教育活動や、更に学びを深めたい市民のための講座のほか、教育活動の補助としてのボランティア活動の機会など、「学び」を「自己実現」に結びつけるための実践の場が望まれているが、会場となるスペースの不足および運営側の人員不足から、実現困難な状況にある。

学校との連携においては、学校側の要望を理解した上でのきめ細やかな対応が求められるが、学芸員や、学校と科学館の橋渡しをする人材が不足しているため、十分に実現できていない。

また遠足や社会見学等の機会を活用した来館授業や、保育園や学校行事等への訪問活動への要望が多数あるが、受入のためのスペースの不足および対応の体制が整わないため、これらについても応えきれていないのが実情である。

### 第3章 生命の海科学館に求められる市民ニーズ

#### (1) 社会教育施設アンケート

市民ニーズを把握する一環として、下記のとおり市民アンケートを実施した。

調査対象者 : 蒲郡市民から 1,500 人を無作為抽出

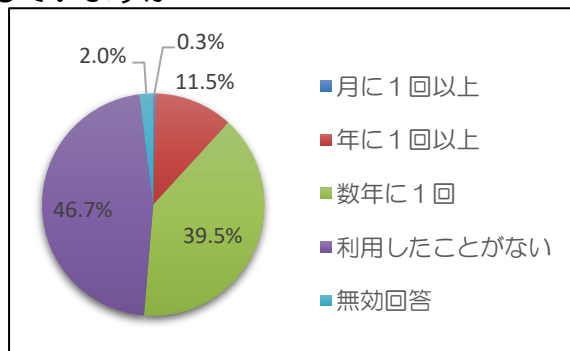
調査方法 : 郵送により調査票を送付

調査実施期間 : 令和 2 年 12 月 23 日から令和 3 年 1 月 14 日まで

回収人数及び回収率 : 602 人、40.1%

① あなたは生命の海科学館をどのくらい利用していますか

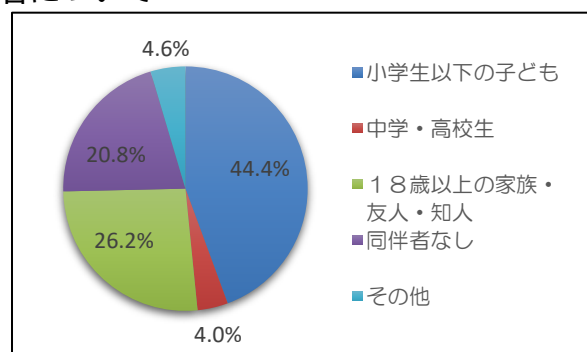
| 選択肢       | 集計  | %      |
|-----------|-----|--------|
| 月に1回以上    | 2   | 0.3%   |
| 年に1回以上    | 69  | 11.5%  |
| 数年に1回     | 238 | 39.5%  |
| 利用したことがない | 281 | 46.7%  |
| 無効回答      | 12  | 2.0%   |
| 総計        | 602 | 100.0% |



利用したことがある割合と利用したことがない割合が約半々になった。「利用したことがある」との回答の中でも年に1回以上利用するリピーターが1割、数年に1回の利用者が4割いる。

②あなたが生命の海科学館を利用する際の同伴者について

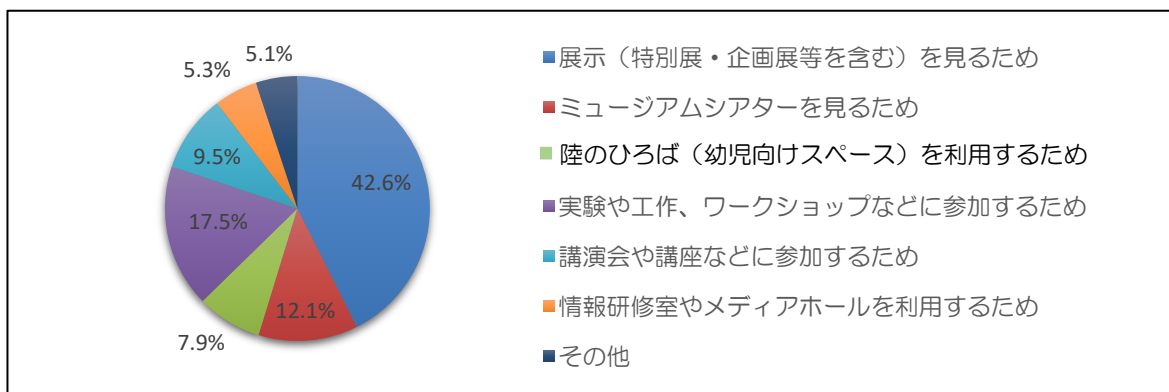
| 選択肢            | 集計  | %      |
|----------------|-----|--------|
| 小学生以下の子ども      | 154 | 44.4%  |
| 中学・高校生         | 14  | 4.0%   |
| 18歳以上の家族・友人・知人 | 91  | 26.2%  |
| 同伴者なし          | 72  | 20.8%  |
| その他            | 16  | 4.6%   |
| 総計             | 347 | 100.0% |



18歳未満の同伴者を含む層(子ども連れ)と含まない層(大人のみ)が半々となっている。子ども連れのファミリー層と同程度に、大人のみで訪れる個人やグループの来館者があることがわかる。

③あなたが生命の海科学館を利用した目的について

| 選択肢                    | 集計  | %      |
|------------------------|-----|--------|
| 展示(特別展・企画展等を含む)を見るため   | 193 | 42.6%  |
| ミュージアムシアターを見るため        | 55  | 12.1%  |
| 陸のひろば(幼児向けスペース)を利用するため | 36  | 7.9%   |
| 実験や工作、ワークショップなどに参加するため | 79  | 17.5%  |
| 講演会や講座などに参加するため        | 43  | 9.5%   |
| 情報研修室やメディアホールを利用するため   | 24  | 5.3%   |
| その他                    | 23  | 5.1%   |
| 総計                     | 453 | 100.0% |

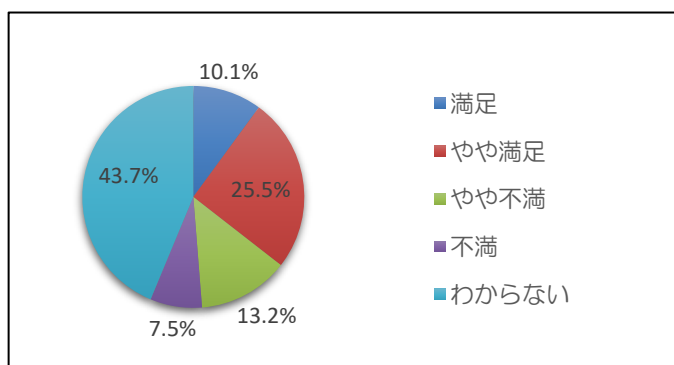


主目的は展示(特別展・企画展を含む)であり、次いで実験や工作、ワークショップなどの体験講座となっている。

#### ④生命の海科学館に対する満足度について

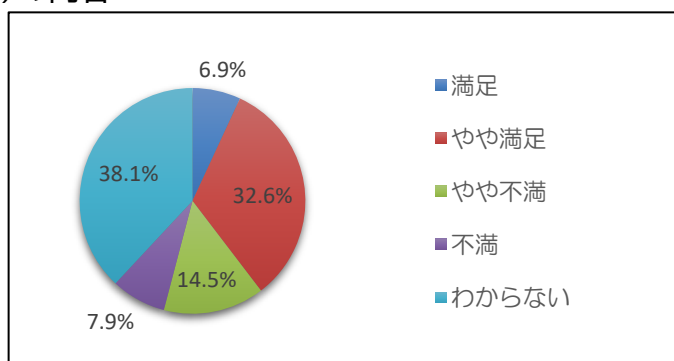
##### 1)施設の利用料金(展示室入場料、情報研修室・メディアホールの利用料)

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 32  | 10.1%  |
| やや満足  | 81  | 25.5%  |
| やや不満  | 42  | 13.2%  |
| 不満    | 24  | 7.5%   |
| わからない | 139 | 43.7%  |
| 総計    | 318 | 100.0% |



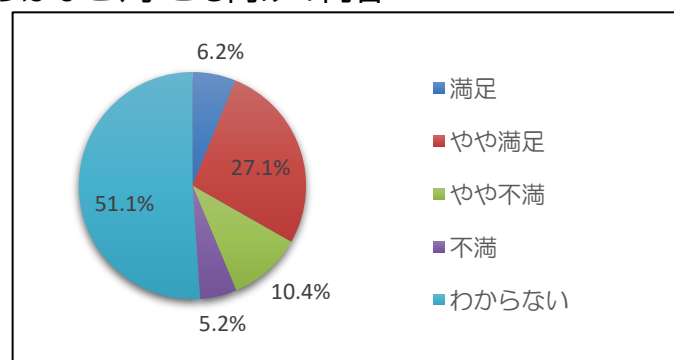
##### 2)展示(特別展・企画展等を含む)の内容

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 22  | 6.9%   |
| やや満足  | 104 | 32.6%  |
| やや不満  | 46  | 14.5%  |
| 不満    | 25  | 7.9%   |
| わからない | 121 | 38.1%  |
| 総計    | 318 | 100.0% |



##### 3)ミュージアムシアター、陸のひろばなど、子ども向けの内容

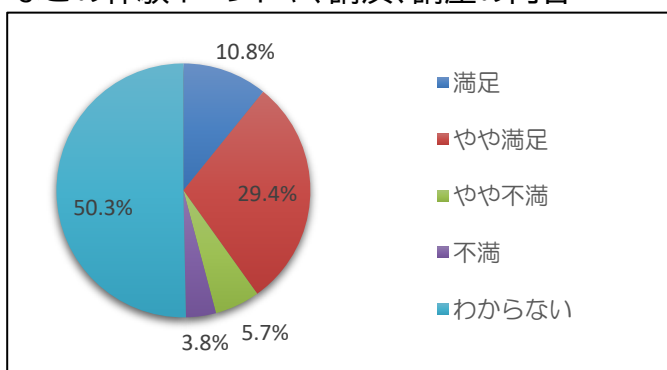
| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 20  | 6.2%   |
| やや満足  | 88  | 27.1%  |
| やや不満  | 34  | 10.4%  |
| 不満    | 17  | 5.2%   |
| わからない | 166 | 51.1%  |
| 総計    | 325 | 100.0% |





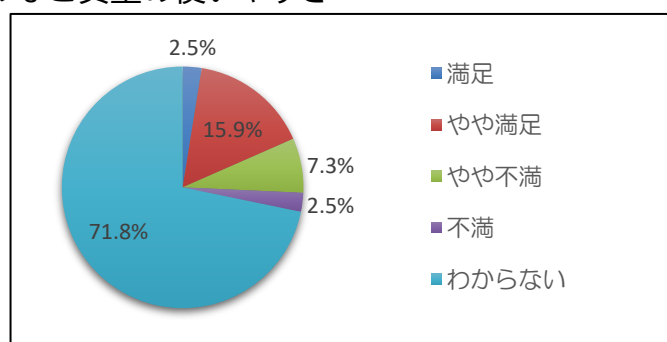
4)実験や工作、ワークショップなどの体験イベントや、講演、講座の内容

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 34  | 10.8%  |
| やや満足  | 92  | 29.4%  |
| やや不満  | 18  | 5.7%   |
| 不満    | 12  | 3.8%   |
| わからない | 158 | 50.3%  |
| 総計    | 314 | 100.0% |



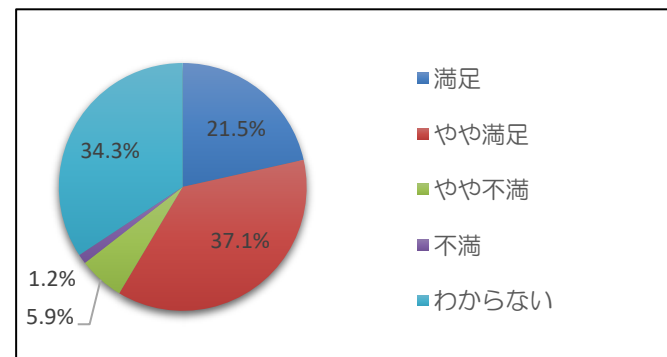
5)情報研修室・メディアホールなど貸室の使いやすさ

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 8   | 2.5%   |
| やや満足  | 50  | 15.9%  |
| やや不満  | 23  | 7.3%   |
| 不満    | 8   | 2.5%   |
| わからない | 226 | 71.8%  |
| 総計    | 315 | 100.0% |



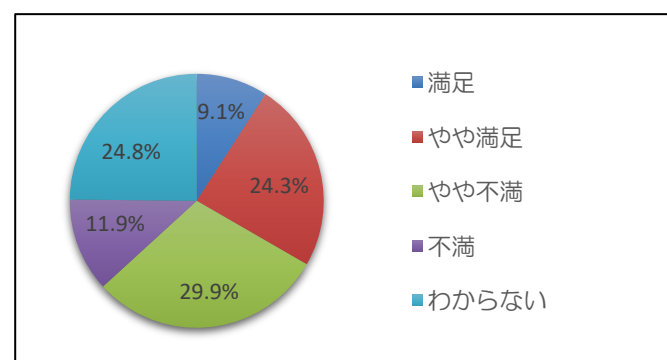
6)トイレの快適性・清潔感

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 69  | 21.5%  |
| やや満足  | 119 | 37.1%  |
| やや不満  | 19  | 5.9%   |
| 不満    | 4   | 1.2%   |
| わからない | 110 | 34.3%  |
| 総計    | 321 | 100.0% |



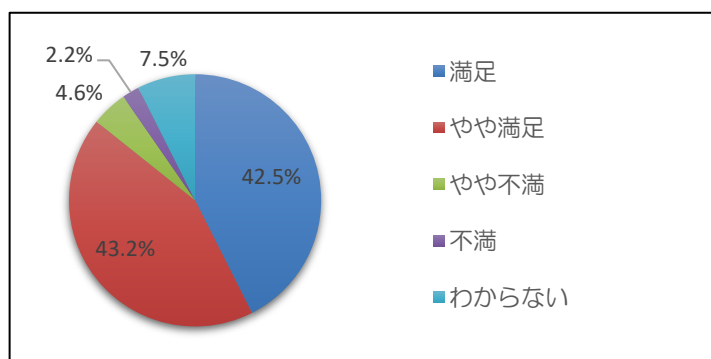
7)駐車場の広さ

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 29  | 9.1%   |
| やや満足  | 77  | 24.3%  |
| やや不満  | 95  | 29.9%  |
| 不満    | 38  | 11.9%  |
| わからない | 79  | 24.8%  |
| 総計    | 318 | 100.0% |



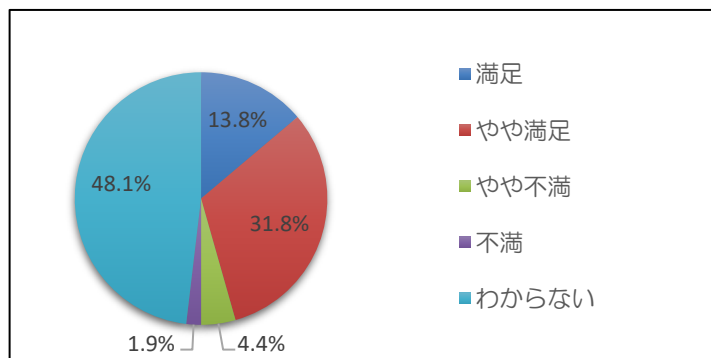
### 8)交通の便の良さ

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 137 | 42.5%  |
| やや満足  | 139 | 43.2%  |
| やや不満  | 15  | 4.6%   |
| 不満    | 7   | 2.2%   |
| わからない | 24  | 7.5%   |
| 総計    | 322 | 100.0% |



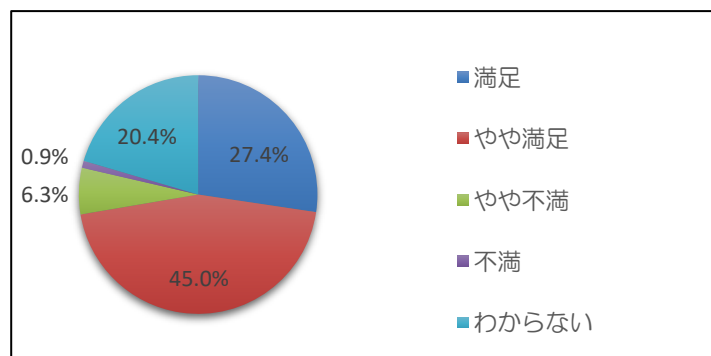
### 9)バリアフリー対応

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 44  | 13.8%  |
| やや満足  | 101 | 31.8%  |
| やや不満  | 14  | 4.4%   |
| 不満    | 6   | 1.9%   |
| わからない | 153 | 48.1%  |
| 総計    | 318 | 100.0% |



### 10)館内の明るさなどの雰囲気

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 87  | 27.4%  |
| やや満足  | 143 | 45.0%  |
| やや不満  | 20  | 6.3%   |
| 不満    | 3   | 0.9%   |
| わからない | 65  | 20.4%  |
| 総計    | 318 | 100.0% |



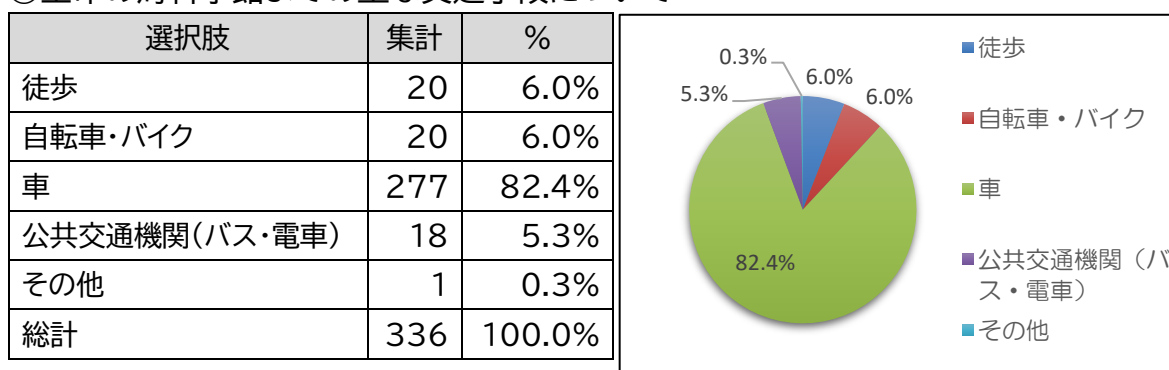
#### ④生命の海科学館に対する満足度について

満足度に関する全体的な傾向については、展示等の内容(ソフト面)についての満足度はおおむね高い水準であるといえるが、建物(ハード面)についての満足度はやや低い。

交通の便に関する項目では「満足」と「やや満足」を加えると 85.7%と 9 割近い高水準であり、蒲郡駅から徒歩 3 分という立地を反映している。一方で、駐車場については約 4 割が「不満・やや不満」と回答しており、改善が望まれている。

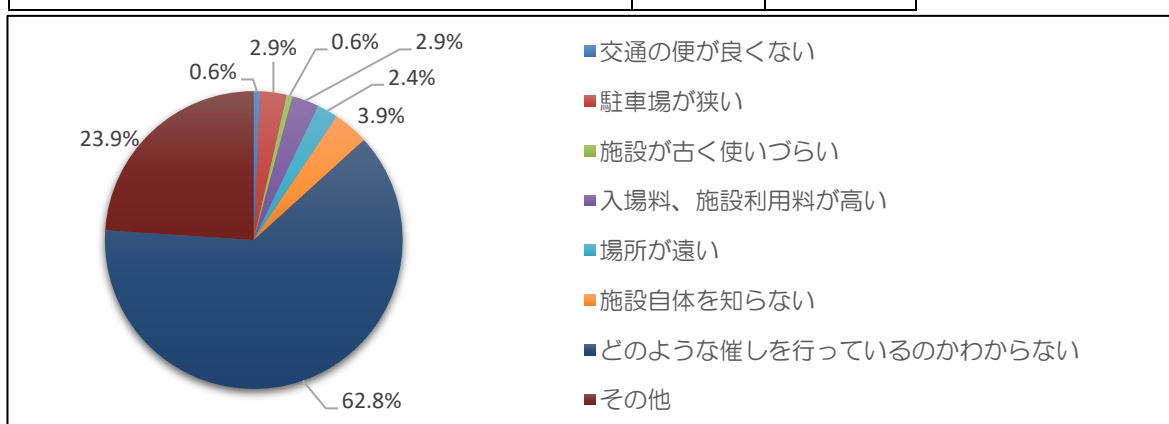
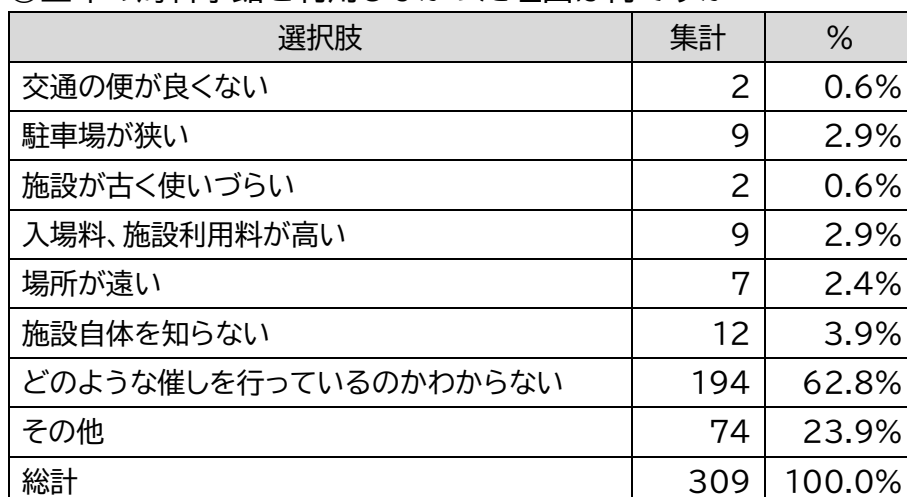
また、「わからない」といった回答も多く、施設の使い方や講座・ワークショップ等科学館で何をやっているか、といった情報が周知されていないと考えられる。

⑤生命の海科学館までの主な交通手段について



蒲郡駅から徒歩3分という立地であるにもかかわらず、車での交通手段が82.4%と多くを占めている。④の満足度調査で、駐車場の広さに「不満・やや不満」とする回答が4割を超える要因となっている。

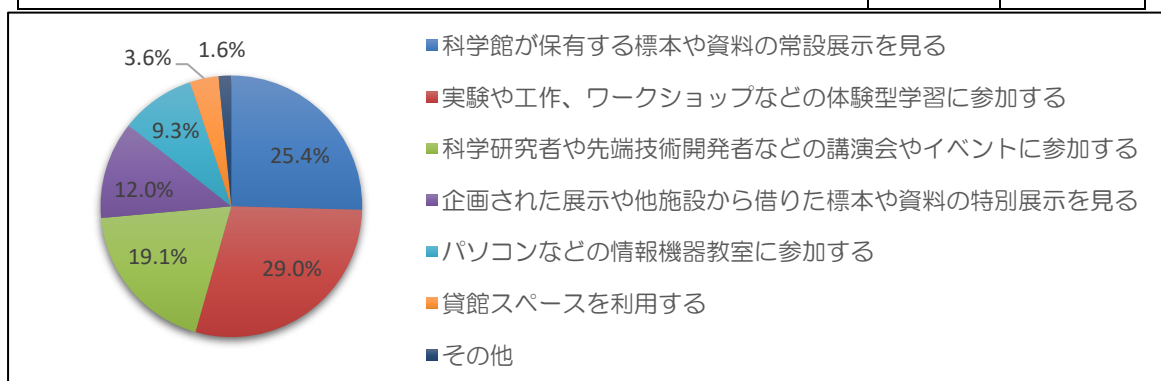
⑥生命の海科学館を利用しなかった理由は何ですか



「どのような催しを行っているのかわからない」が62.8%占めている。周知、情報発信の強化が必要と言える。

⑦あなたは生命の海科学館をどのように利用したいと思いますか

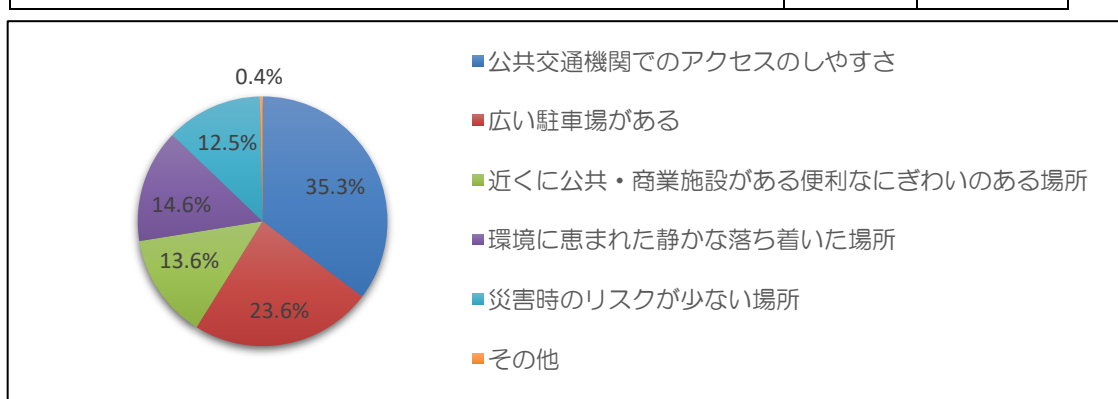
| 選択肢                           | 集計  | %      |
|-------------------------------|-----|--------|
| 科学館が保有する標本や資料の常設展示を見る         | 129 | 25.4%  |
| 実験や工作、ワークショップなどの体験型学習に参加する    | 147 | 29.0%  |
| 科学研究者や先端技術開発者などの講演会やイベントに参加する | 97  | 19.1%  |
| 企画された展示や他施設から借りた標本や資料の特別展示を見る | 61  | 12.0%  |
| パソコンなどの情報機器教室に参加する            | 47  | 9.3%   |
| 貸館スペースを利用する                   | 18  | 3.6%   |
| その他                           | 8   | 1.6%   |
| 総計                            | 507 | 100.0% |



常設と特別展示の観覧が約 4 割を占める。次いで体験型学習が 3 割、講演会等が 2 割となっている。利用者ニーズは多様化している。

⑧生命の海科学館の立地についてもっとも重要だと思う要件について

| 選択肢                       | 集計  | %      |
|---------------------------|-----|--------|
| 公共交通機関でのアクセスのしやすさ         | 195 | 35.3%  |
| 広い駐車場がある                  | 130 | 23.6%  |
| 近くに公共・商業施設がある便利なにぎわいのある場所 | 75  | 13.6%  |
| 環境に恵まれた静かな落ち着いた場所         | 81  | 14.6%  |
| 災害時のリスクが少ない場所             | 69  | 12.5%  |
| その他                       | 2   | 0.4%   |
| 総計                        | 552 | 100.0% |

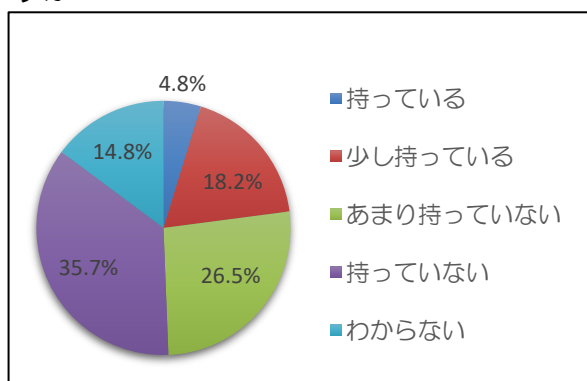


公共交通機関でのアクセスのしやすさをあげる回答が最も多く3割を超える。実際、生命の海科学館は蒲郡駅から徒歩3分と電車でのアクセスは非常に良く、④の8)でも交通の便に対する満足度は高い。しかし、⑤の回答では来館経験者の8割以上が交通手段は「車」と回答しており、約2割の回答者が「広い駐車場がある」ことが重要としている。④の7)の満足度の低さと関連していると思われる。

## ⑨生命の海科学館に対する気持ち

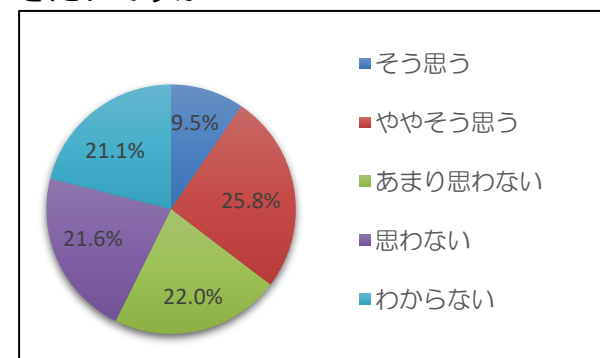
### 1)生命の海科学館に愛着を持っていますか

| 選択肢       | 集計  | %      |
|-----------|-----|--------|
| 持っている     | 27  | 4.8%   |
| 少し持っている   | 103 | 18.2%  |
| あまり持っていない | 150 | 26.5%  |
| 持っていない    | 203 | 35.7%  |
| わからない     | 84  | 14.8%  |
| 総計        | 567 | 100.0% |



### 2)生命の海科学館の今の姿を残していきたいですか

| 選択肢     | 集計  | %      |
|---------|-----|--------|
| そう思う    | 52  | 9.5%   |
| ややそう思う  | 141 | 25.8%  |
| あまり思わない | 120 | 22.0%  |
| 思わない    | 118 | 21.6%  |
| わからない   | 115 | 21.1%  |
| 総計      | 546 | 100.0% |



## 『アンケート結果から読み取れること』

アンケート結果全体から整理すると、年に1回以上利用するリピーターが約1割、数年に1回の利用者が4割程度いるが、その内訳は18歳未満の同伴者を含む層(子ども連れ)と含まない層(大人のみ)が半々となっている。来館の主目的は展示(特別展・企画展を含む)であり、次いで実験や工作、ワークショップなどの体験講座となっている。一方で、「利用したことがない」との回答が半数近くにのぼり、利用しなかった理由としてはその6割以上が「どのような催しを行っているのかわからない」と回答していることから、広報・周知の充実が望まれる。(アンケート①～③及び⑥より)

また、利用者・未利用者に関わらず今後「どのように利用したいか」の回答としては、「展示(常設展・特別展合わせて)を見る」が4割、次いで「実験や工作、ワークショップなどの体験型学習」が3割、「科学研究者や先端技術開発者などの講演会やイベントに参加する」が2割と、多様なニーズがあることから、広報・周知の充実を

推進する際は、展示・体験活動ともに幅広く行うことが効果的と思われる。(アンケート⑦より)

来館による体験(展示やシアター、体験イベントの内容)への満足度を問う項目においては「満足・やや満足」の割合が高いことから、広報・周知の際、まずは関心の低い層にどのように来館を促すかが課題として残る。(アンケート④2)、3)、4)より)

なお、科学館を利用する際の交通手段においては、車での来館が8割を超えている。関連する項目で「駐車場の広さ」についての「やや不満」と「不満」の回答を合わせると4割を超える。広報・周知により来館促進を図る場合には、改善が求められる点である。(アンケート④7)、⑤より)

## (2)市民・利用者のご意見(グループヒアリング)

市民・利用者の生命の海科学館に対するニーズ・想いを把握するため、「これからの社会教育施設について」をテーマにグループヒアリングを開催した。

### ① 開催概要

生命の海科学館をはじめ、図書館、市民会館、博物館を含む4つの社会教育施設についてどのような体験をしたいか、またどのような施設にしていきたいか、それを実現させるためのアイデアについて、参加者に対して、グループヒアリングを実施した。

日にち:令和3年8月28日(土)、29日(日) オンライン開催

参加グループ(人):公募グループ(20)・施設利用者グループ(30)、

若者議会(※)グループ(17)、中学・高校・大学生グループ(32)

※若者議会とは、蒲郡青年会議所のメンバーにより設立され、未来の蒲郡を担う若い世代がまちについて学び、語り、発信していく機会づくりを目的とし、若い世代の力を活かしまちづくり政策を検討していく機関

### ② ご意見(代表的なものを抜粋)

- ・開館当時よりも研究が進んで、名古屋大学と共同研究したり、教科書に載ったり、小・中学校への出前授業や出前講座なども積極的に展開している。(公募)
- ・今のワークショップは人気で、予約初日でもなかなか予約が取れないほど。(科学館利用者)
- ・蒲郡で最先端科学の講演会が聞けると素晴らしい。(科学館利用者)
- ・若い研究者(大学院生など)と中高生が交流できる講座があると良い。(科学館利用者)
- ・小学生向けの定例講座を続ける。関心のタネをまくために必要。(科学館利用者)
- ・科学館に楽しい思い出が沢山ある。(中学・高校・大学生)
- ・小学生の頃ワークショップによく行っていたが中学生になって行かなくなった。(中学・高校・大学生)

- ・科学館には、小さい子の若い親子が集まれる広場がある。一方、中高生は行かない。中高生や大人でも興味を引く内容が増えれば来るかもしれない。(中学・高校・大学生)
- ・夜間に行っていた成人向けプログラムが良かった。(科学館利用者)
- ・大人のための科学講座。大人向けイベントがあつていい。(科学館利用者)
- ・ワークショップは子どもや子連れ対象が多い。大人向けのワークショップで大人も楽しみたい。(科学館利用者)
- ・高校生向けのワークショップがあれば体験してみたい。(中学・高校・大学生)
- ・学校の学びの補完ができるサブ・スクールのような存在。学校は座学だけれど、科学館では実験や体験、科学者の目線から学べるといい。(若者議会)
- ・中学生が興味をひくように、学校の生物の授業で科学館に行く機会をつくる。(中学・高校・大学生)
- ・科学館にどんなものが展示されているかイメージが湧かない。(一般公募)
- ・展示物がたくさんあつて何を物語るのか分かりにくい。多様な視点でみることで同じものでも、物語るものが変わるので、見せ方を工夫すると良い。(一般公募)
- ・いつも新しい講座や体験が行われている印象が大切。(他施設利用者)
- ・ワークショップスペース、体験スペースがもっとほしい。(一般公募)
- ・3D、VR、AR、AIなど先端技術を使った科学体験ができるスペースがほしい。技術の進歩にあわせ、毎年のようにソフトを更新しないとすぐに陳腐になってしまう。(一般公募)

### ③ まとめ

#### ■科学館の展示や体験的学習、講座などの活動について

- ・既に科学館の様々な体験や講座は非常に人気であり、大学等と連携した展示や講演・講座、小中学校への出前講座授業など、積極的な活動が市民に認識されている。
- ・一方で、科学館の特徴や展示内容などは市民に知られていない。市民にもっと周知し、理解してもらう取組が求められている。
- ・展示内容については、解説方法を工夫した、多世代に分かりやすく魅力的な展示が望まれている。
- ・体験的な学習の機会(ワークショップやサイエンスショー等)の多くは小学生以下の子どもを対象としたもの。最先端の科学の講演会、講座、読書会などの、中高生以上の年代や大人も興味を抱くことのできる内容の教育活動が求められている。
- ・多世代が科学に関心を持つきっかけとなる活動や、そのための交流の場が求められている。

■**市民・地域に親しみを持たれる施設となるために**

- ・蒲郡の海や地質など実際の自然環境を活かして、蒲郡をもっと知る機会が求められている。
- ・学校とより連携し、科学館での実験や体験が、学校の学びを補完するサブ・スクールの役割を担うことが期待される。

■**施設の建物や空間、立地などについて**

- ・講座やイベントを活性化させるためには、より広いスペースと 3D、VRなど施設環境や先端設備機器が必要。

(3) 市民ニーズの分析・整理

～※(1)・(2)の結果・ご意見を踏まえた分析・整理～

来館経験のある市民の約半数が18歳未満の子ども同伴での来館であるが、残り半数は個人やグループでの大人だけでの来館である。グループヒアリングの結果からも、子どもから大人まで、幅広い年代層を対象とした教育活動が求められている。主に小学生以下を対象に実施している現在の体験的活動(ワークショップやサイエンスショー等)に対しての満足度は高いが、大人に対しては、最先端科学の講演会や講座などを中心とした広範な教育活動への要望が高く、一方中高生に対しては、学校教育との連携に対する期待が大きい。

来館の目的は、企画展や特別展を含む展示が主であり、次いで体験的学習(ワークショップやサイエンスショー等)、講演会や講座等である。子どもだけでなく大人も楽しむことができる、求心力のある魅力あふれる展示が求められている。加えて、蒲郡の自然や環境を扱った、市民に親しみやすい展示を求める声もある。体験的学習や講演会、講座等の活動に比べ、展示に関する広報・周知が不十分との現状認識から、科学館のテーマや特徴を前面に出した積極的な広報が求められている。

これらのニーズに応えるために、生命の海科学館には、“生命の海”を主軸とする自然科学にまつわる、様々な活動の幹としての機能が必要となる。市民と科学(者)、子どもたちと科学(者)、市民と市民、市民と観光客、科学者と科学者など、様々な連携活動の幹として機能し、その成果を蓄積・発信することにより、市民の求める“幅広い年代層に渡る社会教育”や“学校教育との連携”の成果、即ち地域全体での科学的教養や文化としての科学の醸成、学校教育の向上に貢献することがかなうと考えられるからである。



## 第4章 生命の海科学館の目指すべき姿

第2章での「生命の海科学館の現状・課題の整理」、第3章での「生命の海科学館に求められる市民ニーズ」の内容を踏まえ、生命の海科学館の目指すべき姿は、以下のとおりとする。

「“生命の海”を主軸とする自然科学をベースに、  
多世代にわたるすべての市民・利用者の、  
多様な活動の拠点となる科学館」

### 1 科学教育普及施設として(“生命の海”をメインテーマに)

子どもから大人まで、幅広い年代層の市民に対する社会教育の充実が求められている。そこで、“生命の海”をメインテーマに、ニーズに即した講演会や講座等の学習機会の提供や、外部機関との連携強化による最先端の情報を反映した、最新デジタル技術と教育との融合による求心力のある魅力ある展示を行う。

それにより、子どもたちだけでなく、中高生以上の年代や、大人にとっても魅力的な学びを得ることができる、展示や教育活動の充実した科学館を実現する。また展示テーマに関して、WEB やオンラインも活用した情報発信を通じて、来館者だけでなく広く市民と科学館の価値を共有する。

### 2 理科教育施設として

幅広い年代層に向けた教育活動が求められている。特に小・中学生や高校生に対しては、学校教育と連携した教育活動への期待が寄せられている。そこで、学校教育との連携に繋がる、主に理科・生活科の学びを意識した教育活動が充実した科学館を目指す。

学年やクラス単位での来館時に利用できるスペースを確保し、小・中学校との連携を推進する。理科・生活科や総合の来館授業に活用できる充実した展示、及びサブ・スクールとしての活用が可能な教育プログラムを提供する。さらには、学校教育と家庭学習の橋渡しとして、インタープリターとなる現役理科教員による教育活動の企画運営や児童・生徒の理科の家庭学習を支援、理科系のキャリア教育支援を行う。また高等学校や大学等との連携を推進し、教育から研究まで幅広い利用を実現する。

就学前児童に対しては、家庭学習支援として、親子理科教室等の活動、幼児を対象とした実物や体験を重視した展示、保護者を対象とした教育活動を提供する。

### 3 生涯学習・地域コミュニティの核となる施設として

大人を対象とした教育活動や、地域の自然や環境をテーマにした教育活動が求められている。社会人層を対象に、大学や研究機関との連携のもと、環境問題や最先端科学技術などに関する講演会や講座を開講する。また関心の高い地域の自然等を中心に、フィールドでの活動も含めた体験学習の機会を設ける。

さらには、関連した展示の充実を図り、学び手の交流スペースを確保し、自然科学を中心とした市民の自主的かつ多様な学習(文化活動・趣味・レクリエーション活動等)に対する活動支援を行う。このような展示や活動を通して、蒲郡市の自然・環境に関する資料や人的ネットワークを継続的に発展させていくことのできる、地域に根差した科学館をめざす。

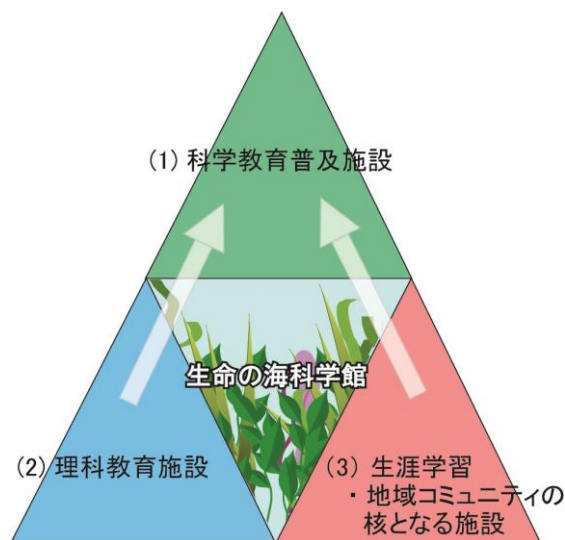


図) 科学館の3つの役割の関係性(概念図)  
 (2)の学校連携の成果、及び(3)の生涯学習・コミュニティの核となる施設としての活動の成果が、更なる深い学びを提供する(1)の活動を支えていく。

## 第5章 目指すべき姿の実現に向けて

### 1 “生命の海”に関する展示の充実

広く市民や観光客の興味関心を喚起し得る、魅力ある展示を実現することが必要となる。リピーター確保にもつながり、展示の教育効果を促進する効果も期待できる。そのために、大学や研究機関等学术界との連携を促進して3階常設展示室の更新を行い、希少な標本の数々と、3D、VR、AR、AIなど先端デジタル技術を使った展示解説の両立を図る。

### 2 講演会や講座、ワークショップなどの学習機会の充実

来館者の半数を占めるファミリー層から人気の高い、「ワークショップ」などの体験活動の一層の充実を図る。また残り半数を占める大人だけの個人やグループを対象とした体験講座についても、ニーズの把握に努め内容の多様化と充実を図る。

子どもたちを対象とした家庭学習支援のための体験学習プログラムの開発を行い、大人を対象とした科学的教養を高める講座なども企画・実施する。大学や研究機関等との連携により、社会人層からの要望の多い、地域の自然や最先端科学をテーマとした講演会や講座等を実施する。地域の自然や環境に関しては、科学館内に留まらず、フィールドなどに活動の場を広げていく。

### 3 学校教育との連携の促進

理科や総合の授業に活用できる展示やプログラムの充実を図り、学習指導要領に沿った展示見学ワークシート等の補助ツールを作成する。また教員研修プログラムを用意し、科学館の効果的な活用について、小中学校から高等学校まで広く周知する。

訪問授業やオンライン授業のプログラムを作成し、来館だけではない科学館の活用方法についても、学校との協働により開発を行っていく。

### 4 市民との連携・協働

科学館で学んだ市民が更に学びを深め、市民同士で知識や教養を交換できるような交流の機会を設定する。また、学びを自己実現につなげられるよう、ボランティア活動などの場を用意する。さらには、自然や環境に関する市民活動を支援できるよう、発表の機会を設定する。

### 5 スペースの確保

「2」及び「3」の活動促進のためには、多人数を収容して講義や体験活動を行うスペースを確保する必要がある。実験工作室とサイエンスショールームだけでは賄いきれないのが現状であり、貸館のメディアホールの活用もしくはそれに代わる空間の整備が求められる。また「4」の実現のためには、市民が滞留することのできる常設スペースが必要となる。

これらの空間や部屋の確保のため、館内レイアウトの再構成とスペース捻出の工夫が必要となる。

### 6 教育資源の充実

人的資源として、「1」・「2」及び「4」の中心的役割を担う正規学芸員の配置が希求される。また「3」を担う理科分野の現職教員の配置を行うなど、人的資源の充実が重要となる。その上で、大学や研究機関及び市民とのネットワークの充実、研究者ネットワークの更なる充実が求められ得る。

物的資源の充実としては、標本・資料の適切な整理、保管、補充を図る。そのためには、生命の海科学館の活動に関する調査研究を行い、効果的な活動を展開するための実践的研究とフィードバックを適宜行うことも必要となる。また上記を実施する上では、学芸員の育成環境の整備も急務といえる。

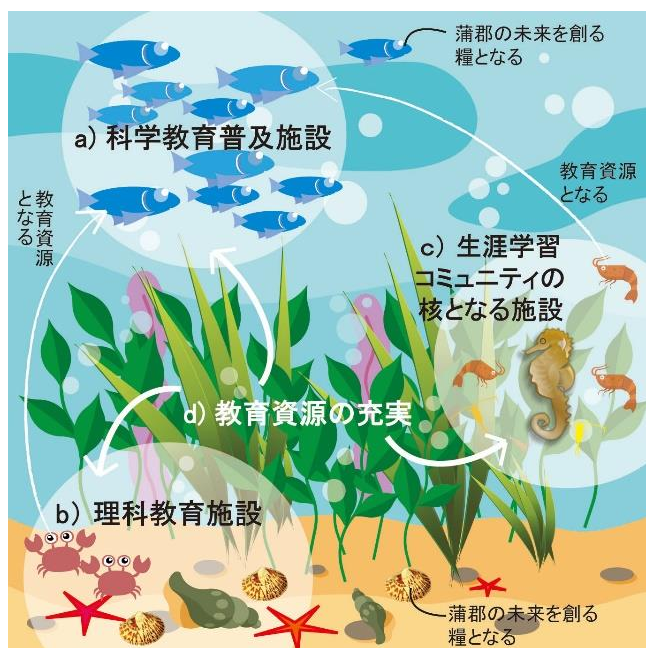


図) 生命の海科学館の活動のイメージ。

藻場の礎となる海藻や海草等の教育資源が豊かになると、「科学教育普及活動」「理科教育との連携」「生涯学習・コミュニティの活動」が豊かに実る。活動の成果は、ボランティアや市民講師などの人的教育資源となり、それぞれの活動を一層活性化する。

(参照)

- ※1)令和2年版科学技術白書, 文部科学省
- ※2)今後の科学コミュニケーションのあり方について, 文部科学省 科学技術社会連携委員会, 平成 31 年 2 月
- ※3)21 世紀の博物館・美術館のあるべき姿—博物館法の改正に向けて, 日本学術会議, 平成 29 年 7 月
- ※4)生命の海科学館の設置及び管理に関する条例, 蒲郡市, 平成 26 年 12 月
- ※5)平成 21 年 生命の海科学館実施計画策定委員会報告書, 生命の海科学館実施計画策定委員会, 平成 21 年 12 月





# IV 「博物館」 将来ビジョン

## 目 次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的        | 1  |
| 第2章 博物館の現状・課題の整理          |    |
| (1) 施設の概要                 | 2  |
| (2) 運営形態                  | 5  |
| (3) 運営の特徴                 | 5  |
| (4) 建物・設備面の状況と課題分析        | 5  |
| (5) 利用状況に関する現状と課題         | 6  |
| (6) 運営体制等に関する現状と課題        | 6  |
| 第3章 博物館に求められる市民ニーズ        |    |
| (1) 社会教育施設アンケート           | 7  |
| (2) 市民・利用者のご意見（グループヒアリング） | 12 |
| (3) 市民ニーズの分析・整理           | 14 |
| 第4章 博物館の「目指すべき姿」          | 16 |
| 第5章 目指すべき姿の実現に向けて         | 17 |

## 第1章 将来ビジョン策定の背景と目的

博物館は、昭和54年に蒲郡市郷土資料館として開館以降、西館増築やギャラリーの供用等を経て、平成元年に「蒲郡市博物館」と名称変更し、現在に至っている。施設については、耐震性能は比較的高い状況にあるものの、すでに開館から40年以上が経っていることから、老朽化が進んでいる設備も多くあり、これまで修繕を積み重ねながら運営しており、今後も適切な維持管理が必要である。

一方、博物館を取り巻く状況については、国は「新しい時代の博物館制度の在り方について(平成19年:文部科学省「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議)」では、これからの博物館は、「資料の収集や調査研究等の活動を一層充実させるとともに、多様化・高度化する学習者の知的欲求にこたえるべく、自主的な研究グループやボランティア活動などを通じて、学習者とのコミュニケーションを活性化していく必要がある」としている。

また、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて(平成22年:同上)」においては、電磁的記録の規定、社会教育の学習機会を利用して学習した成果の活用機会の提供、博物館における評価の実施や運営の改善に関する努力義務規定の新設、地域住民への情報提供等の新たに盛り込むべき内容と留意点が示された。

蒲郡市博物館においても、上記の指針等で示された内容を踏まえ、資料収集・調査研究を推進し、また市民・利用者とのコミュニケーションの活性化を目指し、様々な博物館活動を実施してきている。しかしながら現代社会においては、急激な技術革新に伴うDX(デジタルトランスフォーメーション)の広がりや、少子高齢化の進展、「人生100年時代」の到来に向けた社会の大きな変化等にも対応していかなければ、博物館は社会の変化とともに淘汰されかねない。

そこで、これからの社会状況を鑑み、市民ニーズを踏まえた「博物館」将来ビジョンを策定し、蒲郡市の博物館にとってふさわしい「目指すべき姿」を明らかにすることで、これからの将来を見据えた事業展開を実行していく方針をここに示す。



## 第2章 博物館の現状・課題の整理

### (1) 施設の概要

博物館は、収集・保管や展示等を通じて資料を一般の利用に供し、文化の発展に寄与するために設けられた社会教育施設である。

昭和54年に本館を建築、その後昭和63年に西館を増築(展示更新・ギャラリー供用開始)している。

博物館施設の機能は、大きく『展示』・『収蔵』・『調査研究』に分けられる。

#### 【展示】

- ① 特別展示室(198㎡)
  - ・年に3回程、企画展を開催
  - ・企画展の合間は室内を区切り、テーマを設けたコーナー展示等を開催
- ② 民俗展示室(162㎡)
  - ・常設展示
  - ・塩田や三河木綿資料をはじめ、蒲郡で使われてきた生活の道具を展示
- ③ 歴史展示室(137㎡)
  - ・常設展示。考古資料、文献資料等、蒲郡市誕生までの通史を紹介
- ④ ギャラリー(180㎡)
  - ・市民文化祭や蒲郡っ子作品展等、市民の作品発表の場として利用
  - ・博物館企画展の副会場としても使用
- ⑤ 1階エントランス等
  - ・季節ごとのイベントをはじめ、スタンプラリー等を開催
- ⑥ 2階ロビー等
  - ・漁具の常設展示、テーマを設けた通年コーナー展示等を開催
- ⑦ 屋外展示
  - ・蒸気機関車(D51 201)、客車(オハフ33 2424)
  - ・復元移築された馬乗2号墳他、市内各所に遺されていた道標等

#### 【収蔵】

- ① 第1収蔵庫(145㎡)・仮収蔵庫(119㎡)・博物館倉庫(20㎡)
  - ・主に民俗資料を収蔵
- ② 第2収蔵庫(52㎡)・第3収蔵庫(75㎡)・第4収蔵庫(71㎡)
  - ・主に文献資料や絵画資料を収蔵
- ③ 特別収蔵庫(46㎡)
  - ・最も外気の影響を受けにくい構造であり、特に貴重な資料を収蔵

#### 【調査研究】

- ① 研修室(76㎡)
  - ・講座や講演会の会場として利用
  - ・資料の調査や撮影、整理作業等としても使用

② 会議室(24㎡)

- ・博物館関連事業の会議や打ち合わせ、ギャラリー主催者控室として利用
- ・実習や整理作業場所としても使用



外観



特別展示室(企画展開催時)



民俗展示室



歴史展示室



ギャラリー(↑:未使用時、↓:使用時)



1階エントランス



2階ロビー  
漁具コーナー

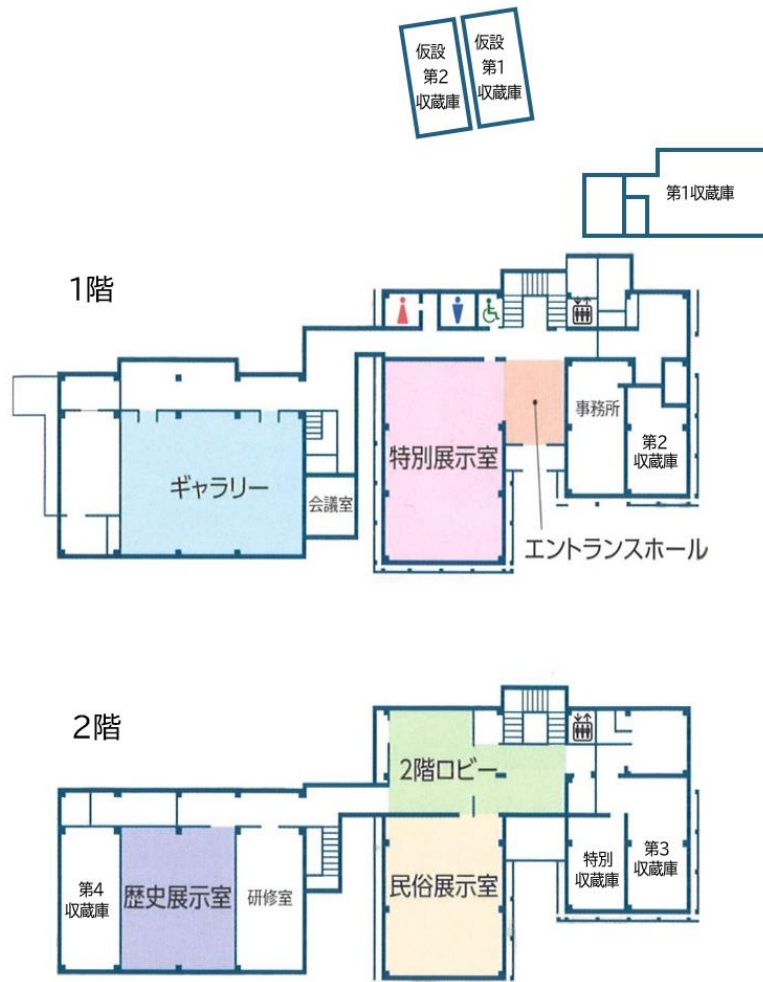


【博物館施設の現況(面積)】

|       | 構造       | 延床面積      | 竣工        |
|-------|----------|-----------|-----------|
| 本館    | 鉄筋2階建    | 1210.40㎡  | 昭和54年3月   |
|       | IS値(※)   | X方向       | 1階……1.31  |
|       |          | Y方向       | 1階……1.47  |
| 北棟    | 鉄骨平屋建    | 145.10㎡   | 昭和54年3月   |
| 西館    | 鉄筋・鉄骨2階建 | 848.30㎡   | 昭和62年8月   |
| 仮収蔵庫1 | 軽量鉄骨造    | 59.54㎡    | 平成13年2月   |
| 仮収蔵庫2 |          | 59.54㎡    | 平成14年8月   |
| 高麗門   | 木造       | 21.00㎡    | 平成3年12月移築 |
| 博物館倉庫 | 鉄骨造      | 20.52㎡    | 昭和61年1月   |
| 敷地面積  |          | 4,953.83㎡ |           |

※IS値とは、建物の耐震性能を表すための指標。IS値が0.6以上の建物であれば、震度約6～7程度の地震に対し、倒壊または崩壊する危険性が低いとされている。

【平面図】



【各種ハザードに基づく施設等の状況】

博物館の立地場所においては、敷地及び建物の一部が津波災害警戒区域(敷地: 0.01～1.0m未満、建物:0.01～0.3m未満)、また敷地全域が高潮浸水想定区域(0.5～3m未満)に該当している。

## (2) 運営形態

開館以来現在に至るまで、市直営で運営している。平成29年度に刈谷市がまとめた「博物館等施設の指定管理に関する調査」では、三河地区15自治体の過半数が「メリットが見出せない」として指定管理者制度を導入しておらず、学芸業務や資料管理を指定管理者が担っているのは1自治体のみである。学芸部門を正規採用し、市直営体制で運営することは人材の育成と定着に繋がる。また資料の寄託借用についても市直営のため成立しているといえる。

## (3) 運営の特徴

主な事業は下記のとおりで、「博物館事業」と「文化財保護行政」を兼ね備えているのが当館の特徴である。資料の収集・保管・展示を行う博物館事業と文化財保護行政は密接に関連しており、博物館一課で兼ねている現在の体制は効率がよいといえる。

### 【博物館事業】

- ① 郷土資料(考古、歴史、民俗及び美術工芸等)の収集・保管・調査研究
- ② 企画展・コーナー展示・季節イベント等の開催
- ③ 展示のための施設の提供

### 【文化財保護事業】

- ① 埋蔵文化財発掘調査の実施・遺物整理
- ② 防火診断・防火訓練・大クス保全作業等、文化財の保護及び活用

### 【共通する事業】

- ① 文化財を博物館で保管する寄託・借用制度の実施
- ② 定期講座・一般向け出前講座・学校向け出張講座等の開講
- ③ 図録・調査報告書・郷土読本等の刊行

## (4) 建物・設備面の状況と課題分析

博物館の本館は、外気の影響を受けにくい二重壁構造が特徴であり、展示・収蔵に適した環境管理のための専用設備が盛り込まれている。収蔵されている文化財等は、紫外線や寒暖差・温湿度差で劣化が進むものも多いため、環境変化の影響を極力抑える配慮が必要である。

建築から41年が経過しているが、平成29年度実施の耐震診断において本館建物のIS値は十分な値を示しており、耐震性は確保されている。ただし、開館以来未更新で老朽化が進んでいる設備もあり、施設運営に支障をきたさないよう適切な時期に更新・改修を行う必要がある。

現在の収蔵資料は、民俗資料約5,600件、歴史資料約4,400件、考古資料約8,000件、美術資料約400件である。資料寄贈の打診を受けることも多いが、積層棚の設置や収納方法の工夫等で収蔵能力を高める努力をしてもなお、余力の厳しい状態が続いている。

(5)利用状況に関する現状と課題

館内では、市民から寄贈された民俗資料、遺跡調査等の成果を整理した考古・歴史資料の常設展示のほか、年3回の企画展、テーマを設けたコーナー展示や季節イベント・講座等を開催している。平成30年度の入館者数は約35,000人であり、ギャラリー開催の相乗効果はあるが、歴史系の博物館類似施設の平均(※)を上回っている。なお、全体の入場者数については、工事による一時閉室やコロナ禍の影響による変動はあるものの、直近5年は緩やかな上昇傾向にある。

ギャラリーの利用については、児童生徒の学習成果や市民グループの作品発表の場として、開館週数のうち6割弱利用されているが、春季・秋季の週末の利用が多く12月はほぼ利用がない等、時季にやや偏りがある。利用件数には、文化協会所属団体や個人利用だけでなく、市の主催・共催による催事や、博物館企画展の第2会場・夏休みイベントの会場としての利用も多く含んでいる。そのため、使用料免除の件数が多く、使用料収入には結びついていない。

※平成30年度文部科学省社会教育調査：歴史博物館の種類別博物館類似施設数2,858館、同入館者数59,554千人、平均約21,000人

【博物館利用状況】

| 年度  | 開館日数 | 入館者数    | ギャラリー利用 |         | 備考                    |
|-----|------|---------|---------|---------|-----------------------|
|     |      |         | 件数      | 入場者数    |                       |
| H27 | 304日 | 31,188人 | 23(14)  | 12,174人 |                       |
| H28 | 299日 | 29,216人 | 24(15)  | 13,265人 | ギャラリー壁紙張替             |
| H29 | 299日 | 35,846人 | 25(17)  | 13,749人 | 特別展示室壁紙張替             |
| H30 | 299日 | 35,014人 | 27(19)  | 12,810人 |                       |
| R1  | 284日 | 32,623人 | 18(15)  | 12,926人 | 臨時休館<br>(R2.3.2~3.24) |

※ギャラリー利用件数欄の()内の数字は、市の主催・共催による使用料免除の件数

※令和元年度は新型コロナウイルス感染予防対策による臨時休館に伴い、ギャラリー利用も4件(うち2件は使用料免除)中止となった

(6)運営体制等に関する現状と課題

現在、常設展示の充実と併せて、企画展・イベント・講座等を通じて参加体験型の活動にも取り組んでいるところである。特に昔の遊び体験等は好評であるが、教育普及事業に要する人員が現状では不足しているため、要望に応えきれない面もある。期待されている役割・求められている機能等を把握し検討する必要がある。

### 第3章 博物館に求められる市民ニーズ

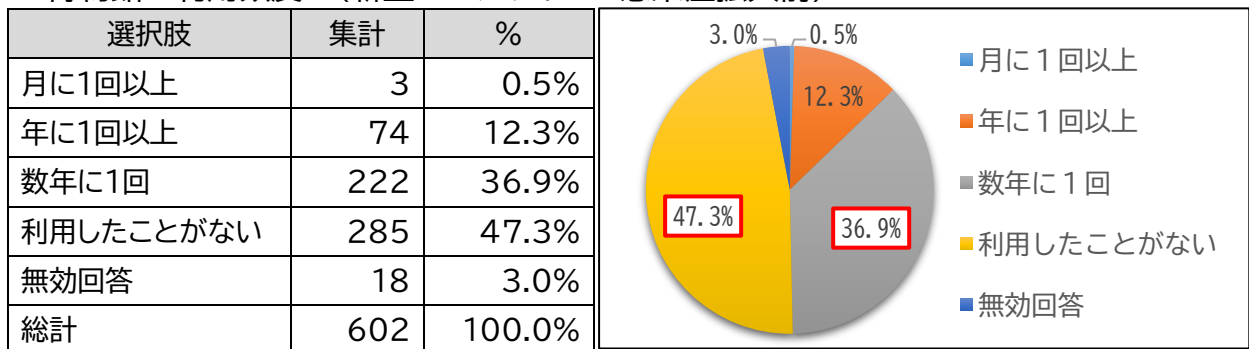
#### (1) 社会教育施設アンケート

市民ニーズを把握する一環として、下記のとおり市民アンケートを実施した。

調査対象者 蒲郡市民から1,500人を無作為抽出  
 調査方法 郵送により調査票を送付  
 調査実施期間 令和2年12月23日から令和3年1月14日まで  
 回収数及び率 602件、40.1%

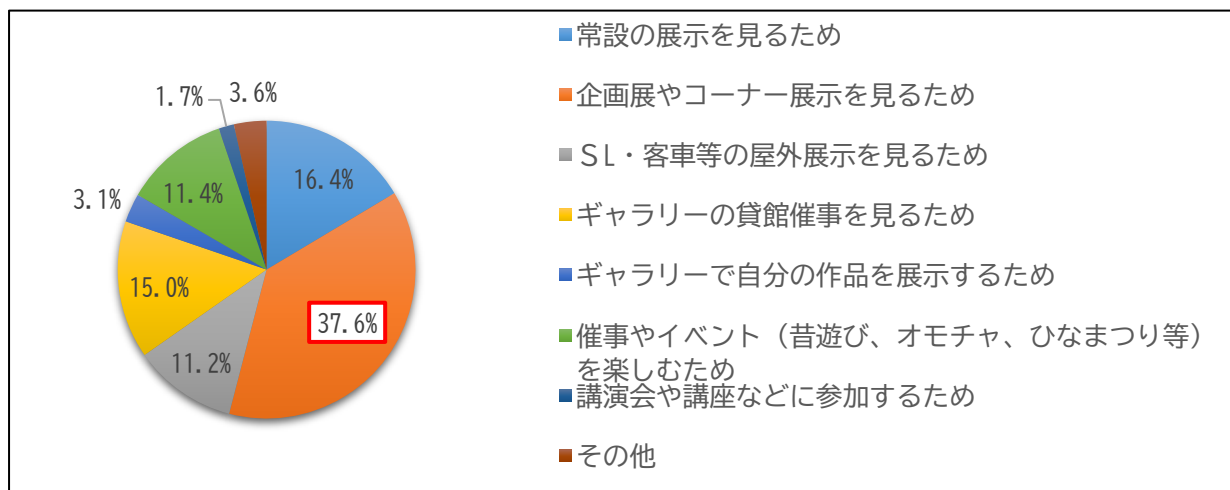
#### ① 博物館の利用状況に関すること

<博物館の利用頻度> (新型コロナウイルス感染症拡大前)



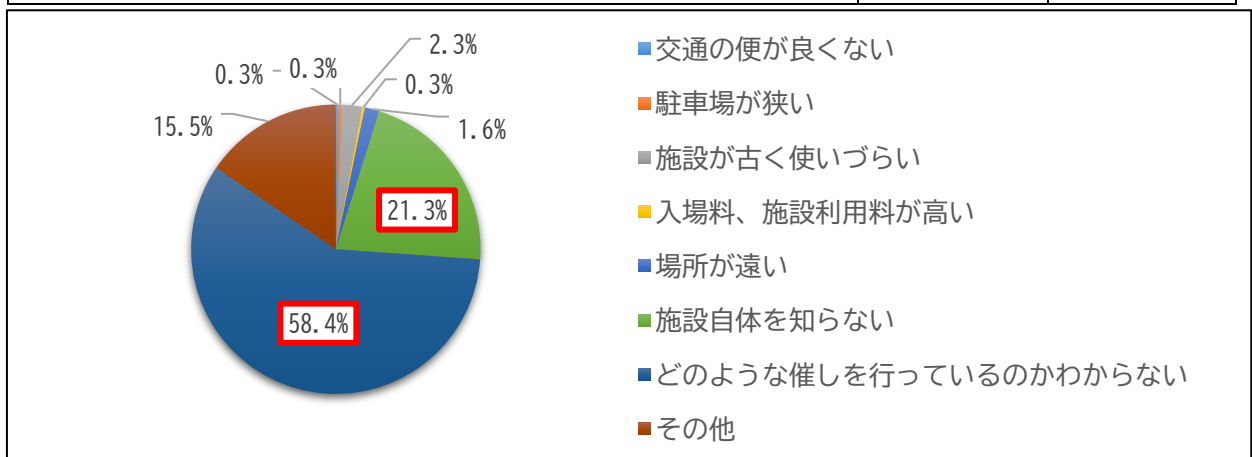
<博物館の利用目的> (複数選択可)

| 選択肢                            | 集計  | %      |
|--------------------------------|-----|--------|
| 常設の展示を見るため                     | 79  | 16.4%  |
| 企画展やコーナー展示を見るため                | 181 | 37.6%  |
| SL・客車等の屋外展示を見るため               | 54  | 11.2%  |
| ギャラリーの貸館催事を見るため                | 72  | 15.0%  |
| ギャラリーで自分の作品を展示するため             | 15  | 3.1%   |
| 催事やイベント(昔遊び、オモチャ、ひなまつり等)を楽しむため | 55  | 11.4%  |
| 講演会や講座などに参加するため                | 8   | 1.7%   |
| その他                            | 17  | 3.6%   |
| 総計                             | 481 | 100.0% |



<博物館を利用しなかった理由> (一つ選択)

| 選択肢                  | 集計  | %      |
|----------------------|-----|--------|
| 交通の便が良くない            | 1   | 0.3%   |
| 駐車場が狭い               | 1   | 0.3%   |
| 施設が古く使いづらい           | 7   | 2.3%   |
| 入場料、施設利用料が高い         | 1   | 0.3%   |
| 場所が遠い                | 5   | 1.6%   |
| 施設自体を知らない            | 66  | 21.3%  |
| どのような催しを行っているのかわからない | 181 | 58.4%  |
| その他                  | 48  | 15.5%  |
| 総計                   | 310 | 100.0% |



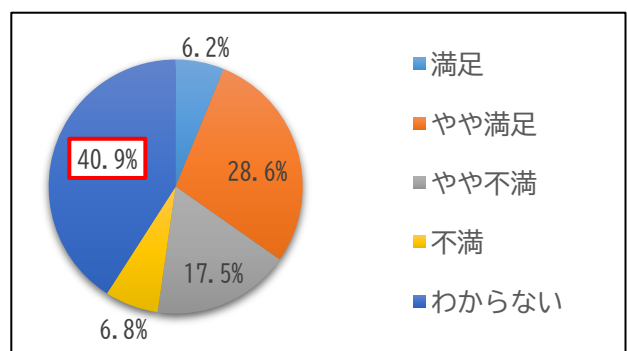
利用状況に関しては、回答者の47.3%が「利用したことがない」と回答し、その理由として、58.4%が「どのような催しを行っているのかわからない」、21.3%が「施設自体を知らない」としている。このことから、市民の認知度が低いことが分かる。

また、利用目的としては、企画展やコーナー展示が多く、次いで常設展示・ギャラリー催事が挙げられた。

② 利用に関する満足度について

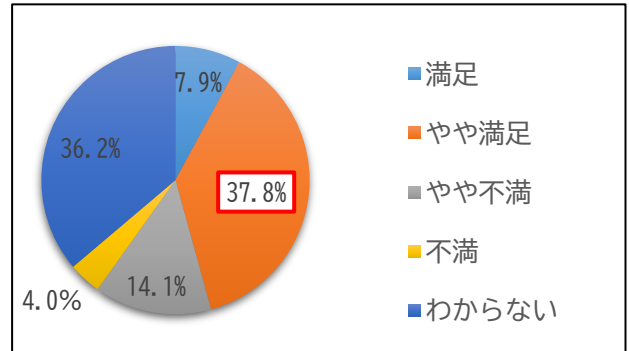
<常設展示の内容>

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 19  | 6.2%   |
| やや満足  | 88  | 28.6%  |
| やや不満  | 54  | 17.5%  |
| 不満    | 21  | 6.8%   |
| わからない | 126 | 40.9%  |
| 総計    | 308 | 100.0% |



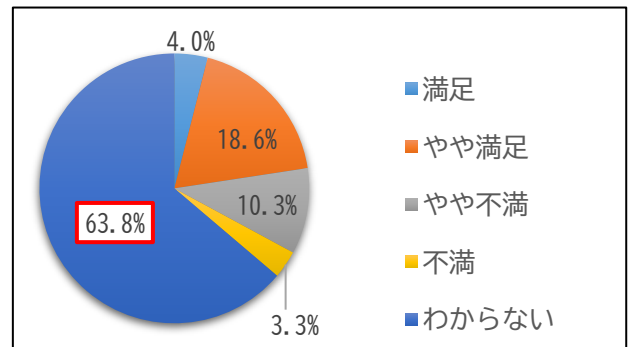
<企画展やコーナー展示の内容>

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 24  | 7.9%   |
| やや満足  | 115 | 37.8%  |
| やや不満  | 43  | 14.1%  |
| 不満    | 12  | 4.0%   |
| わからない | 110 | 36.2%  |
| 総計    | 304 | 100.0% |



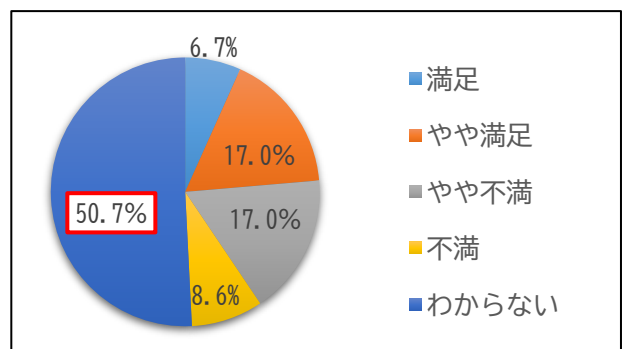
<イベント、講演会、講座の内容>

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 12  | 4.0%   |
| やや満足  | 56  | 18.6%  |
| やや不満  | 31  | 10.3%  |
| 不満    | 10  | 3.3%   |
| わからない | 192 | 63.8%  |
| 総計    | 301 | 100.0% |



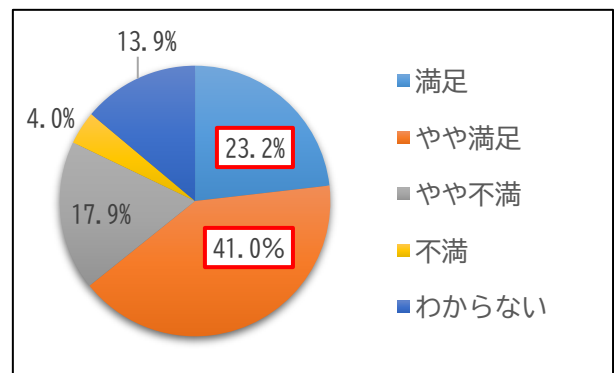
<トイレの快適性・清潔感>

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 21  | 6.7%   |
| やや満足  | 53  | 17.0%  |
| やや不満  | 53  | 17.0%  |
| 不満    | 27  | 8.6%   |
| わからない | 159 | 50.7%  |
| 総計    | 313 | 100.0% |



<駐車場の広さ>

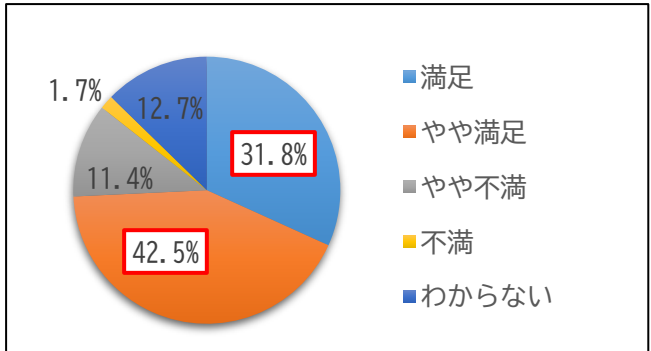
| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 70  | 23.2%  |
| やや満足  | 124 | 41.0%  |
| やや不満  | 54  | 17.9%  |
| 不満    | 12  | 4.0%   |
| わからない | 42  | 13.9%  |
| 総計    | 302 | 100.0% |





<交通の利便性>

| 選択肢   | 集計  | %      |
|-------|-----|--------|
| 満足    | 95  | 31.8%  |
| やや満足  | 127 | 42.5%  |
| やや不満  | 34  | 11.4%  |
| 不満    | 5   | 1.7%   |
| わからない | 38  | 12.7%  |
| 総計    | 299 | 100.0% |

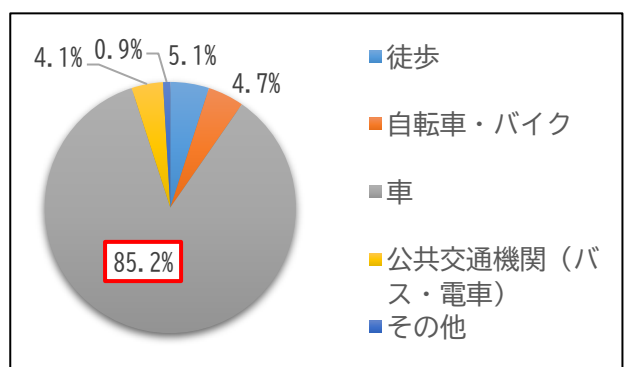


利用するうえでの「満足度」について、多くの項目においても、「わからない」が多数を占めている。利用者の中でも利用頻度によらつきがあるため、「わからない」が多いともいえるが、博物館についての市民の関心・周知が十分ではないといえる。  
 企画展やコーナー展示については、満足度は比較的高い水準にあるといえる。また、駐車場・交通の利便性については、満足度が非常に高いといえる。

③利用するうえでの条件に関することについて(交通手段・立地)

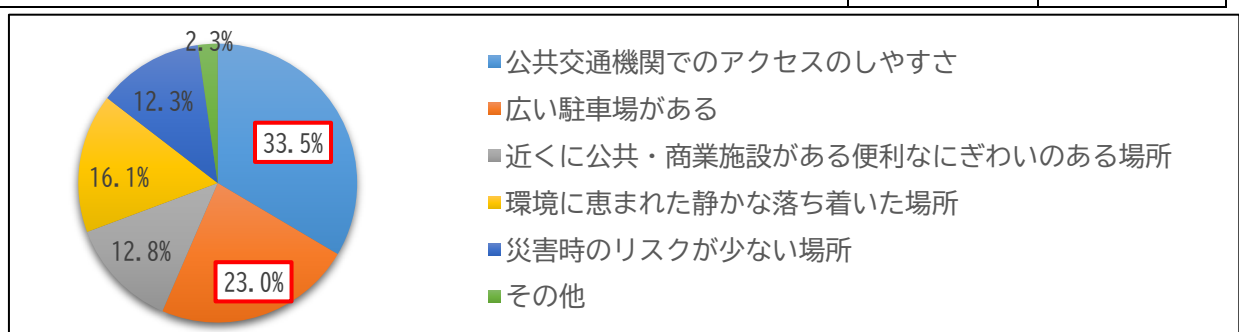
<博物館までの主な交通手段>

| 選択肢           | 集計  | %      |
|---------------|-----|--------|
| 徒歩            | 16  | 5.1%   |
| 自転車・バイク       | 15  | 4.7%   |
| 車             | 270 | 85.2%  |
| 公共交通機関(バス・電車) | 13  | 4.1%   |
| その他           | 3   | 0.9%   |
| 総計            | 317 | 100.0% |



<博物館の立地要件>(もっとも重要だと思うものを1つ選択)

| 選択肢                       | 集計  | %      |
|---------------------------|-----|--------|
| 公共交通機関でのアクセスのしやすさ         | 191 | 33.5%  |
| 広い駐車場がある                  | 131 | 23.0%  |
| 近くに公共・商業施設がある便利なにぎわいのある場所 | 73  | 12.8%  |
| 環境に恵まれた静かな落ち着いた場所         | 92  | 16.1%  |
| 災害時のリスクが少ない場所             | 70  | 12.3%  |
| その他                       | 13  | 2.3%   |
| 総計                        | 570 | 100.0% |

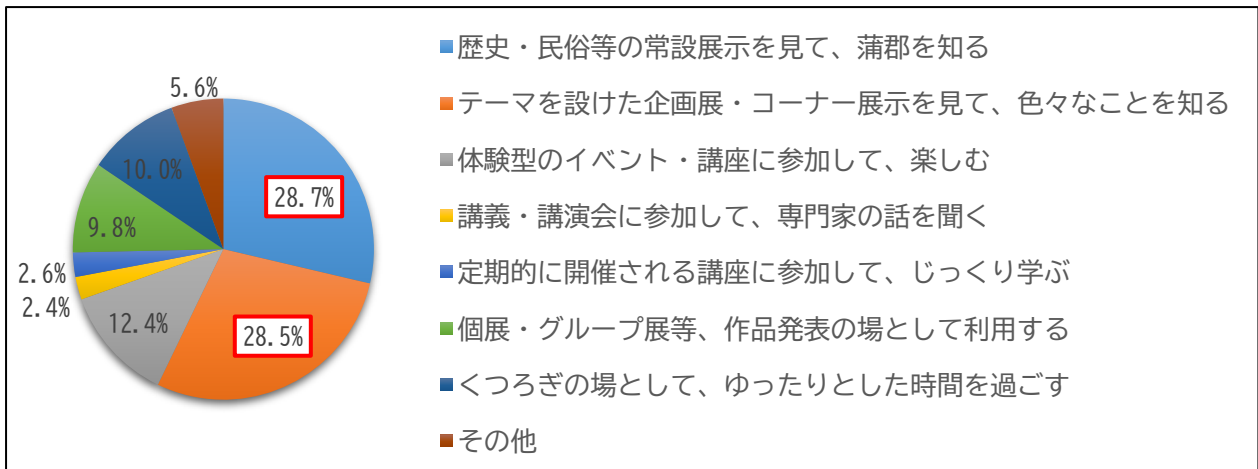


利用するうえでの、主な交通手段は、「車」が大半を占めている。また、立地条件においては、広い駐車場、アクセスのしやすさが重要視されている。  
これらについてはいずれも満足度が高く、条件が整っているといえる。

④今後の博物館に対するご意見について

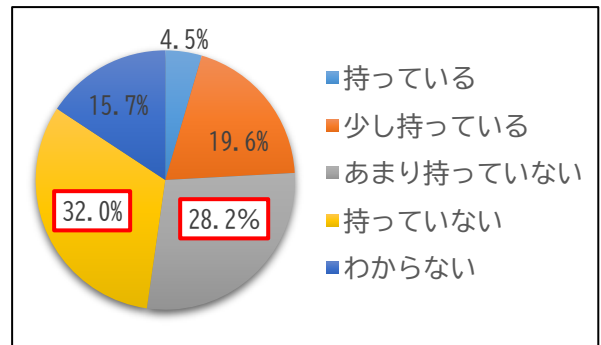
＜博物館をどのように利用したいか＞（もっともあてはまると思うものを1つ選択）

| 選択肢                           | 集計  | %      |
|-------------------------------|-----|--------|
| 歴史・民俗等の常設展示を見て、蒲郡を知る          | 164 | 28.7%  |
| テーマを設けた企画展・コーナー展示を見て、色々なことを知る | 163 | 28.5%  |
| 体験型のイベント・講座に参加して、楽しむ          | 71  | 12.4%  |
| 講義・講演会に参加して、専門家の話を聞く          | 14  | 2.4%   |
| 定期的に参加される講座に参加して、じっくり学ぶ       | 15  | 2.6%   |
| 個展・グループ展等、作品発表の場として利用する       | 56  | 9.8%   |
| くつろぎの場として、ゆったりとした時間を過ごす       | 57  | 10.0%  |
| その他                           | 32  | 5.6%   |
| 総計                            | 572 | 100.0% |



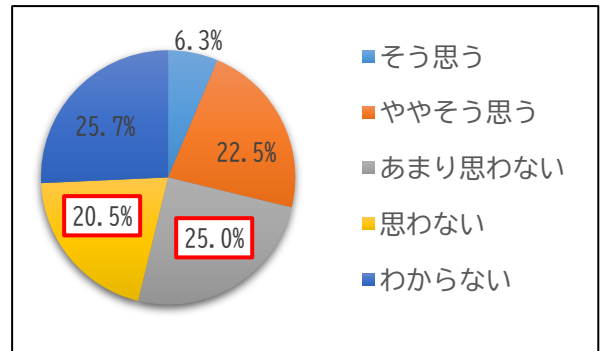
＜博物館への愛着＞

| 選択肢       | 集計  | %      |
|-----------|-----|--------|
| 持っている     | 26  | 4.5%   |
| 少し持っている   | 112 | 19.6%  |
| あまり持っていない | 161 | 28.2%  |
| 持っていない    | 183 | 32.0%  |
| わからない     | 90  | 15.7%  |
| 総計        | 572 | 100.0% |



<博物館の今の姿を残していきたいか>

| 選択肢     | 集計  | %      |
|---------|-----|--------|
| そう思う    | 35  | 6.3%   |
| ややそう思う  | 124 | 22.5%  |
| あまり思わない | 138 | 25.0%  |
| 思わない    | 113 | 20.5%  |
| わからない   | 142 | 25.7%  |
| 総計      | 552 | 100.0% |



今後の博物館に対する意見では、常設・企画の展示で「知る」ことが多いが、「体験型イベント・講座で楽しむ」「くつろぎの場としての利用」といった意見も多く、求められるニーズは多様化してきているといえる。

また、「愛着」・「博物館の今の姿を残したいか」を問う項目では、非常に厳しい結果になっている。この結果を重く受け止め、これからの博物館をどのようなものにするか、十分な検討が必要である。

(2)市民・利用者のご意見(グループヒアリング)

市民・利用者の市民会館に対するニーズ、想いを把握するため、『社会教育施設についてのグループヒアリング』を開催した。

① 開催概要

博物館をはじめ、図書館、市民会館、生命の海科学館を含む4つの社会教育施設についてどのような体験をしたいか、またどのような施設にしていきたいか、それを実現させるためのアイデアについて、参加者に対して、グループヒアリングを実施した。

日にち:令和3年8月28日(土)、29日(日) オンライン開催  
 参加グループ(人):公募グループ(20)・施設利用者グループ(30)、  
 若者議会(※)グループ(17)、中学・高校・大学生グループ(32)

※若者議会とは、蒲郡青年会議所のメンバーにより設立され、未来の蒲郡を担う若い世代がまちについて学び、語り、発信していく機会づくりを目的とし、若い世代の力を活かしまちづくり政策を検討していく機関

②ご意見

■利用実態や広報について

- ・博物館とはどのような施設で、どんな展示や催事があるのか全く知られていない。ホームページ・PR媒体等を工夫し、知ってもらうための検討・対策をすべきである。
- ・「蒲郡っ子作品展」「のびる子作品展」等の学校展示会で訪れる市民が多いのではないか。このような機会を利用して、博物館の展示を見ってもらうための仕組みや展示内容の検討をすべきではないか。

### ■「施設の立地や空間、設備」等に関する、利用向上のための方策

- ・場所が分かりにくく、また外観は暗く、重たい雰囲気が入りにくい。看板や案内を整備するとともに、花壇や絵等で雰囲気を明るく・オープンにするべきである。
- ・利用しやすくするために、ワークショップができるオープンスペース、またそれに伴う電源やWi-Fi等ネット環境、プロジェクター貸出等の新しい設備機能を充実させてほしい。
- ・疑似空間体験(VR)や携帯アプリ等を活用することで、展示解説や映像展示等を行い、より理解を深める。
- ・カフェなど飲食に関する機能を設置すれば、もっと明るく開放的な雰囲気となり、利用がしやすくなる。

### ■「展示内容や講座」等に関する、利用向上のための方策

- ・蒲郡市の歴史や自然などの地域に根差したことについて、もっと興味をもって学べる場所にするための工夫をしてほしい。
- ・展示するだけでなく、様々な「体験」・「講座」を通じて、楽しく興味や実感をもって学ぶことができるとうい。(昔の道具を使う、展示関連のものを作る、昔の衣裳を着て記念撮影する等)
- ・謎解きゲーム、城下町ごっこ、ミニチュアワールド、博物館バックヤード体験など、今までにないような様々な体験イベントで盛り上げるのはどうか。
- ・博物館は美術館の役割を果たしている側面もある。美術の展示機能をより強化していくことが、利用向上につながるのではないか。
- ・校外学習で訪れる等、学校の授業と連携し、実物展示や様々な体験によって児童生徒の学びをサポートすることで、興味関心を高め、より深い学びに導くことができる。
- ・蒸気機関車D51の展示は、市民の印象に残るシンボルになる。メンテナンスへの参加や、様々な講座や体験に使うなど、様々な活用の可能性がある。
- ・過去の歴史だけでなく、現代や未来に向けたテーマの展示や企画を博物館でやるのも面白い。

### ■これからの博物館について

- ・他の施設や機能との複合化・連携を図って、利便性を向上させる。
- ・これからの博物館は、近未来の暮らしや子どもの未来に向けた施設にするのもよい。
- ・古い文化財の収集と同時に、まだ使える不用品のリサイクルやシェアリング(貸し借り)の拠点にして環境に役立ち、古い民具を認知症予防に活用すれば、福祉にも役立つ施設になる可能性がある。

### (3) 市民ニーズの分析・整理

#### ■ 周知手段の検討

市民アンケートの結果から、市民の47.3%は博物館を利用したことがなく、その内の21.3%は博物館自体を知らず、58.4%は博物館があることは知っていてもどのような催しを行っているのかわからないと回答している。

同アンケートの自由記述でも、「全く情報が入ってこない。もっとアピールが必要」「各施設のイベント状況の発信や利用状態等広く広報して欲しい」「情報を得やすいとよい」等の意見・要望が寄せられている。企画展等で実施した博物館来館者アンケートでも「他から借りたものが並ぶときはもっとPRをしてほしい」「せっかくよい展示をしているので、もっとアピールしたほうがよい」等、PRが足りない点を指摘されている。

また、グループヒアリングにおいては、「蒲郡っ子作品展」「のびる子作品展」や蒸気機関車D51についてはある程度認識されており、その上での提案が寄せられた。一方で、「美術館機能」「SLボランティア活動」「小中学校の作品展示」について全く知らないことがうかがえる意見も見受けられた。

グループヒアリングでは「紙を配っても見ない」「広報がまごおり以外の媒体でも知らせる方法があるとよい」との声が寄せられた。今回の市民アンケートでは、催事情報の入手手段に関する設問が省かれているため、これまで情報が伝達されていない層に対してどのような媒体によるPRが効果的かという考察は難しい。地元に着した内容の企画展で実施した博物館来館者アンケートでは、広報がまごおりや知人からの口コミにより広まり、リピーターを生み出している傾向があったので参考にしていきたい。今後のアンケート実施時には催事情報の入手手段等の設問を設けて年代別に分析するなどし、現在行っている手法以外についても対応を検討していくべきであると考えます。

#### ■ 企画展・常設展示の魅力の向上と体験・講座を通じた学びの機会の提供

市民アンケートでもグループヒアリングでも「蒲郡をもっと知る場所になると良い」という意見が寄せられた。蒲郡についての知識を得られる施設として、市民や観光客に興味をもってもらうために、どのように魅力を向上していけるかが課題である。

令和元年度に開催した愛知県の移動美術館事業の来場者アンケートでは、次回開催を期待する多くの声が寄せられ、美術系展示に対する関心の高さがうかがえた。グループヒアリングでも「美術展示機能の強化が利用向上につながるのではないか」という意見が出されている。

様々な体験をしたいというご意見は、グループヒアリングにおいて特に強く寄せられた。博物館では、数年前から「ひなまつり着付け体験」「子ども駅員の制服・制帽記念撮影」(現在はコロナ禍のため休止中)、企画展の内容をもとにしたクイズ、夏休み・正月の遊び体験コーナー、かぶとやうちわ、たこ等の工作イベント、土器に触れる考古学講座といった様々な体験イベントや講座を実施しているが、まだ浸透するまでには至っていない。既に行っているもののPRに加え、新たな試みの実施についても検討する必要がある。

### ■ 「くつろぎの場」としての快適性

市民アンケートからは、博物館を展示や体験の場だけでなく「くつろぎの場」としても利用したいこと、立地環境としては「にぎわいのある場所」よりも「静かな落ち着いた場所」を望んでいることがうかがえる。グループヒアリングにおいては、博物館入口までの導線における「ウェルカム感」の演出や、館内の雰囲気の高さを求める意見が寄せられた。

施設の快適性を求める声は、ハード面において一層顕著である。市民アンケートの記述回答では、博物館のみならずどの施設も「全体的に古い」「トイレが不満」「暗い」「オシャレではない」と評価されており、公共施設に「居心地の良さ」「市民が楽しめる施設」という要素が求められていることがうかがえる。

### ■ 行き来しやすい利便性

駐車場・交通の便については満足度が高い。市民会館に隣接しており駐車場が広いことから、殆どが「車」で来館しており、以下「徒歩」「自転車・バイク」と続く。公共交通機関(バス・電車)は4.1%に留まっているが、市民アンケートの記述回答には「公共交通機関で行けないから車で行くしかない」という消極的な車利用者の声もある。

現在の博物館の立地は、鉄道でのアクセス・駐車場・近隣のにぎわい等については、市民が重要だと考える要件をほぼ満たしている。

## 第4章 博物館の「目指すべき姿」

第2章での「博物館の現状・課題の整理」、第3章での「博物館に求められる市民ニーズ」の内容を踏まえ、博物館の目指すべき姿は、以下のとおりとする。

「温故知新(ふるきをたずねてあたらしきをしる)」  
 体験を通して、蒲郡の歴史と文化を市民が身近に感じる  
 『明るく楽しい博物館』

### ■ 蒲郡を「知る」施設 — 過去から現在までを学ぶ博物館

市民・来館者が抱いている蒲郡の歴史や文化への興味・関心を把握し、資料の収集・保管・調査研究等の蓄積を活かした魅力ある企画展・常設展示や体験イベント・講座を提供する。文化財や郷土の偉人について掘り下げて紹介する取組を継続し、郷土愛が育まれる土壌を作る。

### ■ 蒲郡を「遺す」施設 — 現在から未来に文化を伝える博物館

現在まで遺る貴重な資料を散逸させることなく次世代へ守り伝えていくためには、文化財保護事業への地域の理解と協力が不可欠である。「今」もやがては「歴史」になることをふまえ、地域との繋がりを深め、蒲郡に伝わる文化を「財(たから)」として遺し、未来へと繋ぐ。

### ■ 蒲郡を「広める」施設 — 市民と繋がる博物館

これまで十分に伝達できていなかった層への情報発信方法を検討し、市民・利用者への広報の強化を図る。

歴史資料の現物の保管に力を入れるとともに、市内で失われつつある風景や人々の営み等をアーカイブ化するなどDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を行うことで、博物館が存在意義を発揮し、来館者の視野を広げ、新たな知的欲求に応えるという循環を形成できれば、更なる発展が見込まれる。

また市民と繋がるために、他施設が持つ機能との連携を視野に入れ、様々な手段・方法で利用者の拡大を目指す。

## 第5章 目指すべき姿の実現に向けて

### (1)郷土愛の醸成と文化財保護

展示・講座等を通じて、市民が民具の使い方・古文書の読み解き方を知ることは、先人の追体験であり、新たな知見を得て郷土愛が深まるきっかけとなる。その機会を市民に提供し、地域の共有財産として活用していくことは、博物館の重要な役割のひとつであると考えられる。企画展開催と並行して近年注力している「昔の遊び」「ひな人形展示」等の季節のイベントは、祖父母・親世代が自身の体験を子・孫世代に語り伝える好機であり、思い出が重なっていくことで博物館への親しみも醸成される。各分野から蒲郡ならではの題材を取り上げて、幅広い年代層に興味を持って足を運んでもらえるような展示・イベントを企画し市民がふるさとに誇りが持てるよう愛郷心を培っていく。

漁業・三河木綿・塩田・祭礼等の民俗資料、現在まで遺る城跡・遺跡や文献資料は、地域の先人からの遺産である。博物館の常設展示資料は殆どが無償で寄贈されたものであり、金銭に換算できないからこそ、公が管理を行う必要がある。文化財を保護し、収集・保管する博物館はその拠点であるため、適切な維持管理に努める。

### (2)企画展の充実とギャラリーの活用

市民アンケートでも、企画展やコーナー展示は主な来館動機である。「魅力的な展示内容」であることは大前提だが、単に展示物を見るだけではなく「もっと詳しい話を聴きたい」「展示資料に触ってみたい」「今までにないような体験イベントで盛り上げてほしい」等、一歩踏み込んだ体験が望まれている。

企画展の充実は、当館において近年特に注力している。市民や来館者の興味・関心を把握し、時事や節目にも柔軟に対応した企画立案を実施する。また、調査・研究にも重きを置き、松平氏・鶴殿氏らの旧領地等全国各地に保管されている資料の掘り起こしを図って企画展の質を向上したり、蒲郡の魅力の再発見に繋がるような関連講座等を実施したりすることで、より深く知りたい市民に向けた学びの機会を設けていく。市内の他施設・団体や県内の博物館・美術館と連携してイベントコラボ等も実施し、施設の魅力を強化する。

博物館は条例で特別な企画による展示を除き観覧無料と定められており、施設の利用料金についての満足度は高い。博物館の企画展開催期間に並行してギャラリー催事を充てることで相乗効果が生まれ、来館者や作品発表利用者の増加へと繋げられるので、児童生徒や市民の作品発表の場として幅広く利用してもらい、各世代が気軽に訪れる場とする。

ギャラリー利用が少ない時季については、広報に案内を掲載して利用を促す他、自館イベントの開催、広い場所を必要とする資料整理作業に充てる等、有効に活用する。

### (3)学校教育との連携

博物館を訪れて学芸員の説明を聴きながら資料を見る団体見学は以前から受け入れているが全ての学校が来館するのは困難であるため、近年は学芸員が学校へ資料を持参する出張講座も実施しており、実物資料を目の当たりにすることで、教科書の学習単元の理解がより深まると同時に、子どもの頃から博物館との関わりを持つことができる。前述の



活動を発展させて、児童生徒が自ら学んだ成果を博物館で発表展示した事例もあり、学校と地域と博物館を繋げる場となっている。今後も学習单元と地域学習を絡めた新たな講座メニューの追加や、Zoom等を利用した出張講座等、紙上だけでは伝わりづらい情報について自ら体験できる機会を設けていく。

また、平成19年度以降、時代・テーマごとに郷土の歴史をまとめた副読本「図説がまごの歴史」を毎年小学校6年生に配布し、地域学習の教材となる情報を提供している。これをテキストとした授業や課題へのサポートを実施し、郷土への興味に応える。

児童生徒の図画工作・美術作品等を展示する「蒲郡っ子作品展」「のびる子作品展」は、家族とともに博物館を訪れる機会となっており、そこから常設展示や企画展への関心を広げていけるように努める。

学習单元以外の関わりとしては、生徒・教職員の職場体験や、地元出身学生の学芸員資格取得のための博物館実習等がある。これらを積極的に受け入れ、博物館活動に親しみ文化財に関心を持つ人材の育成を支援する。

#### (4) 広報・情報発信の強化、提供方法の多様化 ～博物館DX～

市民アンケートから、これまで行ってきた広報やチラシ・ポスター、無料マガジン等の紙媒体、ウェブサイトやメール等のネット媒体からのPRでは、「博物館の存在を知らない層」「どのような催しを行っているのかわからないから足を運ぶ機会がなかった層」には情報が届かないことが分かった。

幅広い世代へ向けて数多く情報の種を蒔いて興味を芽吹かせ、現在情報が届いている層からも更に枝葉を広げるために、展覧会告知サイトやSNS等の新たな情報伝達手段を実施し、周知を図る。

また、歴史資料のデジタルアーカイブ化等、提供方法の多様化を推進することで、博物館を身近に感じていない市民に、博物館の魅力をアピールする。

#### (5) 親しみやすい、空間形成と機能連携

建物については「暗い」という印象を持たれがちなので、外壁修繕の際には落ち着いた色調のある明るい色調を選択肢とする。ファミリー層や愛好家からは「機関車D51がある場所」として認識されており、写真撮影をしている姿をよく見かけるが、SLだけを見て帰ることもあるため、玄関先にデジタルサイネージを設置してPRする等、駐車場から機関車D51までの空間を再考し、博物館催事に興味を抱かせるような工夫が必要である。

エントランスや歴史展示室に設置されている地図模型の更新時には新技術を取り入れた来館者の興味を惹くようなコンテンツとする。いつでも気軽に立ち寄り知識を得られるよう、引き続き観覧無料を原則とし、「市民が身近に感じる学び舎」となる博物館をめざす。

また、多くの市民が集う図書館や市民会館などの社会教育施設で、博物館への来館の動機づけとなるような出張展示等を開催するなど、他の施設機能との連携を図り、市民から親しまれる取組を実施する。





---

---

## 社会教育4施設のあり方

発行・編集 蒲郡市教育委員会

「図書館」将来ビジョン … 庶務課

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号

TEL : 0533-66-1166(直通) FAX : 0533-66-1184

「市民会館」将来ビジョン … 生涯学習課

〒443-0034 愛知県蒲郡市港町 17 番 17 号

(蒲郡市生命の海科学館内)

TEL : 0533-66-1167(直通) FAX : 0533-66-1199

「生命の海科学館」将来ビジョン … 生涯学習課

〒443-0034 愛知県蒲郡市港町 17 番 17 号

TEL : 0533-66-1717(直通) FAX : 0533-66-1817

「博物館」将来ビジョン … 博物館

〒443-0035 愛知県蒲郡市栄町 10 番 22 号

TEL : 0533-68-1881(直通) FAX : 0533-68-1880

---

---